

336
129



始



5.7.24

336

129

法學博士
早稻田大學
教授

田中穗積序
青柳篤恒序
大山嘉藏著

支那國債と列強

東京文影堂書店

336-129



支那國債と列強

法學博士
早稻田大學
教授

田中穂積序
青柳篤恒序
大山嘉藏著

東京文影堂書店

大正
1.11.27.
内交

序

東西古今の歴史を通観するに 財政堅實にして國運の衰頽せるものなきが如く 財政紊亂して國運獨り伸張せる事例なし 即ち之れを史蹟に徴し 財政の弛張が國運の隆替を決する事實を顧るに於ては 支那財政の紊亂殆んど其極度に達せるは深憂す可き現象にして 國民經濟の困憊今日の如く 又國家的觀念の缺乏現時の如くんば 是れを基礎とする財政が岌々乎として危き 砂上の樓閣と擇ふ所なき知る可きのみ。

支那國運の前途に關しては 從來樂觀悲觀二様の觀察あり 前者は支那を以て眠れる獅子となし 彼羅馬帝國に先立つ數千年前に起り 而して數千年後の今日尙ほ依然として一大國家を爲す支那民族は 潜在せる遺傳及能力の卓越せるものあ

るに基せずんばならず 故に一度び覺醒して蹶起せば其前途
の活躍豫測す可からずとなすに反し 後者は支那を以て強弩
の末魯縞を旁たずとなし 糞土の墻は塗る可からず朽木は彫
る可からずとせば 支那の革新は畢竟百年河清を待つ愚た
るを免れずとせり。

觀察の相違如斯柄鑿相容れずと雖も 其孰れか肯綮に當れる
を問はず 苟くも支那の前途を論するもの必ず先づ國運消長
の鍵鑰たる財政の歸趣を明かにするにあらんずば 所謂群盲
象を評するの陋に陥るを免れず 大山嘉藏君曩年早稻田の學
園に經濟財政の學を修め 業を卒へて遠く北清に遊び 親し
く支那國運の消長を究め財政の真相を詳かにし 其研鑽の餘
に成れる公債始末を公刊せらるゝは 洵に時宜に適せる快舉

にして 從來邦人の手に成れる支那研究資料は甚だ乏しく
地理上境を接し而かも同文同種最も密通の關係あるに拘はら
ず 歐米人の著述に俟つにあらざれば 支那の事情を知るこ
と能はざるが如きは 豈啻に痛恨事のみと云はんや 寧ろ邦
人の一大恥辱たるを免れず 然るに支那問題が今正さに眼頭
世界の懸案として 更らに新たなる研究を要するの時に當り
此絶好の研究資料を得たるは 邦人の名譽の爲めに將た又我
對清政策の經綸の爲めに 深く大山君の勞を多とし之れを感
謝せざるを得ず 余は不幸にして未だ本書の内容を詳かにせ
ざるも 同君の學才に信賴し 敢て本書を江湖諸君子に推薦
せんと欲す。

大正元年晚秋

田中穂積誌

序

誰か謂ふ 支那は支那人の支那と。惟ふに支那は實に吾人亞細亞人の支那のみ。支那の瓜分に對して權利の主張すべきもの若し之れ有らば支那の保全に關して義務の負擔すべきもの若し之れ有らば 共に亞細亞人全體の事なり 支那人のみ之れが解決に就て云爲するを許すべきに非ざるなり。苟くも亞細亞人にして支那の安危に關し之れが干涉論議を試む 是れ亞細亞人當然の權義のみ 豈に惟り閑人のおせつかいのみなりと謂はむや。

革命を経たる後の支那は いよ／＼ のるかそるか土團場に立てり。支那將來の安危を卜知するの關鍵を求めば固より多岐なり。而かも吾人は 殊に其財政上の危機を慮ばかる。

就中外債に對する國家の破産を怕る。東西の史乘を通觀するに 外債に因りて國を興せるもの固より之れ有り 外債に因りて國を滅ぼせるもの亦た之れ有り。之を利用すれば國以て興り 之を害用すれば國即ち滅ぶ。支那を救ふものは外債なり 支那を滅ぼすもの亦外債なり。借問す 支那は外債を利用して 東洋の米國たり 伊太利たるを得る乎。抑も又 外債を濫用して 極東の土耳其たり 東洋の埃及たり モロツコたり チュニスたるなきを得る乎。

大山嘉藏君は 我が稻門新進の秀才なり。曩に三井物産會社の命を奉じて笈を禹域に負ふ。燕に在るの間 専心思を支那財政の局に潜め 殊に 支那國債と列強の活動とに就て研鑽すること尤も深し。旋ち 病を以て辭して東に歸るや 此

書を物して之を公にせんとし 來つて之れが序を余に求む。余受けて之を讀むに 先づ確實精密なる資料に因りて 中央及び地方の外債を叙し 内債を述べ 尋いで 全國鐵道の現勢を説いて鐵道公債に及ぶ。而して 支那財政の狀態より 外債引受に關する列強競争の活動を寫して 全篇茲に結ばる。蓋し 時に遅れざらんとするものに取りての良著たり。余此書の出づるを悦こび 併せて廣く之を江湖に奨めんとす。世の東方の時事に志あるの士 必ずや亦た 此の忠實に支那國債と國際競争との實相を描出せる著者の勞を多とするに吝ならざるべし。若夫れ 國債問題と支那の將來に關する之れが評論に至りては 著者の敢へて輕ろしく之を爲さざりし所 惟ふに是れ 此書を讀む者の責なるべく 著者の意 亦蓋し

這邊に存するなるべし。以て序となす。

大正元年十一月初五日

早稻田大學支那協會研究室に於て

青柳篤恒しるす

自序

支那共和國今後ノ問題ハ財政問題ニシテ支那財政ノ今後ハ之ヲ積極的方面ヨリ言ヘバ税制問題ナリ之ヲ消極的方面ヨリ言ヘバ國債問題ナリ
今支那國債問題ノ歸趣スル處ヲ知り之ニ備フルノ策ヲ施サントセバ先ツ支那國債ノ過去ヲ明カニシ現状ヲ知悉スルニ如クハナシ本書ハ即チ此意味ニ於テ支那國債ノ過去ト現状ヲ概悉シ列國ノ支那ニ於ケル公債投資ノ趨勢ヲ記述スルヲ期シタルモノ也

大正元年初秋

著者識ス

凡例

一、本書ハ曩ニ著者三井物産株式會社留學生トシテ北京在留中蒐集シタル資料ヲ基礎トシ之ニ諸種ノ條約及既刊書籍ヨリ得タル知識ヲ配シテ編述シタルモノ也

二、本書編述ニツキ參照シタル主ナル書籍左ノ如シ茲ニ記シテ其編者ニ謝意ヲ表ス

東亞同文會編 支那經濟全書(財政編)

同 東亞關係特種條約彙纂

東洋協會滿州支部編 支那鐵道綜覽

Eastern Review; Chinese Railway Agreement.

三、本書出版ニツキ著者同窓ノ畏友井口龜三郎君ノ援助ヲ受ケシコト尠ナカラズ特ニ記シテ其厚意ヲ謝ス

四、本書記述ノ内容ハ努メテ各原契約書ヲ參照シ正確ナランコトヲ期シタルモ著

者ノ淺學ナル未ダ杜撰ノ誹ヲ免レズ殊ニ最近ノ事實ニ到テハ所謂燈臺下暗シ
 ノ例ニ洩レズ虛實混交却テ誤リナキヲ保シ難ク且本書ハ本年八月下旬脱稿シ
 タルモノナルヲ以テ其後ニ成立シタル倫敦借款クリスプ借款五百萬磅ハ之ヲ
 載録スルヲ得ザリシヲ遺憾トス讀者乞フ之ヲ諒セヨ

支那國債卜列強目次

總說

第一章 支那國債ノ沿革	一
第一節 支那國債ノ起原	二
第二節 一八九四年以前ノ國債	四
第三節 當時ノ財政狀態	八
第二章 日清戰役外債	一〇
第一節 開戰以前ノ財政狀態	一〇
第二節 日清戰爭軍事公債	二二
其一 香港上海銀行銀貨公債	二二
其二 香港上海銀行金貨公債	二五
第三節 日清戰役善後公債	二七

其一	克薩公債及瑞記公債	一七
其二	露佛公債	二七
其三	英獨公債	三三
其四	第二次英獨公債	三七
第四章	日清戰爭ノ清國財政ニ與ヘタル打擊	三二
第三章	義和團事變賠償外債	三五
第一節	事變前ノ財政狀態	四三
第二節	賠償金議定事情	四四
第三節	賠償金各國分配額及支拂年賦表	四四
第四節	賠償金償却財源	四五
第五節	銀貨支拂問題及賠償金元利償却補充公債	五九
第六節	義和團事件ノ財政上ニ與ヘタル打擊	六三
第四章	最近募集ノ中央外債	六六
第一節	中央官制改革後ノ財政狀態	七五

第二節	革命戰爭以前ノ外債	六三
其一	四國金貨公債	六三
第三節	革命戰後ノ外債	六六
其一	スコダ公債	六六
其二	四國銀行團支那改造借款前貸金	六九
其三	白國公債	九一
第四節	革命戰時及戰後ノ財政狀態	九四
第五章	地方外債	一〇六
第一節	清朝時代ノ地方外債	一〇六
其一	上海市場救濟外債	一〇六
其二	雲南外債	一〇八
其三	湖北外債	一〇九
第二節	革命後ノ地方外債	一一〇
其一	直隸外債	一一〇

四

其二 浙江外債……………二二

其三 雲南外債……………二三

其四 漢口再築市債……………二三

其五 湖北外債……………二六

第三節 政府責任社債……………二七

其一 招商局社債……………二七

其二 蘇路公司社債……………二七

其三 漢冶萍煤鐵公司社債……………二八

第六章 支那鐵道現勢……………二八

第一節 支那鐵道ノ沿革……………二九

第二節 外國所有鐵道……………二九

其一 既設外國所有鐵道……………二四

其二 未設外國所有鐵道……………二四

第三節 官有鐵道……………二七

其一 清國政府ガ國庫金ヲ以テ敷設シタル鐵道……………二七

其二 外資ニヨリテ敷設シタル官有鐵道……………二四〇

其三 未設官有鐵道及官民共營鐵道……………二四

第四節 民有鐵道……………二四

其一 株金ヲ以テ敷設セル民有鐵道……………二四

其二 外資ニヨリ敷設セル民有鐵道……………二五

第七章 鐵道及郵傳部事業公債……………二五

第一節 鐵道公債……………二五

其一 京奉鐵道公債……………二六

其二 京漢鐵道公債……………二六

其三 正太鐵道公債……………二七

其四 汴洛鐵道公債……………二七

其五 南寧鐵道公債……………二九

其六 粵漢鐵道公債……………二九

支那國債ト列強目次

其七	道清鐵道公債	一七六
其八	九廣鐵道公債	一七九
其九	津浦鐵道公債	一八一
其十	滬杭甬鐵道公債	一八二
其十一	京漢鐵道買收公債	一八五
其十二	新奉鐵道公債	一八六
其十三	吉長鐵道公債	一九一
其十四	收贖京漢鐵路公債	一九三
其十五	粵漢川漢鐵道公債	一九五
其十六	南潯鐵道公債	一九七
第二節	郵傳部事業公債	二〇三
其一	正金銀行郵傳部公債	二〇五

第八章 中央及地方內債

第一節	中央內債	二〇七
-----	------	-----

支那國債卜列強目次

其一	甲午商款	二〇七
其二	昭信股票	二〇九
其三	收贖京漢鐵路公債	二一一
其四	愛國公債	二二三
其五	革命黨軍事公債	二二五
其六	南京政府軍事公債	二二五
第二節	地方內債	二二七
其一	直隸公債	二二七
其二	湖北公債	二二九
其三	安徽公債	二三〇
其四	湖南公債	二三二
其五	江蘇公債	二三三

第九章 支那國債列國關係

第一節	列國ノ支那公債投資政策	二三四
-----	-------------	-----

八

第二節 列國相互間ノ支那公債投資競争……………三六

第三節 支那公債投資競争ノ現勢……………三七

第四節 列國ノ支那公債投資額……………四〇

第五節 歐米市場ニ於ル支那公債……………四六

第十章 支那國債ノ現狀……………四八

第一節 支那對外借款政策……………四八

第二節 支那國債ノ現存額……………五一

第三節 支那國民ノ外債負擔額……………五二

第四節 支那海關稅收入表……………五九

結論……………六一

支那國債ト列強目次終

支那國債ト列強

早稻田大學商學士 大山嘉藏 著

總說

清朝ノ滅亡ハ即チ清國財政ノ破綻ヲ意味スルモノニシテ清國財政破綻ノ遠因ハ之ヲ日清戰爭ニ歸スベク日清開戦ノ原因ハ之ヲ清國自身ノ驕傲ト不明ニ歸セザルベカラズ

日清戰役以前僅カニ二十餘萬磅ニ過ギザリシ外債ハ不謹慎ニモ一度事ヲ隣邦ニ讓シテ以來一躍五千四百四十五萬五千磅餘ノ巨額ニ達スルニ至リ戰後毒ヲ以テ毒ヲ制シ外邦ヲ以テ外邦ヲ操ルベク露獨佛三國ニ衰願シテ日本ノ戰勝ヲ犠牲タラシメタル清國ノ對外政策ハ遂ニ歐州諸國ヲ誘致シテ清國領土内ニ列國割據ノ

總論

一

端ヲ開カシメ清國領土内ニ於ル歐州列強ノ勢力扶植ト誅求ハ清國官民ノ排外思想ヲ勃發セシメテ遂ニ北清事變ノ一大奇局ヲ現出セシメ忽チ又四億五千萬兩ノ大外債ヲ負擔スルニ及ビ茲ニ清國ハ遂ニ恢復シ難キ財政難ノ渦中ニ陥リ其歳入ハ累年數千萬兩ノ缺陷ヲ見ルノ餘儀ナキニ至リタリ

然ルニ清國領土ノ一角ニ於テ行ハレタル日露ノ抗爭ハ大ニ清國一部人士ヲ刺激シテ突飛ナル自覺トナリ其結果今ハ則チ革命ノ名ノ下ニ皇帝ヲ退位セシメタルノミニテ從來ノ負擔ニ加フルニ更ニ數億兩ノ外債ヲ招募セントス支那ノ前途知ルベキノミ本書ハ則チ此間ニ於ケル清朝破滅ノ經路ト列國對清態度ノ大體ヲ記述シ以テ中華民國國債ノ現狀ヲ明カニセントスルモノニ外ナラズ

第一章 支那國債ノ沿革

第一節 支那國債ノ起原

支那ノ國債ハ外債ニ始マリ同治四年(一八六五年)西征將軍左宗棠ノ露國ヨリ伊犁征討ニ要スル軍資ノ一部トシテ糧食彈藥等ヲ借リタルヲ起原トス之ヨリ先キ露

國ハ早ク既ニ東方ニ着目シ咸豐元年六月(一八五一年七月二十五日)大佐コバルスキーヲシテ支那トグルヂヤ通商條約ヲ締結セシメ伊犁地方ニ植民スルニ至リ次デ同治元年(一八六二年)陸路通商條約ヲ結ビ越ヘテ二ケ年同治三年(一八六四年)條約ヲ結ビテ相互ノ境界ヲ定メタリ斯クノ如クシテ當時既ニ露清兩國民ハ此地方ニ於テ通商貿易ノ業ニ從事シ彼我交通ノ機モ少カラザリシカバ偶佐宗棠ノ西征ノ師ヲ出シテ軍資ニ苦シムヲ見ルヤ機乘ズベシトナシ糧食彈藥等ヲ供給シテ其西征ヲ助ケ以テ他日活躍ノ口實ヲ作りタルナリ然ルニ其後長髮賊ノ亂起リ中原ニ騷擾セル際西域ノ回教徒復亂ヲ起シ放罕喀什噶爾等ノ地方大ニ亂ルルニ及ブヤ露國ハ名ヲ利權保護ニ藉リ遂ニ同治十年(一八七一年)伊犁一帶ノ地方ヲ占領シタリ茲ニ於テ清國ハ再ビ左宗棠ヲ征討將軍ニ任ジ喀什噶爾地方ヲ恢復鎮定セシムルト共ニ占領地ノ還附ヲ露國ニ要求シ全權大臣崇厚ヲ露都ニ派シテ協議セシメタルニ(1)テケス平原ノ占領(2)天山連山ヲ通ジテ喀什噶爾ニ到ル道路ノ通行權(3)及ビ占領費トシテ五百萬留(4)其他貿易上ノ特權ヲ露國ニ與フルノ條約ヲ締結シタルモ清廷之ヲ承認セズ改メテ曾紀澤ヲ露都ニ派シテ談判セシメタル結果前

約ハ之ヲ破棄シ露國ニ(1)ホルゴース河以西ノ占領ヲ許シ(2)天山連山ヲ通ジテ喀什噶爾ニ到ル道路ノ通行權(3)及ビ占領費トシテ九百萬ルーブルヲ支拂フコトトナシテ其局ヲ結ビタリ

當時ノ事情右ノ如ク此條約ニヨリテ支拂フベキ賠償金ノ果シテ何程ガ前ニ清國ノ借リタル負債ノ償却部分ニ相當スルヤヲ明カニセズト雖モ要スルニ支那ノ國債ハ茲ニ始マルト言フヲ得ベシ

第二節 一八九四年以前ノ國債

支那ノ國債ハ内外共ニ主トシテ日清戰役開始以後ニ募集シタルモノニシテ一八九四年以前ニアリテハ僅カニ六千萬兩ニ足ラザル外債ヲ負擔シタルニ過ズ而モ其多クハ寧ロ之ヲ一時ノ借入金ト稱スルヲ適當トスベク今日見ルガ如キ完全ナル條件ヲ具備シタルモノ殆ンド之レ無キノ實狀ナリシヲ以テ茲ニ之ガ沿革ヲ述ベントスルモ其實單ニ後章記述ノ前提トシテ之ガ一般ヲ列舉スルニ過ズ支那國債ノ興味アル問題ハ少クモ之ヲ日清戰役以後ノ經驗ニ待タザルベカラズ今事ノ

順序トシテ一八九四年以前ニ存シタル清國々債ヲ列記スレバ左ノ如シ

- 一、一八六五年(同治四年)清國ハ露國ヨリ伊犁征討軍資ノ一部トシテ糧食彈藥等ヲ借リタリ之ノ賠償トシテ一八八一年二月十二日(光緒七年)締結ノ伊犁事件ニ關スル條約ニヨリ他ノ政治上通商上ノ特權ト共ニ伊犁占領費並ニ被害露人損害賠償ナル名義ノ下ニ露國貨幣九百萬ルーブルヲ英貨一百四十三萬一千六百六十四磅二志ニ換算シ調印後四ヶ月内ニ償還ヲ開始シ毎四ヶ月目ニ英貨二十三萬八千六百十磅十三志八片ヲ倫敦プラットペーリソング銀行ニ送達拂込ミ六回二ヶ年間ニ完済スベキモノト定メタリ
- 二、一八六七年(同時六年)五月甘肅軍費ニ充ツルタメ左宗棠ハ道臺胡光墉ヲ上海ニ特派シテ海關稅及海關納稅票ヲ擔保トシ銀壹百萬兩ヲ外商ヨリ借入レタリ之レ支那ニ於テ海關稅ヲ公債ノ擔保ニ提供シタル始メトス
- 三、一八七四年(同治十三年)我日本ト臺灣ノ事件アリ閩浙總督沈葆楨ハ海關納稅票ヲ擔保トシテ外商ヨリ銀二百萬兩ヲ借リ入レタリ利子年八分償還期限借入レ期日ヨリ起算シテ十ヶ年間

四、一八七七年(光緒三年)伊犁地方叛徒討伐ノ軍費ニ充ツルタメ時ノ江南總督沈葆楨ヲシテ五百萬兩ノ外債ヲ募集セシメタリ其主ナル條件左ノ如シ

一、債權者 香港上海銀行 Hongkong Shanghai Banking Corporation.

二、元金 五百萬兩

三、利子 年一割五歩六ヶ月毎ニ元利ヲ支拂フ

四、擔保 温州廣東、上海、漢口ノ海關收入ヲ擔保トシ關稅證書ヲ副擔保トス

五、一八七八年(光緒四年)軍事費トシテ獨逸亞細亞銀行 Deutsch-Asiatische Bank ヨリ銀二百二十五萬元ヲ年利五歩五厘海關稅及同納稅票ヲ擔保トシテ借入レタリ

六、一八七九年(光緒五年)銀千六百十五萬元ヲ年利七分ニテ海關稅及同納稅票ヲ擔保トシ香港上海銀行ヨリ借入レタリ

七、一八八七年(光緒十三年)佛國トノ難ニヨリ負イタル國庫ノ空乏ヲ補フタメ獨逸ニテ五百萬マルク英貨換算二十四萬五千八百磅ノ公債ヲ募集シタリ其主要條件左ノ如シ

一、元金 二十四萬五千八百磅

二、利子 年五歩

三、擔保 海關稅ヲ擔保トシ海關納稅票ヲ副擔保トス

四、償還期限 六ヶ年据置キ一八九三年(光緒十九年)ヨリ一九〇二年(光緒二十八年)ニ至ル十ヶ年賦

本公債ハ伯林フラインソアル會社並ニフランクフルトノトシネイ會社ニテ發行シタルニ額面百マルクノ債券百〇六マルク四分ノ一ニテ賣行クノ好況ヲ呈シタリ支那公債ノ歐洲市場ニ賣出サレタルハコレヲ以テ嚆矢トス以上ハ同治六年(一八六七年)ヨリ光緒十三年(一八八七年)ニ至ル二十年間ニ借入レタル外債ノ總額ニシテ爾後光緒二十年(一八九四年)日清戰爭ノ開始ニ至ルマデ復外債ヲ借リタルコトナシ今之ヲ表示スレバ左ノ如シ

年次	債權者	起債高	英貨額	利子	擔保
一八六七	未詳	一、二〇〇、〇〇〇兩	三六〇、〇〇〇磅	未詳	海關稅及同納稅票
一八七四	〃	二、〇〇〇、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇磅	〇、八〇	同
一八七七	香港上海銀行	五、〇〇〇、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇磅	一、五〇	同
一八七八	獨逸亞細亞銀行	二、五〇〇、〇〇〇兩	五四〇、〇〇〇磅	〇、五五	同

一八七九	香港上海銀行	一六、一五〇、〇〇〇兩	三、四八八、四〇〇磅	〇、七〇	同
一八八七	フロンアル會社	五、〇〇〇、〇〇〇馬克	二四五、八〇〇磅	〇、五五	同
總計	トシナイ會社		六、七三四、二〇〇磅	平均利率	〇、八二

第三節 當時ノ財政狀態

咸豐年間ニ於ケル英佛兩國トノ戰及同治年間ニ於ケル長髮賊回教徒ノ逆亂ハ一時清國ノ財政ヲシテ窮境ニ陥ラシメタリト雖モ光緒時代トナルニ及ビ財政ノ整理大ニ緒ニ付國內平穩ニ一般經濟界ノ進步亦見ルベキモノアリシカバ其財政ハ大ニ面目ヲ改メ累年數百萬兩ノ剩餘金ヲ生ズルニ至リ清朝三百年ヲ通ジテ最モ良好ナル狀態ヲ現出セリ

今試ミニ同時代十年間ノ歲出入額ヲ表示スレバ左ノ如シ

年	次	歲入額	歲出額	歲入超過額
光緒一一年	西歷一八八五	七七、〇八六、四六六兩	七二、八六五、五三一兩	四、二二〇、九三五兩
同 一二年	同 一八八六	八一、二六九、七九九兩	七八、五五一、七七六兩	二、七一八、〇二三兩
同 一三年	同 一八八七	八四、二一七、三九四兩	八一、二八〇、九〇〇兩	二、九三六、四九四兩

同 一四年	同 一八八八	八八、三九一、〇〇五兩	八一、九六七、七三七兩	六、四二三、二六八兩
同 一五年	同 一八八九	八〇、七六一、九五三兩	七三、〇七九、六二七兩	七、六八二、三二六兩
同 一六年	同 一八九〇	八六、八〇七、五六二兩	七九、四一〇、六四四兩	七、三九六、九一八兩
同 一七年	同 一八九一	八九、六八四、八五四兩	七九、三五五、二四一兩	一〇、三二九、六一三兩
同 一八年	同 一八九二	八三、三六四、四四三兩	七五、六四五、四〇八兩	七、七一九、〇三五兩
同 一九年	同 一八九三	八三、一一〇、〇〇八兩	七三、四三三、三二九兩	九、六七六、六七九兩
同 二〇年	同 一八九四	八一、〇三三、五四四兩	八〇、二七五、七〇〇兩	七五七、八四四兩

即チ毎年數百萬兩ノ剩餘金ハ之ヲ外債償却ノ資ニ充用シ得ベク且當時主トシテ外債元利償還ノ用ニ供シタリシ海關收入ハ海外貿易ノ繁盛ニ伴ヒ累年増加ノ傾向アリシヲ以テ嘗テ募集シタル外債ノ如キ其財政ニ何等ノ痛痒ヲ與ヘズ償還資金ノ調達ノ如キ易々タルモノナリシカバ着々之ガ償却ヲ終リ本時代ノ終期ニ於テハ僅カニ獨逸公債五百萬馬克ヲ殘シタルノミ而シテ此獨逸公債ヲモ一九〇二年(光緒二十八年)ニ至リテ之ヲ完済シタレバ當時ノ外債ニシテ現存スルモノ既ニ無シ

第二章 日清戰役外債

第一節 開戰以前ノ財政狀態

日清戰爭開始以前ニ於ル清國ノ財政狀態ハ前章記述ノ如ク清朝三百年ヲ通シテ最モ良好ナル狀態トモ言フヘク其歲出入額ハ八九千萬兩ニシテ一見過少ナルカ如シト雖モ當時ノ清國ハ光緒十三年獨逸ニテ募集シタル二十餘萬磅ノ外債未償還額ヲ存シタルノミニシテ他ニ何等ノ負擔ナク加フルニ支那人民ノ保守性ハ容易ニ泰西文物ヲ採用スルコトナカリシ等ノタメ其財政ハ膨張スルコト甚タ少カリシモノニシテ事實毎年數百萬兩ノ剩餘金ヲ見ルノ好狀態ニアリシナリ然ルニ當路ノ有司此狀態ニ安ンジテ己レノ實力ヲ悟ラス徒ラニ韓國ニ屬邦政策ヲ行ハントシタルガタメ一朝日清利害ノ衝突ヲ惹起シ戰端ヲ開クニ及ヒテ國內ノ和平一時ニ破レ良好ナリシ財政ハ忽チ一變シテ非常ノ窮迫ニ陥リ遂ニ清朝亡滅ノ素因ヲ造ルニ至レリ

當時上海駐在英國總領事デユミソン氏ノ調査シタル歲出入額左ノ如シ

歲入之部

地丁銀(地租銀納)	二五、〇八八、〇〇〇兩
精米(地租穀納)	六、五六二、〇〇〇兩
海關稅	二一、九八九、〇〇〇兩
內地舊關稅	一、〇〇〇、〇〇〇兩
釐金稅	一二、九五二、〇〇〇兩
鹽課鹽釐 <small>(鹽專賣本稅及釐金稅)</small>	一三、六五九、〇〇〇兩
土藥稅釐金 <small>(內地產阿片本稅及釐金稅)</small>	二、二二九、〇〇〇兩
雜稅	五、五五〇、〇〇〇兩
歲入總計	八八、九七九、〇〇〇兩
歲出之部	
北京餉銀旗營餉需及內務府經費	一九、四七八、〇〇〇兩
砲臺軍火兵艦及洋操各項經費	八、〇〇〇、〇〇〇兩
南洋海軍經費及閩廣水師經費	五、〇〇〇、〇〇〇兩

北津海軍經費	五〇〇〇、〇〇〇兩
東三省邊防經費	一、八四八、〇〇〇兩
甘肅新疆邊防經費	四、八五〇、〇〇〇兩
外債元利償却金	二、五〇〇、〇〇〇兩
鐵道敷設費	五〇〇、〇〇〇兩
雲南貴州廣西協餉	一、六五五、〇〇〇兩
各種工事費	一、五〇〇、〇〇〇兩
各稅關燈臺浮標巡視船等ノ經費	二、四七八、〇〇〇兩
以上合計	五二、八〇九、〇〇〇兩
各省地方經費及共餉等	三六、一七〇、〇〇〇兩
歲出總計	八八、九七九、〇〇〇兩

第二節 日清戰爭軍事公債

其一 香港上海銀行銀貨公債

本公債ハ一八九四年日本トノ戰費ニ充ツルタメ香港上海銀行ヨリ借入レタルモノニシテ同銀行ハ「パンモープ、ゴルトン、コンパニー」ナル一ノ英國公債引受所ヲ設立シ十月下旬庫平銀一千萬兩ノ外債募集ヲ引受タリ

本公債募集契約主要條件左ノ如シ

- 一、債權者 香港上海銀行
- 二、起債額 庫平銀一千萬兩英貨一百六十三萬五千磅
- 三、利子 年七分每年五月一日及十一月一日之ヲ支拂フ
- 四、手取額 九八
- 五、擔保 從來ノ優先權者ニ次ギ全國海關ノ收入ヲ擔保トシ總稅務司及清國當局官吏署名捺印シテ違約ノ際ハ直ニ關稅ノ支拂ニ充ツルコトヲ得ベキ關稅證書ヲ香港上海銀行ニ供托保管セシム
- 六、期限 據置年限十ヶ年一九〇五年ヨリ一九一四年ニ至ル十ヶ年間毎年十一月一日元金一百〇九萬兩ヲ償還ス

七、發行地 英國倫敦

償還既濟高及現存額

償還既濟高

一、一四四、五〇〇磅

未償却現在高

四九〇、五〇〇磅

償還財源

本公債償還基金トシテ清國政府ノ準備セシ財源左ノ如シ

廣東阿片釐金稅ノ海軍費ニ宛テシモノ、流用

五〇〇、〇〇〇兩

四川省鹽釐金稅加課

四四〇、〇〇〇兩

廣東ニ於ル内債償還金ノ不用部分

一三五、〇〇〇兩

浙江舊關稅釐金稅及鹽稅剩餘金

二〇〇、〇〇〇兩

雲南省減平銀

六七、〇〇〇兩

合計

一、三四二、〇〇〇兩

備考

清國ノ外債ガ純然タル軍事公債ニモカ、ワラズ僅々二分ノ割引ニテ發行サレタルハ以テ當時清國財政上ノ信用歐洲人ニ厚カリシヲ證スルニ足ルベク前駐清獨逸公使フオン、ブランドガ歸國後支那財源ノ豐富ナルヲ説キタルガ如キ亦與テ其因ヲナシタルモノト言フベシ

其二 香港上海銀行金貨公債

一八九五年二月十八日清國ハ再ビ香港上海銀行ト英貨三百萬磅借入レノ契約ヲ締結シ軍費支辨ノ用ニ供シタリ

本公債募集契約主要條件左ノ如シ

一、債權者 香港上海銀行

二、起債額 英貨三百萬磅

三、利子 年利六分第一回利札二磅五志其後ハ三磅トシ毎年六月三十日十二

月三十日之ヲ支拂フ

四、手取額 九二

五、擔保 従前ノ優先權者ニ次ギ全國海關ノ收入ヲ擔保トシ稅務司及清國當局官吏署名捺印シタル關稅證書ヲ副擔保トス

六、期限 五ヶ年据置一九〇〇年ヨリ一九一四年ニ至ル十五ヶ年間毎年十二

月三十一日元金二十萬磅ヲ償還ス但シ清國政府ハ六ヶ月前ニ豫告

ヲナシテ定額以上ノ償還ヲナスコトヲ得

七、發行地 倫敦ニテ九十六磅二分ノ一ニテ發行ス

償還既済高及現存額

償還既済高

二、四〇〇、〇〇〇磅

未償却現在高

六〇〇、〇〇〇磅

償還財源 本公債償還資金トシテ清國政府ノ準備シタル財源左ノ如シ

浙江福建兩者ヨリ支出スル武街中軍經費ノ流用

二六〇、〇〇〇兩

福州通船廠經費ノ轉用

三五、〇〇〇兩

關外鐵道敷設費ノ轉用

三〇〇、〇〇〇兩

廣東省釐金鹽務ノ節約剩餘金

一、六〇〇、〇〇〇兩

浙江省釐金及鹽稅剩餘金

一〇五、〇〇〇兩

安徽省行政費節減剩餘金

七〇、〇〇〇兩

廣西省行政費節減剩餘金

四〇、〇〇〇兩

江西省關稅釐金稅及鄂皖准ノ鹽釐金稅加課

二一三、〇〇〇兩

合計

二、六二三、〇〇〇兩

第三節 日清戰役善後公債

其一 克薩公債及瑞記公債

A 本公債募集事情

一八九五年四月十七日日本トノ和約成立シ遂ニ媾和條約十一ヶ條ノ調印セララルヤ清國ハ其第四條ニヨリ庫平銀二億兩ヲ日本ニ賠償セザルベカラザルコトトナレリ今日清媾和條約第四條ノ規定ヲ見ルニ

清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀二億兩ヲ日本國ニ支拂フベキコトヲ約ス右金額ハ都合八回ニ分テ初回及次回ニハ毎回五千萬兩ヲ支拂フベシ而シテ初回ノ拂込ハ本約批准交換後六ヶ月以内ニ次回ノ拂込ハ本約批准交換後十二ヶ月以内ニ於テスベシ残りノ金額ハ六ヶ年賦ニ分テ其第一次ハ本約批准交換後二ヶ年以内ニ其第二次ハ本約批准交換後三ヶ年以内ニ其第三次ハ本約批准交換後四ヶ年以内ニ其第四次ハ本約批准交換後五ヶ年以内ニ其第五次ハ本約批准交換後六ヶ年以内ニ其第六次ハ本約批准交換後七ヶ年以内ニ支拂フベシ又初回拂

込ノ期日ヨリ以後未ダ拂込ヲ了ラザル額ニ對シテハ毎年百分ノ五ノ利子ヲ支拂フベキモノトス

但シ清國ハ何時タリトモ該賠償金ノ全額或ハ其幾分ヲ前以テ一時ニ支拂フコトヲ得ベシ若シ本約批准交換後三ケ年以内ニ該賠償金ノ總額ヲ皆済スル時ハ總テ利子ヲ免除スベシ若シ夫レ迄ニ二ケ年半若シクハ更ニ短期ノ利子ヲ拂込ミタルセノアル時ハ之ヲ元金ニ編入スベシ

乃チ之規定ニヨリ清國ハ十一月マデニ第一回支拂賠償金五千萬兩ヲ調達スルノ必要起レリ然レドモ交戦中スラ比較的好條件ニテ外債引受ヲ諾シタル歐洲資本家ハ平和既ニ克復シタル場合何條躊躇スベキ直ニ英商怡和洋行及獨商瑞記洋行ハ同一條他ニテ各一百萬磅合計二百萬磅ノ外債ヲ引受ケタリ

B 克薩公債

本公債募集契約主要條件左ノ如シ

- 一、債權者 怡和洋行 Jardine Matheson & Co.
- 二、起債額 一百萬磅

三、利子 年六分毎年一月一日及七月一日之ヲ支拂フ

四、發行價格 一八九五年七月チャータード銀行ヨリ一〇六磅ニテ發行ス

五、手取額 一〇〇

六、擔保 從前ノ優先權者ニ次キ全國ノ海關收入ヲ擔保トシ稅務司及清國當局官吏署名捺印シタル海關證書ヲ副擔保トス

七、期限 五ケ年据置キ一九〇一年ヨリ一九一五年ニ至ル十五ケ年間毎年一月一日元金六萬六千七百磅ヲ償還ス

八、發行地 倫敦

償還既濟高及現存額

償還既濟高 七三三、七〇〇磅

未償還現存高 二六六、三〇〇磅

償還財源 本公債償還資金トシテ清國政府ノ準備シタル財源左ノ如シ

關内鐵道敷設費ノ轉用 三〇〇、〇〇〇兩

福州造船廠經費ノ流用 三七〇、〇〇〇兩

山東山西雲南各省鹽稅及釐金稅	一〇〇,〇〇〇兩
河東鹽商攤捐銀	三〇,〇〇〇兩
通商銀行息欸銀	四〇,〇〇〇兩
江蘇清賦銀	一〇,〇〇〇兩
合計	八三三,〇〇〇兩

c 瑞記公債

本公債募集契約主要條件左ノ如シ

- 一、債權者 瑞記洋行
- 二、起債額 一百萬磅
- 三、利子 年六分每年一月二日及七月二日之ヲ支拂フ
- 四、發行價格 一八九五年獨逸銀行ヨリ一〇四磅二分ノ一ニテ發行ス
- 五、手取額 一〇〇
- 六、擔保 從來ノ優先權者ニ次ギ全國海關ノ收入ヲ擔信トシ稅務司及清國當局官吏署名捺印シタル關稅證書ヲ副擔保トス

七期限

五ヶ年据置一九〇一年ヨリ一九一五年ニ至ル十五ヶ年間毎年一月二日元金六萬七千七百磅ヲ償還ス

八、發行地 伯林及漢堡

償還既濟高及現存額

償還既濟高 七三三,七〇〇磅

未償還現在高 二六六,三〇〇磅

償還財源 本公債償却資金トシテ清國政府ノ準備シタル財源左ノ如シ

蘇州布政使庫ヨリ	六〇,〇〇〇兩
准鹽運司ヨリ	二〇,〇〇〇兩
蘇州各釐金局	一二〇,〇〇〇兩
江寧布政使庫ヨリ	二〇,〇〇〇兩
鎮江及南京海關	四〇,〇〇〇兩
上海海關	一五〇,〇〇〇兩
九江海關	二〇,〇〇〇兩

南京釐金局	六〇、〇〇〇兩
蕪湖舊關及米釐金局	五〇、〇〇〇兩
皖南茶釐金局利子	二〇、〇〇〇兩
蕪湖舊關利子	二〇、〇〇〇兩
九江海關利子	二〇、〇〇〇兩
雜	七〇、〇〇〇兩
合計	六七〇、〇〇〇兩

三三

其二 露佛公債

A 本公債募集事情

日本へノ第一回賠償金支拂ニ使用スベク英獨兩國ヨリ募集シタル二百萬磅ノ外債ハ其大部ヲ軍事費其他ニ費消シ盡シテ當初ノ目的ヲ遂グルニ由ナカリシカバ清國ハ再ビ復外債ヲ募集スベク時ノ總稅務司ロバート、ハートヲ歐洲ニ特派セントシタルニ露獨佛三國ハロバートハートノ英人ナルヲ以テ利ノ英國ニノミ歸セシコトヲ恐レコレヲ阻止シテ暗闘ヲ惹起セリ蓋シ前ニ成立シタル額面百磅ノ瑞

記公債ガ伯林及ハンブルグニ於テ百四磅半ニテ賣切レノ好況ヲ呈シタルガ如キ同時ニ成立シタル克薩公債亦翌年ニ至ルモ其市價百四磅半乃至百十五磅八分ノ七ノ間ヲ上下シタルガ如キ要スルニ當時歐洲人ハ支那ヲ目スルニ東亞ノ埃及ヲ以テシ投資ニ伴フ利權ノ獲得ト支那ノ前途ヲ豫測シタル政治上ノ野心ヲ満足セシメンガタメ有ユル手段ヲ辭セザリシモノニシテ其經濟的利純ノ如キ之ヲ冷靜ニ考慮スルノ暇ナカリシニ因ラズンバアラズ

事情斯ノ如キモノナリシカバ慧眼ナル露國藏相ウイッテハ彼ガ東方策ニ一步ヲ進ムル正ニ此機ニアリトシ其公使ヲシテ百方清延ニ説カシメ支拂保證ノ好飼ヲ以テ英獨兩國ノ激烈ナル競争ヲ排シ遂ニ一八九五年七月六日露佛銀行組合ヲシテ五億法(一億留)ノ外債應募ヲ約セシメタリ
然レバ之公債ニ付特ニ注目スベキハ露國政府ノ支拂保證ナリ即チ若シ清國政府ニシテ萬一元利償却ヲナシ能ハザル時ハ露國政府ハ之ニ代リテ償還完済スベキヲ公約シタルコトニシテ斯ノ如キハ他ニ期スルトコロアルニ非ズンバ到底ナシ得ベキコトニ非ズ

今參考ノタメ本件ニ關シ露帝ノ大藏大臣ウイッテニ與ヘタル訓令ノ全文ヲ掲グ
レバ左ノ如シ

二四

清國政府ニ於テ額面金額四億法ヲ以テ一八九〇年ノ四分利付清國金貨公債ヲ
發行スルニ付卿ハ朕ノ命令ニ依リ清國政府ト卿ノ選定セル佛蘭西及露西亞ノ
銀行及金融所トノ間ニ立チテ其媒介者タルノ任ヲ負ヘリ因テ卿ニ命ズルコト
左ノ如シ

第一 如何ナル事由ニ拘ハラズ一八九五年四分利付清國金貨公債ノ定期利札
及當籤證書ニ對スル支拂ノタメ必要ナル金額ニシテ約定ノ期限ニ該支拂ヲナ
ス銀行及金融所ニ渡サレザル場合ニハ露西亞政府ノ計算ヲ以テ卿ノ定メタル
條件ニヨリ該目的ニ必要ナル資金ヲ其銀行及金融所ニ拂渡スベシ
第二 政府ヘノ抵當品及物産稅支拂ノ擔保品トシテ一八九五年ノ四分利付清
國金貨公債ヲ收納スルニ附該公債ノ權利及特權ヲ規定スベシ
千八百九十五年六月二十三日(露歷)

ピーターズブルグニ於テ

親 署

斯ク露國自ラ保證ノ位地ニ立チ僅々四分ノ抵利ヲ以テ同盟國タル佛國ノ銀行ヲ
シテ清國ノ公債ヲ引受ケシメタル國ヨリ大ナル政治上ノ野心ナクンバ非ズ其公
然報酬ヲ言ハザリシハ却テ後日大報酬ヲ得ントスルノ希望ヲ有シタレバナリ見
ヨ曩ニ獨佛ト協力シ日本ヲ強制シテ遼東半島ヲ還付セシメ恩ヲ清國ニ示シ今又
公債募集ノ斡旋ニ次グニ支拂保證ノ勞ヲ以テシタル活動ハ遂ニ鐵道敷設鑛山採
掘權等幾多重要ノ利權ヲ奪取スルノ口實トナリ爲ニ極東ニ於ル列強勢力ノ均衝
ヲ破リテ他日東亞ノ一角ヲシテ修羅ノ巷ト化セシムルノ素因ヲ作リタルニ非ズ
ヤ

B 本公債募集契約主要條件

一、債權者 露佛銀行組合

二、起債額

佛貨四億法即チ英貨一千五百八十二萬磅ニシテ各債券ノ額面ハ
佛貨五百法露貨百二十五留英貨十九磅十五志六片トシ露佛英三
國文ヲ用ヒテ之ヲ記載ス

- 三、利子 年四分每年一月一日及七月一日之ヲ支拂フ
 - 四、發行價格 九四、八分ノ一
 - 五、手取額 發行價格ニ同ジ
 - 六、手數料 取扱銀行手數料トシテ取扱元利金額千分ノ二、五ヲ支拂フ
 - 七、擔保 從前ノ優先權者ニ次ギ全國ノ海關收入ヲ擔保トシ海關稅領收票ヲ副擔保トス且本公債ニハ露國政府ノ裏書保證アリ萬一ノ場合露國政府ハ元利償還ノ責ニ任ズ
 - 八、償還期限 一八九六年ヨリ一九三一年ニ至ル三十六ケ年間毎年七月一日元利差引勘定ニヨリ約八十三萬六千八百磅ヲ償却シ利息ノ減少スルニ從ヒ元金償還額ヲ遞加スルモノトス
 - 九、發行地 露國聖彼得堡佛國巴里及里昂
- 償還既濟高及現存額
- 償還既濟高 四、四五二、五二七磅
 - 未償還現存高 一一、三六七、四七三磅

- 償還財源 本公債償還資金トシテ清國政府ノ準備セル財源左ノ如シ
- 長蘆山東河東四川廣東浙江淮南四岸河南湖北ノ鹽釐金加課及四川鹽稅中ヨリ 五六〇、〇〇〇兩
 - 伊犁征討費外債償却基金トシテ湖北浙江福建廣東四省ヨリ各五萬兩宛支出スルモノ、流用 二〇〇、〇〇〇兩
 - 廣東省賭博特許稅 二四〇、〇〇〇兩
 - 廣東江蘇四川湖北湖南浙江河南福建陝西安徽直隸山東山西廣西十五省ノ地租鹽稅鹽釐金稅及百貨釐金稅並ニ雜稅ヨリ 二、五五七、五〇〇兩
 - 各地關稅及阿片釐金稅 二、五六二、五〇〇兩
- 合計 六、二五五、〇〇〇兩

其三 英獨公債

A 本公債募集事情

第一回賠償金支拂ニ要スル公債引受ニ關シ露佛ト競争シテ破レタル英獨兩國ハ

直ニ第二回支拂ニ要スル公債ノ引受運動ヲ開始シ英國銀行組合ノ如キハ露佛公債ノ成立シテヨリ僅カニ二ヶ月一八九五年九月早クモ人ヲ派シテ清延ニ説カシムアリ香港上海銀行獨逸亞細亞銀行又運動ヲ開始シタルモ共ニ利子其他ノ條件清國ヲ満足セシムル能ハズシテ交渉徒ラニ遲延スルヲ見ルヤ佛公使陰カニ畫策スル處アリ廟議復露佛ニ依頼セントスルニ至リシカバ英國公使ハ直ニ清國政府ニ抗議シテ之ヲ中止セシメタリ茲ニ於テ佛國公使ハ覺書ヲ提出シテ清國ニ再ビ公債裏書保證ノ勞ヲ採ルベキヲ提議スルト共ニ佛人ヲシテロバート、ハートニ代リ總稅務司タラシムベキコトヲ以テシ露國公使亦佛ヲ援ケテ清國ニ臨ムアリ公債引受問題ハ一轉シテ國際間ノ重大問題トナルニ至レリ

然レドモ英國公使必死ノ運動トロバート、ハートノ幹旋大ニ努メタルト銀行側ニ於テモ形勢ニ鑑ミ讓歩シテ條件ヲ緩クシタルトニヨリ一億兩ノ公債ハ香港上海銀行及獨逸亞細亞銀行ノ引受クル處トナリ一八九六年三月七日之ガ引受契約ニ調印スルト同時ニ總稅務司ノ位地ノ保證トシテ本公債募集契約第七條末尾ニ「本公債未償還中ハ清國總稅務司ハ現行ノ規定ニヨルベク之ヲ改ムルコトナシト規

定シ英獨二國ハ茲ニ漸ク當初ノ目的ヲ貫徹スルコトヲ得タリ

B 本公債募集契約主要條件

- 一、債權者 香港上海銀行及獨逸亞細亞銀行
- 二、起債額 庫平銀一億兩英貨一千六百萬磅
- 三、利子 年五分每年四月一日十月一日之ヲ支拂フ
- 四、發行價格 第一回一千萬磅ハ一八九六年三月二十七日九十八磅四分ノ三ニテ殘額ハ同年九月十五日九十九磅ニテ發行サレタリ
- 五、手取額 九十四磅
- 六、擔保 從來ノ優先權者ニ次ギ全國海關ノ收入ヲ擔保トシ稅務司及清國當局官吏署名捺印ノ關稅納稅票ヲ副擔保トス
- 七、償還期限 一八九七年ヨリ一九三二年ニ至ル三十六ヶ年間毎年四月一日元利合シテ九十六萬六千九百五十二磅ヲ償還ス但シ毎月香港上海銀行及獨逸亞細亞銀行へ八萬〇五百七十九磅六志八片ヲ預ケ入レ支拂期日マデニ支拂金額ニ達セシムベシ

八、發行地 倫敦及伯林

償還既濟高及現存額

償還既濟高

三、六〇二、五七五磅

未償還現存額

一、二、三九七、四二五磅

償還財源 本公債償還資金トシテ清國政府ノ備準セル財源左ノ如シ但シ之基金ハ初メ六百九十萬兩ナリシガ爲替相場ノ變動ヨリ生ズル不足額ヲ補充スルタメ一八九九年更ニ各省ニ命ジテ一百四十七萬五千兩ヲ支出セシムルコトトシ部合八百三十七萬五千兩ヲ償還基金トシ剩餘金ハ他ノ外債償却資金ニ流用スルコトトシタリ

鹽稅增收收入

五六〇、〇〇〇兩

西征外債償還資金ノ加放俸餉ニ改メタルモノヨリ

四四〇、〇〇〇兩

各省地租釐金稅

三、六四七、五〇〇兩

各地海關稅及阿片釐金稅

三、六八七、五〇〇兩

合計

八、三七五、〇〇〇兩

其四 第二次英獨公債

A 本公債募集事情

露佛公債及英獨公債ヲ募集シテ日本ニ對スル賠償金支拂ノ用ニ充テタル清國ハ一八九八年又第四回支拂ノ必要ニ迫ラレタリ而シテ媾和條約第四條ノ規定ニヨリ此際殘餘ノ償金全部ヲ一時ニ支拂フ時ハ償金ニ對スル利子全部ヲ免除サルノミナラズ同條約第八條ノ規定ニヨリ威海衛占領軍ヲモ撤回サルベク清國ノ體面ヲ保持スル少カラズ茲ニ於テ清國ハ殘額全部ヲ一時ニ皆濟スベク復外債ニ依ラントシタルモ海關稅收入ノ如キ既ニ擔保ノ餘力乏シク爲ニ其條件次第ニ苛重ヲ加ヘントスルアリシヲ以テ右中允黃思永ノ獻策ニヨリ歐米ノ例ニ習ヒテ內國債ヲ募集シ以テ日本ニ對スル支拂ノ用ニ充テントシ昭信股票章程ヲ發布シ王公諸大臣自ラ進ンデ之ニ應ジ範ヲ天下ニ示シテ國民ノ愛國心ニ訴ヘ以テ資ヲ得ント苦心シタルモ全然失敗ニ終リテ如何トモスル能ハザリシカバ茲ニ再ビ外債ニ依賴セントスルヤ列國亦之ガ引受ニ付紛爭ヲ極メ爲ニ清國ハ列國ノ申込全部ヲ拒絶セザルベカラザルノ苦境ニ陷レリ

蓋シ露國ハ之ヨリ先キ一八九七年十二月一日手取九十三、年利四分ノ條件ヲ以テ清國ニ公債ノ引受ヲ申込ミ其報酬トシテ滿州並ニ北省ノ鐵道敷設權ノ讓與及露國人ヲ以テ總稅務司ニ任命センコトヲ以テシ英國亦公使マクドナルドヲシテ手取九十四、年利五分ヲ以テ引受ノ申込ヲナシ其報酬トシテ財政監督權、緬甸ヨリ揚子江ニ達スル鐵道敷設權ノ讓與南甯通商其他ノ條件ヲ以テシタレバ翌一八九八年一月二十五日、露ハ列國均勢ヲ破ルヲ口實トシ佛ハ南甯ノ通商ハ佛國ノ既得權ヲ侵害スルモノナリトノ理由ヲ以テ供ニ英國ニ對抗シ兩々相降ラズ清國ヲシテ其何レヲモ採ル與ハザラシムルニ至リタレバナリ

斯クテ内外債何レヲモ頼ムベカラザルニ至リ萬策盡キタル清國ハ最後ノ手段トシテ日本ニ照會シ償金支拂二十ケ年間ノ延期ヲ哀請シタルニ日本ハ直チニ之ヲ拒絕シ而モ此事情ノ忽チ外間ニ暴露シタルヲ以テ列國ノ清廷ニ迫ル愈急トナリ事態穩カナラズ日本モ之ヲ傍觀スルヲ得ザルニ至リシカバ英獨ヲ幹施シ香港上海銀行獨逸亞細亞銀行ト供ニ正金銀行ヲシテ其一部ヲ引受ケシメ茲ニ一千六百萬磅ノ公債募集契約成立セリ

只日本ガ此際清國ノ懇請ヲ峻拒シテ列國ニ乘ズベキノ機會ヲ與ヘ爲ニ償金皆濟ト共ニ清國人ノ怨恨ヲ買ヒテ僅カニ泡沫的ナル經濟界ノ膨脹ヲ促シタルハ吾人其是非ヲ判斷スルニ苦ム

B 本公債募集契約主要條件

- 一、債權者 香港上海銀行獨逸亞細亞銀行
- 二、起債額 一千六百萬磅
- 三、利子 年四分五厘每年三月一日及九月一日之ヲ支拂フ
- 四、發行價格 一八九八年三月十七日九十磅ニテ發行ス
- 五、手取額 八三、
- 六、手數料 取扱銀行手數料トシテ元利取扱金高ノ四百分ノ一ヲ交付ス
- 七、擔保 從前ノ優先權者ニ次ギ海關收入ヲ擔保トシ其不足額ニ對シテ蘇州松滬九江浙東ニ於ル鹽釐金稅ヲ加フベク本公債存續中ハ右諸處ノ釐金稅ハ總稅務司ヲシテ之ヲ管理セシム
- 八、償還期限 一八九九年ヨリ一九四三年ニ至ル四十五年間每年三月一日元金

ヲ償還ス、毎年償還スベキ元利合計八十三萬五千二百三十四磅ハ
毎月六萬九千六百〇三磅宛香港上海銀行及獨逸亞細亞銀行へ預
ケ入レテ之ヲ積立ツベシ

九、發行地 倫敦及伯林

償還既濟高及現存額

償還既濟高

未償還現在高

一、九七七、三七五磅
一四、〇二二、六二五磅

償還財源 本公債償還資金トシテ清國政府ノ準備セル財源左ノ如シ

本公債ハ海關ノ收入ヲ以テ全部ヲ償却スルニ足ラサルガ故七ヶ處ノ釐金稅ヲ以
テ之ヲ補フコトトシタリ故ニ擔保ニ加ヘラレタル釐金局ノ收稅事務ハ一八九八
年ヨリ時ノ總稅務司ロバート、ハートノ管理ニ歸シタリ之レ後年各地ノ釐金局舊
關鈔關等ノ監理權ヲモ總稅務司ニ委任スルニ至レル濫觴ニシテ七處釐金局豫定
收稅高左ノ如シ

一、蘇州貨釐

八〇〇、〇〇〇兩

二、松滬(上海地方)諸品釐金稅

一、二〇〇、〇〇〇兩

三、九江諸品釐金稅

二〇〇、〇〇〇兩

四、浙東釐金稅

一〇〇、〇〇〇兩

五、宜昌鹽釐金稅萬戶沱鹽消費稅增徴

一〇〇、〇〇〇兩

六、湖北沿岸鹽釐金稅

五〇〇、〇〇〇兩

七、安徽沿岸鹽釐金稅

三〇〇、〇〇〇兩

合計

五、〇〇〇、〇〇〇兩

尙毎年推定不足額一百六十八萬一千八百七十二兩ハ海關收入ノ剩餘金若クハ
戶部ヨリノ支出ヲ以テ之ヲ補フ

第四節 日清戰爭ノ清國財政ニ與ヘタル打撃

日清戰爭ガ清國ニ與ヘタル影響ハ一言之ヲ言ヘバアラユル方面ニ於テ清國ノ信
用ト威嚴ヲ根底ヨリ覆シ所謂眠レル獅子ヲシテ死セル獅子タラシメタルニアリ
戰後列國ガ種々ノ外交手段ヲ弄シテ清國ニ要求シタル土地租借、土地ノ不割讓、鐵

道敷設其他鑛山ノ開掘等要スルニ逞般事情ノ發露シタル一端ニ過ズ就中其財政上ニ與ヘタル影響ハ最モ甚大ナル打擊ヲ清國ニ與ヘタルモノト言フベク第二次英獨公債募集ニ際シ英國ヨリ財政監督權ヲ要求セラレタルガ如キ他ニ政治上ノ目的アリシハ勿論ナレドモ清國財政上ノ信用既ニ地ニ落チタルヲ證シテ餘リアリ」清國ガ之戰爭ノタメ實際戰費トシテ支出シタルハ大約九百一十一萬磅ニシテ我國ノ二億餘萬圓ヲ費シタルニ比シ其半額ニ足ラズト雖モ戰敗ノ結果二億兩ノ賠償金ヲ負擔スルニ及ビ俄ニ巨額ノ外債ヲ負擔シテ非常ナル歲出増加ヲ見ルニ至レリ今其歲出増加ノ止ムナキニ至リシ經路ヲ略說スレバ左ノ如シ

- 日清戰爭中清國ノ支出シタル軍事費次ノ如シ
- 一、海軍豫備金 二、五〇〇、〇〇〇兩
 - 二、內帑金 三、〇〇〇、〇〇〇兩
 - 三、內國債 一、〇〇〇、〇〇〇兩
 - 小計 一六、五〇〇、〇〇〇兩
 - 英貨換算 二、四七五、〇〇〇磅

四、外國債

總計

六、六三五、〇〇〇磅
九、一〇〇、〇〇〇磅

次ニ日本ヘ支拂ヒシ賠償金額ヲ見ルニ左ノ如シ

換算率三志三片

- 一、軍費賠償金 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇兩 三二、五〇〇、〇〇〇磅
- 二、遼東還付報酬 三〇、〇〇〇、〇〇〇兩 四、八七五、〇〇〇磅
- 三、威海衛駐屯軍費 一、五〇〇、〇〇〇兩 一、五〇〇、〇〇〇磅
- 合計 二三一、五〇〇、〇〇〇兩 三七、六一八、七五〇磅

乃チ清國ガ此戰爭ノタメ支出シタル軍費及賠償金ノ總額ハ四千六百七十二萬八千七百五十磅ニシテ此內國內ヨリ調達シタルハ僅カニ二百四十七萬五千磅ニ過ズ殘餘ノ四千四百二十五萬三千七百五十磅ハ皆外債ニヨリテ支辨シタリ

茲ニ於テ日清戰爭ノタメ前後七回清國ガ募集シタル外債ノ總額ハ左ノ如キ數ニ上ルヲ見ル

日清戰役外債總額

起債年次	名稱	起債額
一八九四年	香港上海銀行銀貨公債	一、六三五、〇〇〇磅
一八九五年	香港上海銀行金貨公債	三、〇〇〇、〇〇〇磅
同	克薩公債	一、〇〇〇、〇〇〇磅
同	瑞記公債	一、〇〇〇、〇〇〇磅
同	露佛公債	一、五八二、〇〇〇磅
一九九六年	英獨公債	一六、〇〇〇、〇〇〇磅
一八九八年	英獨第二次公債	一六、〇〇〇、〇〇〇磅
合計		五四、四五五、〇〇〇磅

即チ總額五千四百四十五萬五千磅ノ巨額ニ及ブ
 清國ハ之ニヨリテ得タル資金ヲ以テ媾和條約批准交換後七ケ年以内ニ支拂フベ
 キ庫平銀二億兩ノ賠償金ヲ三ケ年以内ニ完済シ以テ其利子ノ支拂ヲ免カルト共
 ニ遼東半島還付報酬トシテ三千萬兩威海衛占領軍駐屯經費ノ四分ノ一百五十萬
 兩ヲ支拂ヒテ敗戦ノ名殘リヲ一掃シタルモ爲ニ年々外債償還ノ基金トシテ各省

ヨリ支出スルノ餘儀ナキニ至リタル定額基金左ノ如シ

公債名稱	償還基金年額
香港上海銀行銀貨公債	一、四三二、〇〇〇兩
香港上海銀行金貨公債	二、六二三、〇〇〇兩
克薩公債	八三三、〇〇〇兩
瑞記公債	六七〇、〇〇〇兩
露佛公債	六、二五五、〇〇〇兩
英獨公債	八、三七五、〇〇〇兩
第二次英獨公債	五、〇〇〇、〇〇〇兩
合計	二五、一八五、〇〇〇兩

依是觀之ニ前述外債募集ノ結果清國ノ負擔セル歲出増加ハ年額二千五百十八萬
 五千兩ニシテ日本ニ支拂ヒタル賠償金全額ノ十分ノ一以上ニ上リ開戦以前ノ歲
 出約九千萬兩ノ三分ノ一ニ達セントスルヲ見レバ假令其一部ハ之ヲ經費節減ニ
 ヨリテ支出シ得ベシト雖モ其財政上ニ受ケタル打擊ノ甚大ナル想像ニ難カラズ

今參考ノタメ著者ノ記述セルモノト杆格スル處アルモパーカー氏ノ調査シタル
日清戰役後ノ歲出入額ヲ表示スレバ左ノ如シ

歲入之部

地租銀納	二五、九六七、〇〇〇兩
地租穀納	七、九六七、〇〇〇兩
内地關稅	四、二三〇、〇〇〇兩
鹽課鹽釐	一三、〇五〇、〇〇〇兩
海關稅	二二、〇五二、〇〇〇兩
釐金稅	一一、一六〇、〇〇〇兩
内地阿片稅	二、八三〇、〇〇〇兩
雜稅	二、一六五、〇〇〇兩
蘆課	二一五、〇〇〇兩
租課租息	六九〇、〇〇〇兩
土地賣買稅及質屋稅	一一〇、〇〇〇兩

揖官(官職位階ノ賣却)

協餉	二六六、〇〇〇兩
内國公使及献納金	九、二八二、〇〇〇兩
茶稅	六、三三四、〇〇〇兩
米及石炭釐金稅	九〇〇、〇〇〇兩
合計	一一〇、五六七、〇〇〇兩
歲出之部	
京餉	七、八四〇、〇〇〇兩
平色	四、〇八〇、〇〇〇兩
揖頂	一、三四一、〇〇〇兩
漕糧費	一、七〇〇、〇〇〇兩
西北邊防費	一、七五五、〇〇〇兩
甘肅陝西防費	三、六六〇、〇〇〇兩
中央政府ノ文武官俸給補助費	一、五七二、〇〇〇兩

各種防備費	一、六一〇、〇〇〇兩
北京防備費	六六〇、〇〇〇兩
沿岸防備費	一、四五〇、〇〇〇兩
鐵道經費	五五〇、〇〇〇兩
陸海軍備費	二七、三七〇、〇〇〇兩
機器局費	三、三八五、〇〇〇兩
河工費	一、三八九、〇〇〇兩
海關經費	二、二〇四、〇〇〇兩
各省行政費	三六、二二五、〇〇〇兩
協 餉	四、七七五、〇〇〇兩
合 計	一〇一、五六七、〇〇〇兩

最後ニ一言シ置カザルベカラザルハ外債ニヨリ支辨シタル軍費賠償金總額四千四百二十五萬三千七百五十磅ナルニ募集シタル外債總額五千四百四十五萬五千磅ニシテ其間一千〇二十萬千二百五十磅ノ差額ヲ見ルベク額面ニ對スル割引高

ヲ控除スルモ尙五百六十萬磅ノ剩餘ヲ生ズル筈ナリ然ルニ之殘餘金中約二百萬磅ハ戰後英國ニ注文シテ購入シタル海折海容等巡洋艦六隻ノ代金トシテ支出シタルモ尙其殘餘約三百六十萬磅ニ至リテハ今ニ至ルモ其支途不明ニシテ之ヲ詳カニセズト雖モ察スルニ戰後財政ノ紊亂セルニ棄ジ當路ノ王公大官互ニ私腹ヲ肥シテ有邪無邪ノ間ニ葬リ去リタルガ如キ一事ナリ

第三章 義和團事變賠償外債

第一節 事變前ノ財政狀態

日本ト戰ヒテ一敗地ニ塗レタル清國ハ之ガ結果トシテ多大ノ外債ヲ負擔シタリ茲ニ於テ其財政ハ之ガ元利償却ノタメ自ラ累ヲ蒙ラザルヲ得ズ而モ從來公債ヲ募集シタルコト殆ド稀ナリシ清國ハ俄ニ激増シタル歲出ニ應ズルノ處置ヲ策スル甚ダ容易ナラザルモノアルニ一方敗戰ノ經驗ヨリ得タル痛恨ノ情ハ自ラ軍備擴張兵力増加トナリテ之ガ費用ノ支出ヲ迫ラザルヲ得ズ茲ニ於テカ消極積極ニ様ノ必要ハ遂ニ其歲出ヲシテ次第ニ激増セシメ財政日ニ膨張シテ停止セズ累年

六七百萬兩ノ不足ヲ告グルノ窮境ニ陥リテ如何トモスル能ハザルノ状態ナリシカバ此五ケ年間ニハ交戦中ヨリノ繼續工事ナル關内外鐵道公債二百三十萬磅及露白兩國ヨリ巧ニ募債ヲ強ヒラレタル蘆漢鐵道公債一億一千二百五十萬法ヲ除ケバ亦外債ヲ募リタルコトナク只管ラ財政ノ整理ニ腐心シツ、アリシモ戰後三國干涉ヲ哀請シテ日本ノ頭上ニ一種ノ壓力ヲ加ヘタル結果ハ再ビ清國ニ歸リ來リテ外部ノ壓力トナリ財政ノ困難外部ノ壓迫ハ二者相合シテ一轉再轉終ニ一方ニ蘊結セル排外思想ノ爆發トナリ清國ヲシテ其財政ヲ整理スルニ暇アラズ更ニ大ナル負擔ノ下ニ殆ド永久呻吟スルノ止ムナキニ至ラシメタリ

乃チ曩ニ日本トノ交戦中軍費應募ノ好餌ヲ以テ清國ヲ操リ後更ニ三國干涉ノ勞ヲ以テ巧ニ清國ノ歡心ヲ買ヒタル獨逸ハ一八九七年十一月一日山東省ニ於テ其宣教師二名ノ殺害サレタルヲ機トシ清國ヲ威壓シテ膠州灣租借ノ約ヲ結ブヤ露國ハ直ニ清國ニ迫リテ同地ノ露國ニ先約アリシヲ理由トシ殆ド威喝ヲ加ヘテ旅順大連ノ租借ヲ約セシムルニ至リ露國ノ旅大租借ハ遂ニ又英國ヲシテ威海衛ノ租借ヲ要求セシム等清國ノ國權漸次蠶食サレテ列強勢力扶植ノ手段漸次高壓的

トナルニ及ビ國論大ニ沸騰シテ排外ノ氣大ニ漲ギルヤ之勢ヲ利用シテ滿朝ヲ覆シ已レ霸權ヲ掌握セント企ツル者出デ茲ニ義和團事變ナル一種奇怪ノ動亂ヲ惹起シ日清戰爭ノ深創未ダ癒ヘサル清國ノ財政ヲシテ頻死ノ窮境ニ陥ラシムルニ至リタリ

第二節 賠償金議定事情

團匪ノ蜂起シテヨリ僅カニ三ヶ月一九〇〇年八月十五日北京ノ陷落シテ列國聯合軍ノ占領スル處トナルヤ蒙塵中ノ皇帝ハ慶親王李鴻章等ヲ以テ全權大臣トシ列國ニ請フテ和ヲ講ゼントスルニ至リシカバ干戈ヲ動スノ時期茲ニ終リヲ告ゲ十二月二十二日連名公書ノ作成ヲ完リテ元兇處罰兵器輸入禁止及通商條約等ノ諸問題ト共ニ賠償金ニ關スル具體的ノ談判開始セララルニ至レリ

今賠償金議定ニ關スル大體ノ經過ヲ見ルニ其要求額ニ付キテハ獨リ米國ノ負擔力豫定說ヲ主張スルアリシモ其他ノ列國皆其受ケタル損害ノ程度ヲ標準トスルニ傾キタル結果獨逸和白四ヶ國使臣ヨリナル償金基礎調査委員ハ其受ケタル損

害ヲ基礎トシテ算出スルニ決シ最初先ツ其金額ヲ六億三千萬兩ト假定シタルモ其後數回ノ協議ノ後遂ニ四億五千萬兩トスルニ決定シタリ

其ノ支拂方法ニ關シテハ英獨日佛四ヶ國ノ公使ヨリナル支拂方法及財源調査委員會ノ報告書ヲ基礎トシ露國ハ列國共同シテ清國ノ公債ヲ保證シ其募集シ得タル資金ヲ以テ賠償ニ充ツベシト主張シ佛國之ニ贊シタルモ之方法ハ列國ニ重大ナル責任ヲ負擔セシムルモノナリシカバ英國ハ證券交附說即チ清國ヲシテ各國ニ支拂ベキ償金額ニ相當スル證券ヲ各國別々ニ交付セシムルノ說ヲ主張シ兩者對立シテ相降ラズ論議沸然トシテ一時ハ停止スル處ヲ知ラズ萬波起伏ノ狀アリシガ協議ヲ重ヌル數回終ニ英國ノ主張スル證券交附說ヲ採用セントシタルモ之方法ニヨル時ハ其國ノ財政的信用ノ如何ニヨリ證券價格ニ差異ヲ生ズルヲ免レズ日露兩國ノ如キ財政上第二位ニアル國ニ於テハ之患アルヤ明カナリシカバ之ガ豫防策トシテ種々ノ協議ヲ遂ゲタル後遂ニ列國共同ニ一枚ノ證券ヲ交附シテ之患ヲ除クコトトシタリ

財源ニ就テハ大體調査委員ノ報告ヲ可決採用スルニ決シタルモ各國互ニ自國ノ

利害ヨリ打算シテ諸種ノ要求ヲ提出シ甲論乙駁容易ニ全部ノ決定ヲ見ルニ至ラザリシモ數ヶ月間ノ會議ノ後一九〇一年八月十日ニ至リテ漸ク左ノ如ク決定シタリ

- 一 海關稅內地海關及鹽稅ノ三稅ヲ以テ償金ノ財源ニ充ツルコト
 - 二 海關稅ハ實價五分ニ引上ゲ議定書調印後二ヶ月目ヨリ實施スルコト但シ議定書調印後十日以内ニ出港シタル船舶ニ積載セル貨物ハ縱令右實施期日以後ニ清國ニ到着スルモ依然舊稅率ニヨリ徵收スベキコト
 - 三 海關稅中從來ノ從價稅ハ一切從量稅ニ改正スルコト
- 茲ニ於テ一九〇一年九月七日(光緒二十七年七月二十五日)北京ニ於テ十一ヶ國全權委員ト清國委員トノ間ニ最終議定書ノ調印ヲ見ルニ至レリ
- 最終議定書第六條償金ニ關スル規定左ノ如シ
- 清國皇帝陛下ハ千九百一年五月二十九日ノ上諭ヲ以テ列國ニ四億五千萬海關兩ノ償金ヲ支拂フコトヲ約諾セラレタリ此ノ金額ハ即チ千九百年十二月二十日ノ連名公書第六條ニ指定シタル國家軍隊及清國人ニ對スル償金ノ總額ヲ

表示スルモノナリ

四八

甲 此四億五千萬兩ハ左ニ示スガ如キ海關兩ノ列國金貨ニ對スル相場ニ基キ計算シタル金貨債ヲ組成スルモノトス

- 一 海關兩ハ 三、〇五五「マルク」
- 三、五九五 奧國クウロンス
- 〇、七四二 金弗
- 三、七五〇 フランク
- 〇、三志〇片
- 一、四〇七 圓
- 一、七九六 蘭國フロレン
- 一、四一二 金ルーブル(品位一七、四二四ドリア)

ニ相當ス

清國ハ右金貨債額ニ年四分ノ利子ヲ附シ別紙償還表附屬書第十三號ニ示セル條件ニ從ヒ三十九ヶ年ヲ以テ其元金ヲ支拂フベキモノトス

元金及利子ノ支拂ハ金貨ヲ以テスルカ若ハ各支拂期日ニ於ケル爲替相場ヲ以テスベシ

元金償還ハ千九百二年一月一日ニ始マリ千九百四十年ノ末ニ終ル償還金ハ毎年之ヲ支拂フベキモノトシ其第一回ノ拂込期限ヲ千九百三年一月一日ト定ム利子ハ千九百一年七月一日ヨリ起算ス然レドモ清國政府ハ千九百一年十二月三十一日ニ終ル第一期六ヶ月分ノ利子ヲ千九百二年一月一日以後三ヶ年ノ期限内ニ支拂フコトヲ得但シ右延滞額ニ對シテハ年四分ノ重利ヲ附スベキモノトス

利子ハ六ヶ月毎ニ支拂フベキモノトス其ノ第一回ノ拂込期限ヲ千九百二年七月一日ト定ム

乙 公債支拂ハ左記ノ方法ニヨリ上海ニ於テ之ヲ行フベシ

列國ハ各一名ノ委員ニ依リテ銀行者委員會ニ代表セラルベシ該委員會ハ特ニ之ガ爲メニ指定セラレタル清國官吏ヨリ利子及元金ノ支拂ヲ受ケ之ヲ各關係者ニ配分シ且之ニ對シテ領收證ヲ交附スベキ任務ヲ有スルモノトス

丙 清國政府ハ北京駐劄頭等公使ニ償金總額ニ對スル一ノ債券ヲ交附スベシ
 而シテ右債券ハ追テ特ニ之ガ爲ニ指定セラレタル清國政府委員ノ記名セル小
 額債券ニ變換セラルベキモノトス右ノ事務及債券ノ發行ニ關スル一切ノ事務
 ハ列國ガ其ノ代表員ニ下スベキ訓令ニ準シ前記委員ニ於テ之ヲ處理スベシ
 丁 債券ノ支拂ニ充テタル財源ヨリ生ズル收入ハ毎月之ヲ委員會ニ交附スヘ
 シ
 戊 債券ノ擔保ニ供セル財源ヲ列舉スルコト左ノ如シ

第一 新稅關ハ收入ヲ抵當トシタル舊外國債ノ利子及元金ヲ拂ヒタル上存
 スル該收入ノ剩餘金ニ海路輸入品ニ對シ現行稅率ヲ現實五分稅ニ引上グル
 ヨリ生ズベキ收入ヲ加ヘタルモノ但シ外國ヨリ輸入ノ米穀類穀粉金銀貨及
 金銀地金ヲ除クノ外從來無稅ニテ輸入セラルル各物品ハ總テ五分稅ヲ拂フ
 ベシ

第二 開港場ニ於テハ新稅關ノ管理ニ屬スル舊稅關ノ收入

第三 鹽稅ノ收入總額但シ從來外國債ノ擔保ニ充テラレタル分ヲ除ク

現行輸入稅率ヲ現實五分稅ニ引上グルコトハ下記ノ條件ヲ以テ承諾セラレタ
 リ

此稅率引上ハ本議定書調印ノ日附ヨリ二ヶ月後ニ之ヲ實施シ而シテ各日附ヨ
 リ遅クモ十日以内ニ運搬ノ途ニ上リタル商品ノ外其適用ヲ免カラルコトヲ得
 ザルモノトス

第一 從價ニテ徵收シ來レル輸入稅ハ爲シ得ル限り且成ルベク速ニ從量稅ニ
 改定スベキモノトス此改定ハ左ノ如クスヘシ即チ千八百九十七年千八百九
 十八年及千八百九十九年ノ三ヶ年間ニ於ケル各商品陸上當時ノ平均價格換
 言スレバ輸入稅及雜稅ヲ控除シタル市價ヲ以テ評價ノ基礎トス但シ右改定
 ノ結了ヲ見ルニ至ル迄ノ間ハ從價ニテ徵稅スルコト

第二 白河及黃浦口ノ水路ハ清國ノ經費分擔ヲ以テ之ヲ改良スルコト

第三節 賠償金各國分配額及支拂年賦表

義和團事件賠償金四億五千萬海關兩ノ各國分配額左ノ如シ(換算率三志〇片)新聞

紙處報

露	一三〇、二七一、二二〇兩	一九、五四〇、六六八磅
獨	九〇、〇七〇、五一五兩	一三、五一〇、五七七磅
佛	七〇、八七八、二四〇兩	一〇、六三一、七三六磅
英 (金、國、ノ、賠、償、ヲ、含、ム)	五〇、七一二、七九五兩	七、六〇六、九一九磅
日	三四、七九三、一〇〇兩	五、二一八、九六五磅
米	三二、九三九、〇五五兩	四、九四〇、八五八磅
伊	二六、六一七、〇〇五兩	三、九九二、五五〇磅
白	八、五八四、三四五兩	一、二八七、六五一磅
埃	四、〇〇三、九二〇兩	六〇〇、五八八磅
和	七八二、一〇〇兩	一一七、三一五磅
西	一三五、三一五兩	二〇、二九七磅
瑞典那威他	二一二、四九〇兩	三一、八七三磅
合計	四五〇、〇〇〇、〇〇〇兩	六七、五〇〇、〇〇〇磅

附言

一九〇八年ニ至リ米國ハ其割宛額米貨二千四百四十萬弗ハ實際損害高ヨリ多キニ過グルヲ發見シタリトノ理由ヲ以テ千三百六十五萬五千四百九十二弗二十九仙ニ改ムベキヲ提議シテ其差額ヲ免除シタリ

右償金四億五千萬兩ノ支拂年賦額トシテ最終議定書附屬書第十三號ノ規定スル處ハ左ノ如ク之ヲ五期ニ分チ舊公債減少シテ償却基金ニ餘裕ヲ生ズルニ隨ヒ漸次其年賦額ヲ増加スル定メナリ

- 第一期 元金七千五百萬兩、一九〇二年ヨリ三十九年間毎年百分ノ一一・〇六ノ元金償却基金ニヨリ一九〇年ニ完済ス
- 第二期 元金六千萬兩、一九一一年ヨリ三十年間毎年百分ノ一七八三ノ元金償却基金ニヨリ一九四〇年ニ完済ス
- 第三期 元金一千五百萬兩、一九一五年ヨリ二十六年間毎年百分ノ二二五六ノ元金償却基金ニヨリ一九四〇年ニ完済ス
- 第四期 元金五千萬兩、一九一六年ヨリ二十五年間毎年百分ノ二四〇一ノ元

金償却基金ニヨリ一九四〇年ニ完済ス

第五期

元金一億一千五百萬兩 一九三二年ヨリ九年間年々百分ノ九四四九ノ元金償却基金ニヨリ一九四〇年ニ完済ス

最終議定書附屬書第十三號規定ノ賠償金還済表次ノ如シ

年次	賠償金元利	舊外債元利	合計
一九〇二	一八、八二九、五〇〇兩	二二、六〇〇、〇〇〇兩	四二、四二九、五〇〇兩
一九〇三	同	二三、三〇〇、〇〇〇兩	四二、一三九、五〇〇兩
同	同	同	同
四	同	二四、一〇〇、〇〇〇兩	四二、九二九、五〇〇兩
五	同	二三、九〇〇、〇〇〇兩	四二、七二九、五〇〇兩
六	同	二三、七〇〇、〇〇〇兩	四二、五二九、五〇〇兩
七	同	二三、四〇〇、〇〇〇兩	四二、三二九、五〇〇兩
八	同	同	同
九	同	二三、二〇〇、〇〇〇兩	四二、六九九、三〇〇兩
一〇	同	二二、八〇〇、〇〇〇兩	四二、六九九、三〇〇兩
一一	一九、八九九、三〇〇兩	二二、六〇〇、〇〇〇兩	四二、四九九、三〇〇兩
一二	同	二二、四〇〇、〇〇〇兩	四二、二九九、三〇〇兩
一九一三	一九、八九九、三〇〇兩	同	同

第三章 義和團事變賠償外債

一四	同	二二、一〇〇、〇〇〇兩	四一、九九九、三〇〇兩
一五	二三、二八三、三〇〇兩	一九、四〇〇、〇〇〇兩	四二、六八三、三〇〇兩
一六	二四、四八三、八〇〇兩	一八、五〇〇、〇〇〇兩	四二、九八三、八〇〇兩
一七	同	同	同
一八	同	同	同
一九	同	同	同
二〇	同	同	同
二一	同	同	同
二二	同	同	同
二三	同	同	同
二四	同	同	同
二五	同	同	同
二六	同	同	同
二七	同	同	同
二八	同	同	同
二九	同	同	同
三〇	同	同	同
三一	同	一八、四〇〇、〇〇〇兩	四二、八八三、〇〇〇兩
三五			

年次	元金償還額	利息支拂額	元利償却高合計	元金殘高
一九〇一	二、七〇〇、〇〇〇兩	一、三三〇、〇〇〇兩	一、三五〇、〇〇〇兩	六七、五〇〇、〇〇〇兩
一九〇二	二、六八八、四六一兩	二、六〇七、六九二兩	二、九八八、四六一兩	六六、九二二、〇七六兩
一九〇三	二、六七六、九二三兩	二、五九六、一五三兩	二、九七六、九二二兩	六六、六三三、〇七六兩
一九〇四	二、六六五、三八四兩	二、五八四、六一五兩	二、九六五、三八四兩	六六、三四六、一五三兩
一九〇五	二、六五三、八四六兩	二、五七二、六一五兩	二、九五三、八四六兩	六六、〇五七、六九二兩
一九〇六	二、六四二、三〇七兩	二、五六〇、七六九兩	二、九四二、三〇七兩	六五、七六九、二三〇兩
一九〇七	二、六三〇、七六九兩	二、五四九、〇七六兩	二、九三〇、七六九兩	六五、四八〇、七六九兩
一九〇八	二、六一九、二三〇兩	二、五四七、五三八兩	二、九一九、二三〇兩	六五、一九二、三〇七兩
一九〇九	二、六〇七、六九二兩	二、五四五、五三八兩	二、八九六、一五三兩	六四、九〇三、八四六兩
一九一〇	二、五九六、一五三兩	二、五四三、〇〇〇兩	二、八八四、六一五兩	六四、三一五、三八四兩
一九一一	二、五八四、六一五兩	二、五四一、〇七六兩	二、八七二、〇七六兩	六三、七二六、九二二兩
一九一二	二、五七二、六一五兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八六〇、〇〇〇兩	六三、一三八、四六一兩
一九一三	二、五六〇、七六九兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八四八、四六一兩	六二、五九九、九九九兩
一九一四	二、五四九、〇七六兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八三六、九二二兩	六一、〇九六、一五五兩
一九一五	二、五四七、五三八兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八二五、五三八兩	五九、三四二、三〇九兩
一九一六	二、五四六、一五三兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八一四、六一五兩	五七、五八八、四六二兩
一九一七	二、五四四、六一五兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八〇三、〇〇〇兩	五五、八三四、六一六兩
一九一八	二、五四三、〇〇〇兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、七九一、五三八兩	五四、〇八〇、七七〇兩
一九一九	二、五四一、〇七六兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、七八〇、〇〇〇兩	
合計	九八二、二三八、一五〇兩	六七二、二〇〇、〇〇〇兩	一、六五四、四三八、一五〇兩	

義和團事件賠償金年賦表

右表ハ最終議定書ニ掲グル賠償金還濟表ナレドモコハ償還基金ヲ準備スル便宜上賠償金元利及從來負擔セル諸公債ノ年々ノ支拂額ヲ概算シタルモノニシテ實際ノ賠償金償還表ニ非ズ故ニ今前記規定ニ從ヒテ算出シタル年々實際支拂ハルベキ年賦表ヲ掲グレバ次ノ如シ

第三章 義和團事變賠償外債

一九〇二	二、八八八、四六一兩	二、七〇〇、〇〇〇兩	二、九八八、四六一兩	六七、二一一、五三八兩
一九〇三	同	二、六八八、四六一兩	二、九七六、九二二兩	六六、九二二、〇七六兩
一九〇四	同	二、六七六、九二三兩	二、九六五、三八四兩	六六、六三三、〇七六兩
一九〇五	同	二、六六五、三八四兩	二、九五三、八四六兩	六六、三四六、一五三兩
一九〇六	同	二、六五三、八四六兩	二、九四二、三〇七兩	六六、〇五七、六九二兩
一九〇七	同	二、六四二、三〇七兩	二、九三〇、七六九兩	六五、七六九、二三〇兩
一九〇八	同	二、六三〇、七六九兩	二、九一九、二三〇兩	六五、四八〇、七六九兩
一九〇九	同	二、六一九、二三〇兩	二、八九六、一五三兩	六四、九〇三、八四六兩
一九一〇	同	二、六〇七、六九二兩	二、八八四、六一五兩	六四、三一五、三八四兩
一九一一	五八八、四六一兩	二、五九六、一五三兩	二、八七二、〇七六兩	六三、七二六、九二二兩
一九一二	五八八、四六一兩	二、五四九、〇七六兩	二、八六〇、〇〇〇兩	六三、一三八、四六一兩
一九一三	同	二、五四七、五三八兩	二、八四八、四六一兩	六二、五九九、九九九兩
一九一四	同	二、五四五、五三八兩	二、八三六、九二二兩	六一、〇九六、一五五兩
一九一五	一、四五三、八四四兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八二五、五三八兩	五九、三四二、三〇九兩
一九一六	一、七五三、八四六兩	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八一四、六一五兩	五七、五八八、四六二兩
一九一七	同	二、五四〇、〇〇〇兩	二、八〇三、〇〇〇兩	五五、八三四、六一六兩
一九一八	同	二、三〇三、五三八兩	二、七八〇、〇〇〇兩	五四、〇八〇、七七〇兩
一九一九	同	二、二二三、三八四兩		

一九二〇	同	二、一六三、二三〇磅	三、九一七、〇七六磅	五二、三二六、九二四磅
二一	同	二、〇九三、〇七六磅	三、八四六、九二三磅	五〇、五七三、〇七八磅
二二	同	二、〇二二、九一三磅	三、七七六、七六九磅	四八、八一九、二三一磅
二三	同	一、九五二、七六九磅	三、七〇六、六一五磅	四〇、〇六五、三八五磅
二四	同	一、八八三、二一五磅	三、六三七、〇六一磅	四五、三一、五三九磅
二五	同	一、八一三、〇六一磅	三、五六六、九〇七磅	四三、五五七、六九三磅
二六	同	一、七四二、九〇七磅	三、四九六、七五三磅	四一、八〇三、八四七磅
二七	同	一、七二六、七五三磅	三、四八〇、六〇〇磅	四〇、〇五〇、〇〇〇磅
二八	同	一、六〇二、六〇〇磅	三、三五六、四四六磅	三八、二九六、一五四磅
二九	同	一、五三二、四四六磅	三、二八六、二九二磅	三六、五四二、三〇八磅
三〇	同	一、四六二、二九二磅	三、二一六、一三八磅	三四、七八八、四六二磅
三一	同	一、五九二、一三八磅	三、一四五、九八四磅	三三、〇三四、六一六磅
三二	同	一、三二一、九八四磅	四、九九二、四九七磅	二九、三六四、一〇三磅
三三	同	一、一七五、一六四磅	四、八四五、六七六磅	二五、六九三、五九〇磅
三四	同	一、〇二八、三四三磅	四、六九八、八五六磅	二二、〇二三、〇七七磅
三五	同	八八一、五二三磅	四、五五二、〇三五磅	一八、三五二、五六四磅
三六	同	七三四、七〇二磅	四、四〇五、二一五磅	一四、六八二、〇五一磅
三七	同	六一七、八八一磅	四、二八八、三九四磅	一一、〇一一、五三八磅
合計	六七、五〇〇、〇〇〇磅	七五、三六三、六一一磅	一四二、八六三、六一一磅	

一九三八	同	四四一、〇六一磅	四、一一一、三九四磅	七、三四一、〇二五磅
三九	同	二九四、二四〇磅	三、九六四、七五三磅	三、六七〇、五二二磅
四〇	同	一四六、八二〇磅	三、八一七、三三二磅	
合計	六七、五〇〇、〇〇〇磅	七五、三六三、六一一磅	一四二、八六三、六一一磅	
賠償金償却既済額及現在高				
償却既済高		三、一八四、六一六磅		
未償却現在高		六四、三一五、三八四磅		

第四節 賠償金償却財源

最終議定書ニ規定セル賠償金償却財源ハ之ヲ列國ニ提供セル擔保ト見ルベク事實上之ニヨリ其賠償金支拂ノ資ヲ支出スルハ困難ナルノミナラズ清國政府ハ此機會ヲ利用シテ行政整理増稅等ヲ斷行シ賠償金支拂ニ要スル資金ハナルベク之ヲ各省ニ負擔セシメ以テ中央政府ノ財政難ヲ救済スルノ方針ヲ採リ張之洞等十八省督撫ノ反對上奏アリシモ之ヲ斥ケ勅令ヲ以テ左ノ如キ方法ニヨリ毎年償却スベキ金額庫平銀二千二百萬兩ヲ支出セシムルコトト定メタリ

- 一 練兵手宛トシテ從來北京八旗兵虎神營饒騎營等ニ増給シツツアリシ百四十萬兩ノ支給ヲ廢止ス
 - 二 糧食費其他ノ名義ヲ以テ從來神機營及步軍ニ増給シツツアリシ百二十餘萬兩ノ支給ヲ廢止ス
 - 三 從來滿漢官吏及八旗兵丁ニハ其支給スル俸米ノ一部ヲ銀貨ニ換算シテ支給セルモ當分ノ制度ヲ停止シテ一百餘萬兩ヲ節減スルコト
 - 四 南洋經費及沿江沿岸ノ防費並ニ各省水陸ノ勇營練營其他舊來ノ綠營等ノ經營ヲ裁減スルコト
 - 五 地租徵收ニ際シ當局官吏ガ中間私囊ヲ肥ス中飽ノ取締リヲ嚴ニシ國庫ノ實收ヲ増加スルコト
 - 六 房間棧輪家屋稅ノ一種按糧棧輪地租附加稅ノ一種ヲ増徵スルコト
 - 七 一斤四文ノ割合ニテ鹽稅ヲ増徵スルコト
 - 八 內地產阿片茶砂糖煙草酒ノ釐金稅三割ヲ増稅スルコト
- 同時ニ政府ハ右計畫ニ基キ各省ニ左ノ如キ負擔額ヲ割宛テ其割宛額ハ地方督撫

ヨリ毎月直接上海道占ニ送附シテ各國銀行ニ預入レ期限到達ノ際之ヲ償却ノ用ニ供スベキヲ命ジタリ

賠償金各省負擔額

江蘇省	二、五〇〇、〇〇〇兩	四川省	二、二〇〇、〇〇〇兩
江西省	一、四〇〇、〇〇〇兩	湖北省	一、二〇〇、〇〇〇兩
廣東省	二、〇〇〇、〇〇〇兩	安徽省	一、〇〇〇、〇〇〇兩
浙江省	一、四〇〇、〇〇〇兩	山東省	九〇〇、〇〇〇兩
河南省	九〇〇、〇〇〇兩	新疆	四〇〇、〇〇〇兩
山西省	九〇〇、〇〇〇兩	甘肅	三〇〇、〇〇〇兩
福建省	八〇〇、〇〇〇兩	廣西	三〇〇、〇〇〇兩
直隸	八〇〇、〇〇〇兩	雲南	三〇〇、〇〇〇兩
湖南	七〇〇、〇〇〇兩	貴州	二〇〇、〇〇〇兩
陝西	六〇〇、〇〇〇兩	合計	一八、八〇〇、〇〇〇兩
中央政府ヨリ	三、二〇〇、〇〇〇兩	總計	二二、〇〇〇、〇〇〇兩

第五節 銀貨支拂問題 賠償金元利償却
補充公債

前節記述シタルガ如ク清國ハ行政整理及増説ヲ斷行シテ年額二千二百萬兩ノ資
金ヲ得之ヲ以テ其負擔シタル賠償金支拂ノ用ニ供スルノ準備ヲナシ其實行ニ着
手シタルニ其當時ヨリ一般ニ銀價ノ變動著シク特ニ元金及利子支拂ノタメ爲替
ノ替出ヲナス際ニ於ケル爲替相場ハ非常ナル變動ヲ生ジ銀貨國タル清國ノ損失
尠カラズ今當時ノ換算率變動ノ狀況ヲ示セバ左ノ如シ

年次	英貨	佛貨	獨貨	米貨
議定書規定	3 s	fcc. 3.75	ms. 3.055	\$ 0.742
1901	2s11 ⁹ / ₁₆ d	3.73	3.02	0.72
1902	2,7 ¹ / ₅ ”	3.28	2.65	0.63
1903	2,7 ² / ₃ ”	3.31	2.68	0.64
1904	2,10 ² / ₃ ”	3.60	2.92	0.66
1905	3,0 ¹ / ₁₀ ”	3.78	3.07	0.73

茲ニ於テ清國ハ最終議定書並ニ其附屬表ニ「兩」ヲ以テ金額ヲ記載セルヲ口實トシ
銀貨ヲ以テ償金支拂ノ用ニ供スベキヲ提議シタリ然レドモ最終議定書第六條甲
ノ規定スル處ハ明カニ金貨若シクハ其支拂期日ニ於ル爲替相場ヲ以テスベキヲ
明記シテ一點疑問ヲ生ズベキノ餘地ナキモノナレバ各國固ヨリ斯ル不條理ナル
提議ヲ承諾スベキ筈ナシ

茲ニ至テ清國ハ其國庫窮乏ノ實情ヲ告グ切ニ列國ニ哀願スルニ至リシカバ始メ
ヨリ負擔力豫定説ヲ主張シテ賠償金ノ輕減ニ努メタル米國ハ直ニ之ヲ承諾スル
ノ意ヲ洩シ英國亦一九一〇年後更ニ一九二〇年マデヲ條件トシテ之ヲ許スノ意
ヲ表白シタリ蓋シ列國ノ受クル賠償金ハ概シテ其受ケタル實際ノ損害ヲ償フテ
餘リアルハ明白ニシテ金貨支拂ノ件モ議定書ニハ明記シテ一點疑ナシト雖モ其
實議定書調印當時ニ於テハ列國共ニ之件ニ重キヲ置カザリシモノノ如ク上海タ
イムスノ論ズル處ニヨレバ調印前列國ト清國委員トノ間ニハ銀貨支拂ノ約略成
立シ居リタルニ偶調印間際ニ至リテ時ノ英國外相ランズダウン金貨支拂ノ事ヲ
提議シテ遂ニ之ニ決シタルモノナリト

然レド獨佛兩國ハ絶對ニ反對ノ意ヲ表示シテ曰ク列國ハ議定書調印ノ始ニ當リ特ニ財源調査委員ヲ選任シテ之ガ充分ナル調査ヲ遂ゲシメ清國ヲシテ賠償金支拂ノ義務ヲ果サシムルト共ニ充分其國力ヲ恢復シ得セシメンガタメ列國自ラ多大ノ不利ヲ忍ンデ關稅徵收法ノ改正ニ同意シ從來名議ノミナリシ五分ノ輸入稅ヲ現實五分稅ニ引上ゲテ事實上其關稅率ヲ二倍以上ニ増加セシメタルノミナラズ無稅品タリシ粉類牛酪乾酪外國製織物並ニ酒精等ニ課稅スルコトスラ之ヲ承諾シタルニ今又斯ル要求ニ應ズルノ所以ナシ且清國ガ議定書ノ明文ヲ顧ミズ素ニ口ヲ藉リテ銀貨支拂ノ提議ヲナシ其容レラレザルニ及ンデ忽チ事情ヲ國庫ノ窮乏ニ訴フガ如キハ之ヲ信ズル能ハズトナシ負擔ニ耐ヘザル理由ノ具體的ナル說明ヲ要求シタリ

茲ニ於テ折角ノ哀願モ之ヲ貫徹スルニ由ナキニ至リシモ清國ハ尙問題ヲ未決トシテ引續キ銀貨額ヲ以テ支拂ヲナシツ、傍ラ外務部大臣那桐等ヲシテ目的ノ幾分ニテモ之ヲ貫徹スベク極力奔走セシメタル結果一九〇五年十一月ニ至リ列國モ多小ノ讓歩ヲナシテ左ノ如キ協約ヲ結ビ茲ニ本問題ノ解決ヲ見ルニ至レリ

- 一 賠償金元利支拂金ノ換算率ハ毎月其月ノ平均相場ヲ以テ之ヲ定ム
- 二 清國政府ヨリ毎月各國銀行ニ預入スル償却資金ニ對シテハ其預ケ入レノ時ヨリ支拂當日ニ至ル間年四分ノ預金利子ヲ附スベキコト
- 三 支拂ニ金貨ヲ用ヒ且支拂日ニ於テ直接各國へ送金スル以上清國ハ其利益ノタメ何レノ地何レノ銀行タルヲ問ハズ最モ有利ナル率ヲ以テ爲替ヲ買ヒ若クハ電信爲替ヲ組ムコトヲ得
- 四 從來ノ支拂不足額ニ對シテハ年四分ノ割合ヲ以テ利子ヲ附シ之ヲ各國ニ配付スルコト

此協約ニヨリ清國ハ爲替換算率ノ不利ヨリ來ル損失年額三百萬兩内外ハ之ヲ忍バザルベカラザルニ至リタルヲ以テ之ニ要スル金額ト外ニ從來延滞セル不足額ノ支拂ニ要スル資ニ供スルタメ更ニ増稅ヲ斷行スベク各省ニ命ジ一千〇八十萬兩ノ追加負擔ヲ割宛テタリ

湖 北	九〇〇、〇〇〇兩	安 徽	五〇〇、〇〇〇兩
江 甯 藩 庫	八〇〇、〇〇〇兩	河 南	五〇〇、〇〇〇兩

江蘇藩庫	八〇〇,〇〇〇兩	直隸	五〇〇,〇〇〇兩
江西	八〇〇,〇〇〇兩	福建	五〇〇,〇〇〇兩
浙江	七〇〇,〇〇〇兩	上海海關	五〇〇,〇〇〇兩
四川	七〇〇,〇〇〇兩	天津海關	二〇〇,〇〇〇兩
廣東	七〇〇,〇〇〇兩	福州海關	二〇〇,〇〇〇兩
山東	六〇〇,〇〇〇兩	廣東海關	三〇〇,〇〇〇兩
山西	六〇〇,〇〇〇兩	蕪湖海關	一〇〇,〇〇〇兩
湖南	六〇〇,〇〇〇兩	芝罘海關	一〇〇,〇〇〇兩

六六

賠償金元利償却補充公積

前述一九〇五年十一月締結ノ協約ニヨリ清國ハ銀貨支拂問題交渉中三ヶ年間ニ延滞シタル不足額ニ對シ年利四分ヲ加算シテ之ヲ列國ニ支拂ハザルベカラザルニ至リ各省ニ追加割宛ヲナシタルモ到底急速ニ調達シ得ルノ見込ナカリシカバ一九〇五年遂ニ一百万磅ノ外債ヲ募集シ以テ其延滞額支拂ノ用ニ供タシリ

本公集募債契約主要條件

- 一 債權者 香港上海銀行
- 二 起債額 一百万磅
- 三 利子 年利五分毎年一月二日四月二日七月二日及十月二日之ヲ支拂フ
- 四 發行價格 九十七磅
- 五 擔保 山西省ノ煙草稅及百貨釐金稅
- 六 期限 一九〇五年四月ヨリ二十ヶ年間毎三ヶ月目ニ一萬二千五百磅宛償還スベキ契約ナリシモ一九〇七年二月元金五十萬磅ヲ一時ニ償還シタリ

七 發行地 ロンドン

償還既濟高及現在高

償還既濟高 六〇〇,〇〇〇磅

未償還現在額 四〇〇,〇〇〇磅

償還財源 本公債償還資金ハ之ヲ賠償金償却資金ノ中ヨリ支出ス

第六節 義和團事件ノ財政上ニ與ヘタル打擊

抑モ義和團事件ノタメ清國ガ新ニ負擔シタル賠償金總額ハ四億五千萬兩英貨換算六千七百五十萬磅ニシテ之ヲ日清戰役公債五千四百四十五萬五千磅ニ加算スレバ其額實ニ一億二千百九十五萬五千磅ノ巨額ニ達スベク一八九四年十月初メテ香港上海銀行ヨリ銀貨公債ヲ募集シタル時ヨリ本事件議定書ノ調印ヲ完リタル一九〇一年九月ニ至ル七ケ年間一躍一億三千萬磅ニ垂トスル外債ヲ負擔シ茲ニ清國滅亡ノ端ヲ開キタリ即チ之ガ外債負擔ノ結果トシテ毎年償却セザルベカラザル金額ハ約五千餘萬兩ニ達スルニ其財政狀態ハ之ヲ時ノ總稅務司サー、ロバート、ハートノ調査一九〇一年三月二十五日ニ見ルニ左ノ如ク大約八千餘萬兩ノ歲入額ニ過ギザレバ殆ンド全歲入二分ノ一以上ハ之ヲ外債償却ノタメ支出セザルベカラザルノ奇觀ヲ呈スルニ至レリ

地丁銀	二六、五〇〇、〇〇〇兩	地方稅	一、六〇〇、〇〇〇兩
雜稅	一、〇〇〇、〇〇〇兩	精糧	三、一〇〇、〇〇〇兩
歲入額			

鹽稅	一三、五〇〇、〇〇〇兩	釐金	一六、〇〇〇、〇〇〇兩
內地關稅	二、七〇〇、〇〇〇兩	海關稅	一七、〇〇〇、〇〇〇兩
外國阿片稅	五、〇〇〇、〇〇〇兩	內地阿片稅	一、八〇〇、〇〇〇兩
合計	八八、二〇〇、〇〇〇兩		

然レドモ團匪事件賠償金償却ノ方法トシテ清國ノ採リタル方針ハ各省ヲシテ之ガ直接負擔ノ責ニ任ゼシムルニアリタルガ故著者ハ茲ニ之事件ノタメ清國ガ新ニ負擔シタル四億五千萬兩ガ各省歲入ニ對シ如何ナル歩合ノ支出ヲ餘議ナクセシメタルカヲ見ルハ大體ニ於テ清國財政上ニ與ヘタル打擊ノ一端ヲ知ルニ便ナリト信ズルヲ以テ茲ニ之ヲ略說セントス
今戶部ノ諸報告ヲ基礎トシ著者自ラ算出シタル當時ノ各省歲入額ヲ表示スレバ左ノ如シ

各省歲入表

直隸	五、一五三、〇七一兩	福建	二、八四九、八一三兩
山東	四、六八〇、三六七兩	浙江	四、三一九、五五七兩

七〇

山西	四、五二三、九一七兩	湖北	二、〇六三、七四六兩
河南	四、三〇〇、八三五兩	湖南	二、八六六、〇四八兩
江蘇	九、六三九、九一七兩	陝西	二、五三五、三五四兩
安徽	二、〇六九、六二五兩	甘肅	八四五、九二五兩
江西	三、三八五、五一九兩	四川	五、一九七、一〇二兩
廣東	四、一〇四、〇三二兩	廣西	一、二〇三、一八〇兩
雲南	一、八〇四、一六九兩	貴州	五六七、八三七兩
東三省	二、八七七、〇〇〇兩	合計	六六、二一四、八七二兩

然ルニ各省ガ之歳入ノ内ヨリ毎年支出セザルベカラザルニ至リシ賠償金割宛額ハ左ノ如キ數ヲ示ス(但シ一部ハ増税ニヨリ支辨スル法ヲ採リタレバ歳入増加ヲモ來シタルガ故實際負擔ノ割合ハ多少輕減セラレタリ)

省名	初次割宛額	追加割宛額	合計負擔額
直隸	八〇〇、〇〇〇兩	五〇〇、〇〇〇兩	一、三〇〇、〇〇〇兩
山東	九〇〇、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇兩
山西	九〇〇、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇兩

河南	九〇〇、〇〇〇兩	五〇〇、〇〇〇兩	一、四〇〇、〇〇〇兩
江蘇	二、五〇〇、〇〇〇兩	八〇〇、〇〇〇兩	三、三〇〇、〇〇〇兩
安徽	一、〇〇〇、〇〇〇兩	五〇〇、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇兩
江西	一、四〇〇、〇〇〇兩	八〇〇、〇〇〇兩	二、二〇〇、〇〇〇兩
福建	八〇〇、〇〇〇兩	五〇〇、〇〇〇兩	一、三〇〇、〇〇〇兩
浙江	一、四〇〇、〇〇〇兩	七〇〇、〇〇〇兩	二、一〇〇、〇〇〇兩
湖北	一、二〇〇、〇〇〇兩	九〇〇、〇〇〇兩	二、一〇〇、〇〇〇兩
湖南	七〇〇、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇兩	一、三〇〇、〇〇〇兩
陝西	六〇〇、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇兩
甘肅	三〇〇、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩
四川	二、二〇〇、〇〇〇兩	七〇〇、〇〇〇兩	二、九〇〇、〇〇〇兩
廣東	二、〇〇〇、〇〇〇兩	七〇〇、〇〇〇兩	二、七〇〇、〇〇〇兩
廣西	三〇〇、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩
雲南	三〇〇、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩
貴州	二〇〇、〇〇〇兩	二〇〇、〇〇〇兩	二〇〇、〇〇〇兩
新疆	四〇〇、〇〇〇兩	四〇〇、〇〇〇兩	四〇〇、〇〇〇兩
合計	一八、八〇〇、〇〇〇兩	八、四〇〇、〇〇〇兩	二七、二〇〇、〇〇〇兩

茲ニ於テ各省ノ負擔額ガ其歳入額ニ對シ如何ナル割合ヲ示スカヲ算出スレバ左

ノ如シ

省名	歳入額	割宛額	歳入ニ對スル負擔ノ割合
直隸	五、七四七、〇〇〇兩	一、三〇〇、〇〇〇兩	二割二分強
江蘇	二、三二六、九〇〇兩	三、三〇〇、〇〇〇兩	一割四分強
安徽	三、三四九、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇兩	四割五分弱
山東	五、四五二、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇兩	二割七分強
山西	四、一五五、〇〇〇兩	一、五〇〇、〇〇〇兩	三割六分強
河南	四、二六八、〇〇〇兩	一、四〇〇、〇〇〇兩	三割三分弱
陝西	二、三〇一、〇〇〇兩	六〇〇、〇〇〇兩	二割六分弱
甘肅	五六四、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩	五割三分強
福建	四、七九八、〇〇〇兩	一、三〇〇、〇〇〇兩	二割九分強
浙江	六、九八五、〇〇〇兩	二、一〇〇、〇〇〇兩	三割
江西	五、一五五、〇〇〇兩	二、二〇〇、〇〇〇兩	四割
湖南	三、三四三、〇〇〇兩	一、三〇〇、〇〇〇兩	三割九分強
湖北	二、四七九、〇〇〇兩	二、一〇〇、〇〇〇兩	八割五分弱
四川	四、八四二、〇〇〇兩	二、九〇〇、〇〇〇兩	六割
廣東	一〇、八六八、〇〇〇兩	二、七〇〇、〇〇〇兩	二割五分弱
廣西	一、六一八、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩	一割九分弱
雲南	一、八五一、〇〇〇兩	三〇〇、〇〇〇兩	一割六分強

貴州 五〇六、〇〇〇兩

合計 六三、三三七、八七二兩

四割 弱

新疆ハ其歳入額明カナラザルヲ以テ本表ニ加算セズ
 湖南湖北兩省ハ供ニ湖廣總督張之洞ノ管轄ノ下ニアリシガ故事實上其割合ハ
 兩省共之ヲ六割二分ト見做スヲ至當トス
 増税ニヨリ増加シタル歳入額ヲ加算セザルヲ以テ之割合ハ完全ナルモノニ非
 ズ但シ其大體ニ於テハ誤リナキヲ信ズ

乃チ依之觀是ニ各省歳入ニ對スル義和團事件賠償金償却負擔ノ割合ハ平均四割
 二分三厘餘ニシテ負擔ノ割合最モ重キハ湖北省ノ八割五分弱ヲ最トシ江蘇省ノ
 一割四分強ヲ最モ輕シトス元ヨリ其負擔額ノ半バハ新ニ増税ニヨリ得タルモノ
 ヲ以テ之ニ充テ又事實ニ於テ右割宛額規定通リノ負擔ハ之ヲ免レタルモノ少カ
 ラズト雖ドモ其各省財政ニ與ヘタル打擊ハ輕少ナラズ特ニ其負擔ノ省ニヨリ甚
 ダシク輕重ノ差アルハ支那ノ租稅ガ常ニ編重編輕其間少シモ負擔ノ公平ヲ得ザ
 ルト相俟テ最後ノ負擔者タル人民ヲ苦シムルコト言フ俟タズ如何ニ協餉ノ制ア

リト雖モ當時戰亂ノ後ヲ享ケテ財政紊亂シ經濟界モ未ダ恢復シ得ザル時ニ當リ
 斯ノ如キ巨額ノ支出ヲ負擔スルニ至リタル困難ハ蓋シ想像ニ難カラズ彼ノ張之
 洞ヲ始メ十八省ノ督撫等ガ負擔割宛額制定ニ當リ連署シテ其輕減ヲ主張シタル
 故ナキニ非ザルナリ
 然レバ銀貨支拂問題ノ落着シタル翌年一九〇六年度ニ於ル各省歲入ハ左ノ如ク
 増加スルニ至レリ蓋シ之増加額ノ大部分ハ之ヲ賠償金割宛ニ基因スル増稅ノ結
 果ナリト斷ズルヲ得ベシ

一九〇六年度各省歲入表 英國公使館調査

直隸	五、七四七、〇〇〇兩	山東	五、四五二、〇〇〇兩
山西	四、一五五、〇〇〇兩	河南	四、二六八、〇〇〇兩
江蘇	二、三二六、九〇〇兩	安徽	三、三四九、〇〇〇兩
江西	五、一五五、〇〇〇兩	福建	四、七九八、〇〇〇兩
浙江	六、九八五、〇〇〇兩	湖北	二、四七九、〇〇〇兩
湖南	三、三四三、〇〇〇兩	陝西	二、三〇一、〇〇〇兩

甘肅	五六四、〇〇〇兩	四川	四、八四二、〇〇〇兩
廣東	一〇、八六八、〇〇〇兩	廣西	一、六一八、〇〇〇兩
雲南	一、八五一、〇〇〇兩	貴州	五〇六、〇〇〇兩
東三省	二、八七七、〇〇〇兩	合計	九四、四三七、〇〇〇兩

之ヲ要スルニ義和團事件ハ俄ニ四億五千萬兩ノ國債ヲ増加セシメ爲ニ三千二百
 餘萬兩ノ歲出増加ヲ餘儀ナクシ清國ノ財政ヲシテ破産ノ止ムヲ得ザル境遇ニ陷
 レ遂ニ革命戰爭ニ際シ戰費調ハズ皇室ノ廢滅ヲ見ルニ至ルノ因ヲ造リタルモノ
 ト言ハザルベカラズ

第四章 最近募集ノ中央外債

第一節 中央官制改革後ノ財政狀態

北清事變ノタメ其財政上ニ致命ノ深創ヲ受ケタル清國ハ亂后内外ノ壓迫ト自然
 ノ情勢ニ迫ラレテ一九〇六年九月斷然中央官制ヲ改革シ大ニ積弊ヲ除去スルニ
 努メ所謂變法自彊ノ策トシ一九一三年ヲ期シ國會ヲ開設シテ立憲制ヲ施行スル

コトヲ公約シ中央地方共之カ準備施設ニ忙殺サルルニ至リシカハ其財政ハ逐年膨脹シテ停止スル處ヲ知ラス然レハ一九〇六年英國公使館ノ調査シタル各省歳入ハ大約九千四百四十二萬七千餘兩ナリシニ一九一〇年曩ニ發布シタル清理財政條例ノ規定ニヨリ各省ニ特派サレタル財政監督官カ一九〇八年度ノ各省歳入額ナリトシテ發表シタルモノ及一九一一年度歳出入豫算案ハ左表ノ如キ數字ノ膨脹ヲ示スニ至レリ

一九〇八年度各省歳出入決算表

省名	歳入額	歳出額	過不足
奉天	一五、八〇七、二七三兩	一五、五八七、八八九兩	超過額 二一九、三八四兩
吉林	四、八五八、七〇二兩	五、三五五、六五七兩	不足額 四九六、九九五兩
黑龍江	一、九〇四、〇二二兩	二、七七八、六一二兩	同 八七四、五八九兩
直隸	二二、四六四、九八二兩	二四、四一五、四〇三兩	同 一九五〇、四二一兩
江蘇	四七、六五四、六〇四兩	五二、〇一〇、二三七兩	同 四、三五五、六三二兩
安徽	六、〇〇六、七二九兩	六、七四一、七七九兩	同 七三五、〇五〇兩
山東	一一、三一一、六九九兩	一〇、五〇二、九二八兩	超過額 七八五、七七一兩
山西	五、八七一、八〇六兩	六、一四〇、二五二兩	不足額 二六八、四四六兩

省名	歳入額	歳出額	過不足
河南	六、八八五、一一七兩	六、六〇〇、〇九四兩	超過額 二八五、〇二三兩
陝西	三、九六三、七〇二兩	四、一二七、五六五兩	不足額 一六三、八六三兩
新疆	三、一七二、三〇〇兩	三、三四六、五六四兩	同 一七四、二六四兩
甘肅	三、一一一、七八〇兩	三、二九三、一九四兩	同 一六九、八四〇兩
福建	六、七二一、一〇五兩	六、九四一、一〇七兩	同 二二〇、〇〇二兩
浙江	一一、〇七九、二五四兩	一一、三五五、三六八兩	同 二七六、一三三兩
江西	七、五六九、八六三兩	七、八九五、一七七兩	同 三二五、三一四兩
湖北	一六、五四五、二〇〇兩	一八、五二一、四〇〇兩	同 一九七六、二〇〇兩
湖南	六、四四二、二六〇兩	六、七八八、三五八兩	同 三四六、〇九七兩
四川	一五、三二〇、六五九兩	一四、九六四、九二六兩	超過額 三五五、七三一兩
廣東	二五、二七五、六九六兩	二五、五〇五、四八九兩	不足額 二二九、七九三兩
廣西	四、八九〇、六四三兩	四、九九二、一五七兩	同 一〇一、五一四兩
雲南	六、〇一一、五〇二兩	六、九九三、一六六兩	同 九七一、六六四兩
貴州	一、五三三、二七〇兩	一、七九一、〇五六兩	同 二五七、七八六兩
合計	二三四、四一三、〇四三兩	二四六、六六一、三八〇兩	不足額二、二四八、三三七兩

注意右表金額中其合計額ハ甲省ヨリ乙省ニ移轉スル協餉ノ結果重復トナレルモノアレハ實際全國ノ地方歳出入高ヨリ稍其額多キニ過グルモノナリ

一九一一年度豫算表

歲入之部

(1) 經常歲入

地租	四六、一六四、七〇九兩八五
鹽茶稅	四六、三一二、三五五兩〇二
海關稅	三五、一三九、九一七兩九六
常關稅	六、九九〇、八四五兩九二
正雜各稅	三六、一六三、八四二兩一七
釐金稅	四三、一八七、九〇七兩〇九
官業收入	四六、六〇〇、八九九兩七五
雜收入	一九、一九四、一〇一兩七〇
合計	二六九、七五五、五七九兩四六
地租	一九、三六六、三六兩四二
(2) 臨時歲入	

常關稅	八、五二四兩〇四
楫輪	五、六五二、三三四兩一一
公債	三、五六〇、〇〇〇兩〇〇
雜收入	一六、〇五〇、六四八兩九四
合計	二七、二〇八、一四二兩五一
總計	二九六、九六二、七二一兩九七

歲出之部

(一) 經常歲出

行政費	二六、〇六九、六六六兩九七
交涉費	三、三七五、一三〇兩〇一
民政費	一九、七三五、七八七兩六三
財政費	一九、九〇三、五四五兩六八
海關經費	五、七四八、二三七兩四五
常關經費	一、四六〇、三三二兩七〇

典 禮 費
 教 育 費
 司 法 費
 軍 政 費
 實 業 費
 交 通 費
 工 程 費
 官 業 支 出
 各 省 解 洋 賠 款
 海 關 解 洋 賠 款
 常 關 解 洋 賠 款
 邊 防 經 費

合 計

(二) 臨時歲出

七四五、七五九兩六四
 一二、八〇一、四六八兩五九
 六六、一六、五七九兩一九
 八三、四九八、一一一兩四〇
 五、三一五、六〇六兩六八
 四八、八九八、三五五兩九八
 二、五一、二五七兩二三
 七、六九六、三六一兩七八
 三九、一二〇、九二二兩九二
 一一、二六三、五四七兩七八
 一一、二五六、四九一兩八三
 一、二三九、九〇八兩四一
 二九五、二五六、八八二兩二七

八〇

行 政 費
 交 涉 費
 田 政 費
 海 關 經 費
 常 關 經 費
 民 政 費
 典 禮 費
 教 育 費
 司 法 費
 軍 政 費
 實 業 費
 交 通 費
 工 程 費
 公 債 費

第四章 最近募集ノ中央外債

一、二五八、一八四兩九九
 六二六、一七七兩六五
 二、八七七、九〇四兩二一
 九、一六三兩〇九
 四〇、五七六兩一九
 二、七二四、九七四兩三五
 五、四〇三、七兩四二
 三、三四八、〇六一兩四七
 二、一八、七四六兩三〇
 一、四〇〇、五四六兩〇一
 六、六七、一五四兩九五
 七、八〇四、九〇八兩三〇
 二、五七六、一三七兩三六
 四、七七二、六一三兩九四

八一

合計

四〇、九七九、一八〇兩二三

八二

總計

三三六、二三六、〇六二兩五〇

依之觀是ニ新ニ財政章程ヲ制定シテ其歲出入額ヲ検査スルニ至リタルタメ從來地方督撫ノ私腹ヲ肥シツ、アリシ金額ノ歲出入表ニ計上サルルニ至リシモノアルベク民間經濟界ノ漸次恢復スルニ從ヒ產業發達シテ其歲入ヲ増加スルト同時ニ物價騰貴シテ歲出亦遞加シタルモノ少カラザルベシト雖要スル世界ノ大勢ニ促サレ種々ノ必要ニ迫ラレテ非常ナル財政ノ膨脹ヲ餘儀ナクサレタルモノト言フヲ得ベク而モ其歲入ハ累年數千萬兩ノ不足ヲ生ジ歲出歲入收支ノ適合ヲ計ルニ由ナク財政ノ困難ハ遂ニ一九一一年五月英佛獨米四ヶ國ノ銀行ヨリ幣制改革及實業振興ニ使用スルナル名義ノ下ニ一千萬磅ノ大外債ヲ募集シテ其大部分ヲ數年間累年不足セル中央政府ノ費用ニ供セント企畫セシムルニ至リ既ニ契約書ノ調印ヲ終リテ一部現金ノ受授サヘ終リタルモ其契約書中明カニ日露兩國ノ利權ヲ侵害スル規定アリタルタメ兩國ノ抗議ニ會シテ荏苒躊躇決行スルニ至ラザリシニ十月武漢ニ革命ノ亂起リ各省獨立ヲ宣言スルニ及ビ國庫忽チ破産ノ危急

ニ類シテ革軍討伐ノ戰費調ハズ僅々數ヶ月ニシテ皇帝退位ノ止ムナキ窮境ニ陥リ清朝茲ニ滅亡シテ中華民國ナル東洋最初ノ共和國ヲ實現スルニ至リタリ

第二節 革命戰爭以前ノ外債

其一 四國金貨公債

A 本公債募集事情

清國政府ハ其財政累年數千萬兩ノ歲入不足ヲ生ジ公債ヲ募ルニ非ズンバ到底顛補ノ途ナキヲ見ルヤ一九〇八年特ニ米國ニ委員ヲ派シテ名ヲ幣制改革ニ藉リ外債募集ヲ計リタルモ當時偶々兩宮崩御ニ會シテ一時交渉ヲ中絶スルノ止ムナキニ至リタリ然レドモ財政ノ缺陷ハ年ヲ遂フテ益甚ダシク一日モ忽諸ニ附スベカラザルモノアリシカバ一九一〇年ニ到リ再ビ米國政府ヲ通ジテ其資本家ニ外債ノ引受ヲ依頼シタリ茲ニ於テ曩ニ滿洲鐵道中立問題及錦愛鐵道敷設問題ニ關シ日露兩國ノ拒絕ニ遇フテ投資ノ中止ヲ餘議ナクサレタル米國資本國ハ好機逸スベカラズトナシ同年十月直ニ幣制改革及滿州企業振興資金トシテ米貨五千萬弗

ノ引受ヲ契約シタルモ日露ノ勢力圈内ニ於ケル單獨投資ノ容易ナラザルモノアルベキヲ感ズルヤ其代表者ストレートヲシテ百方畫策セシメタル結果從來南清地方ニ於テ鐵道敷設鑛山採掘等ニ關シ競争ノ弊ニ耐ヘズシテ合同ニ傾キツアリシ獨逸亞細亞銀行英國香港上海銀行及佛國印度支那銀行等ヲ誘致シテ茲ニ所謂四國銀行團 *four nation group* ナルモノヲ組織シ一九一一年四月十五日一千萬磅ノ大借款契約ノ調印ヲ終リ同月二十四日四十萬磅ノ前渡金ヲ交附シタリ然ルニ右借款契約書第十六條ニ「清帝國政府ニシテ本契約ニヨリ企畫セル事業ノ繼續又ハ完成ノタメ本公債手取金以外ノ資金ヲ内債ニ俟タス外債ニ倚ラントスル場合ニハ先ツ銀行團ニ計ルベク此追加公債ニ對シ四國資本家團ト條件不調ノ場合始メテ他ノ資本國ニ申込ムベシ而シテ若シ清國政府ニシテ本公債ニヨリ企畫シ又ハ其レニ關聯セル滿州企業ヲ清國人ト共同經營セシムルタメ外資ヲ招募スル場合ニハ先ツ銀行團ニ共同ノ利益ヲ附與スベシ」ナル規定アリテ明力ニ滿州ニ於ル日露兩國ノ優越ナル權利ヲ侵害シ其利益ヲ壟斷スルモノナリシカバ日露兩國ハ共同シテ右規定ノ兩國特種利權ヲ侵害スルモノナルコトヲ英佛獨米四ヶ

國ニ指摘シ其反省ヲ求メタリ茲ニ對テ四國銀行團モ右第十六條ノ規定ヲ全然變更スルニ非ズンバ到底契約ノ履行ヲナスヲ得ザルニ至リ百方策ヲ廻シテ其善後策ニ苦心シツ、アリタルニ十月ニ至リテ革命亂ノ起リシタメ第十七條ノ規定ニヨリ僅カニ四十萬磅ノ前渡シヲナシタルノミニテ一時中止ノ餘議ナキニ至リタリ本借款ノ用途トシテ清國政府ノ公表シタルモノハ左ノ如ク主トシテ幣制改革實業振興資金ナルモ屢記述シタル如ク其大部分ハ之ヲ歲入不足填補ノ爲メニ使用スル筈ナリシコト蔽フベカラザル事實ナリ清廷ノ公表シタル用途ナルモノ左ノ如シ

四國借款用途

東三省幣制改革	二〇〇〇、〇〇〇磅
同業振興費	一、四〇〇、〇〇〇磅
黑龍江開墾費	四〇〇、〇〇〇磅
漢河觀音山三姓地方金礦採掘費	二〇〇、〇〇〇磅
東三省防疫費轉補	三〇〇、〇〇〇磅

同燒酒砂糖紙改良費

一〇〇,〇〇〇磅

全國幣制改革費

五,六〇〇,〇〇〇磅

合計

一〇,〇〇〇,〇〇〇磅

B 本公債募集契約主要條件

一、債權者

香港上海銀行印度支那銀行獨逸亞細亞銀行及米國資本團紐育
ゼービーモルガン會社クン、ロイベ會社第一國立銀行及國立市
民銀行

二、起債額

一千萬磅但シ日露ノ抗議ニヨリ前渡金四十萬磅ノ受授ヲ終リ
タルノミニテ中止

三、利子

年五分公債發行ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月毎ニ之ヲ支拂フ但シ
前渡金ニ對スル利子ハ年八分トス

四、手取額

額面百磅ニ付九十五磅ノ割合トス

五、銀行手數料

銀行團ハ元利償却ニ關スル費用ノ代價ニ對シテ手數料トシテ
毎年取扱金高ノ四百分ノ一ヲ受クベキモノトス

六、擔保

銀行團ハ左記諸收入ニ對シ第一抵當權ヲ有ス

一、東三省煙草及燒耐稅年額 一百萬兩

二、東三省ノ生產稅 同 七十萬兩

三、東三省ノ消費稅 同 八十萬兩

四、清國全省ニ於ル鹽ノ新附加稅同 二百五十萬兩

合計 年額庫平銀 五百萬兩

七、期限

本公債發行ノ日ヨリ起算シテ十年間据置十一年目ヨリ三十五
年間毎年二期元金ヲ分割償還スルモノトス但シ前渡金ハ本契
約調印ノ日ヨリ起算シテ十八ヶ月以内ニ全部償還スベキモノ
トス

八、特殊條件

本銀行團ハ滿洲ニ於ル投資企業ニ關シ他國資本家ニ對シ優先
權ヲ有ス

銀行團ハ幣制改革ニ關シ監督官ヲ選任シテ之レヲ監督セシ
ム

九、發行地 倫敦巴里伯林紐育ノ管ナルモ中止シタルガ故發行ヲ見ルニ至ラズ
現存額 前渡金四十萬磅

第三節 革命戰後ノ外債

其一 スコダ公債

一九一二年二月二十二日北京政府ハ曩ニ天津ニテ諮議局ノ反對ニヨリ中止サレタル交渉ヲ再開シ其經費ニ充ツルガタメ奥國スコダ軍器會社アルカバト契約シテ三百萬兩ノ公債ヲ起シ内三十萬兩ハ軍器ニテ殘余ハ現金ニテ之ヲ受取りタリ本公債引受契約主要條件

- 一、債權者 奥國スコダ軍器會社
- 二、起債額 三百萬兩
- 三、利子 年六分毎年二回之ヲ支拂フ
- 四、擔保 直隸省煙草稅

五、期限 金額授受ノ日ヨリ起算シテ十年間毎年一回年賦償却ス

六、特殊條件 軍器購入

其二 四國銀行團支那改造借款前貸金

本公債ハ昨一九一一年一千萬磅ノ幣制改革公債ヲ契約シテ事變ト其他ノ事情ノタメ之カ中止ヲ餘儀ナクサレタル四國銀行團ガ皇帝退位シテ南北統一ニ傾キタルヲ機トシ支那改造ニ要スル大借款ニ應ズルノ豫備策トシテ一時引受クルニ至リタル短期公債ニシテ其形式支那政府ノ發行スル大藏證券ヲ割引購買スルモノニシテ本年二月中旬時ノ度支部主領署理周自齊ガ四國銀行團ヲ訪問シテ其引受ヲ懇請シタル結果左ノ如キ條件ニテ之ガ引受ヲ承諾シタリ

- 一、今回引受ノ前貸金ニ對シ支那政府ハ大藏證券ヲ發行シ擔保ハ鹽稅タルコト
- 二、四國銀行團ハ今後支那政府ガ三、四、五、六、七、八ノ各月ニ於テ要スベキ政費支給ニ對シ確實ナル優先權ヲ有シ前貸金ニ對シテハ總テ英貸大藏證券ヲ發行スルコト

三、現今危急ノ際支那政府ヲ補助シ外國市場ニ於ケル支那ノ信用保持ニ努メシ

功勞ニ對シ支那政府ハ政治的改革ニ要スル大借款支給ノ優先權ヲ四國銀行

團ニ保證シ該大借款ヨリ得タル費金ヲ以テ大藏證券ヲ償還スルコト

四、手取九十五利子年五分ノ割合トス

右條件ニ從テ四國銀行團ハ三月下旬マデニ現銀三百十萬兩ヲ貸渡シタリ然ルニ時ノ總理唐紹怡ガ三月十四日白耳義シンデケートトト一百萬磅ノ借款契約ニ調印シタルコト世上ニ暴露スルニ及ビ四國銀行團ハ直ニ其前貸ヲ中止スルト同時ニ嚴重ナル抗議書ヲ提出シ四國公使亦銀行團ノ依頼ニ應ジ長文ノ覺書ヲ提出シテ其不徳ヲ責メ交渉數回ニ及ブモ解決ヲ見ズ而モ其間白耳義シンデケートハ百萬磅ノ現銀ヲ拂渡スト同時ニ再ビ新シキ借款契約ニ調印スル等事態容易ナラザル外交問題ヲ惹起シ一時支那ノ前途ヲ悲觀セシムルニ至リタルモ財政總長熊希齡ノ唐總理ニ代リテ新ニ交渉ヲ開始シ白耳義シンデケートト締結セル第二次借款契約ハ既ニ現銀ノ受授ヲ終リタル二百萬兩ヲ限度トシテ之ヲ破棄シ明カニ屈服ノ意ヲ表シテ四國銀行團ニ再度ノ前貸シヲ懇願シタル結果五月十五日銀行團ハ左ノ如キ條件ヲ追加シテ前貸シヲナスニ決シタリ

一、銀行團及支那財政部ヨリ各一名宛ノ委員ヲ派出シテ會議委員ヲ設ケ以テ中

央財政ノ監督者タラシム

二、財政部ハ一切費用ノ支出ヲ報告ス

三、總費用目ハ最新式簿記法ニヨリテ報告スルコト

四、南方各省ノ解兵ハ中央政府ヨリ派スル高級軍官之ヲ行ヒ經費用目ハ三通ヲ作製シ都督財政部及合議處ニ各一通宛ヲ保有ス

五、解兵費用ハ各稅務司ヨリ關稅保管金ヲ流用シ同時ニ銀行團ハ之ヲ填補スベシ

六、北京及地方各省解兵費用目モ亦三通ヲ作成シ陸軍部財政部及合議處ニ各一通宛ヲ保有ス

此規約ニ從ヒテ銀行團ハ六月二十五日マデニ新ニ九百萬兩ヲ前貸シタルモ此前貸金償還財源タルベキ大借款ノ交渉不成立ニ終リタルガタメ本短期公債ハ前後合シテ一千二百十萬兩ノ引受ヲ以テ一時打切リトナリタリ

其三 白國公債

曩ニ四國銀行團ニ懇請シテ漸ク三百十萬兩ノ前貸シヲ得タル支那共和國ハ爾後募債ノ悉ク四國銀行團ニ壟斷セラレ過重ナル條件ヲ強ヒラレンコトヲ慮リ三月九日時ノ總理唐紹怡ハ四國銀行團ニ對シ『新共和國ノ建設ヲ列國ニ於テ援助スルノ好意ニヨリ共同借款ノ契約ヲ成立セシムルモノナレバ反令四國又ハ六國トナルモ支那ニ對シ不利ナル獨占トナサズ將來生ズベキ如何ナル借款ニ對シテモ其契約條件ノ如何ニヨリ支那ハ其選決權ヲ保留スベシ』云々ト提議シタルニ四國銀行團ハ之ヲ承認シタリ茲ニ於テカ彼ハ直ニ白耳義シンヂケート Belgium Syndicate 代表者ダハイヤト商議シテ三月十四日遂ニ一千萬磅(前渡百萬磅)ノ外債募集契約ニ調印シタリ然ルニ白耳義シンヂケートナルモノハ主トシテ前述四國銀行團加入資本家以外ノ英佛露獨白ノ資本家ヲ網羅セルモノニシテ米國資本家ノ加入セルモノナカリシカバ米國公使 William J. Calhoun ハ自國資本家ノ疎外ト他國資本家ノ獨占トヲ恐レ直ニ猛然立チテ英佛獨三國公使ヲ説キ自ラ起草シタル抗議書ヲ支那ニ提出シ以テ其契約破棄ヲ迫リタルモ唐總理ハ前ニ提議シテ承諾ヲ得タル自由選擇權ヲ行使シタルニ過ズトナシテ之ニ應ゼズ第一回前渡金一百萬磅ノ受

授ヲ終ルヤ否ヤ更ニ二百萬磅前貸契約ニ調印シテ現金引渡ニ着手シタルモ四國公使ノ強硬ナル抗議ニ會シテ支那政府ノ屈服セルト資本家側ニ於テモ自國政府ノ對支政策ニ反對シテ際限ナク前貸シスルノ甚ダ危険ナルヲ悟リタル結果既ニ受授ヲ終リタル九百四十萬兩(百萬磅)第二回前貸金二百萬兩ヲ限度トシテ之ヲ中止スルニ至リタリ

本公債引受契約主要條件

- 一、債權者 白耳義シンヂケート
- 二、起債額 百二十五萬六千六百六十六磅
- 三、利子 年五分本契約調印ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月毎ニ之ヲ支拂フ
- 四、手取額 額面百磅ニ付九十七磅トス
- 五、擔保 支那政府ノ收入並ニ京張鐵道ノ財產及純益ヲ第一次抵當トシ其元利償却ヲ保證ス
- 六、期限 本契約調印ノ日ヨリ起算シテ一ヶ年トシ市價ヲ以テ買入償却ス但シ支那政府ノ都合ニヨリ期限前ト雖モ一年間ノ利子ヲ附スレ

バ之ガ償還ヲ行フコトヲ得

七、特殊條件

白耳義シンデケートハ支那政府ガ將來外債ヲ募集スルニ際シ條件同一ナレバ之ニ對シ資金供給ノ優先權ヲ有スベキモノトス
白國シンデケートハ任意ニ本國庫證券ヲ支那公債證書ニ引替ユルコトヲ請求スルコトヲ得

償還財源 將來大借款ヲ募集シ其手取ヲ以テ本國庫券ヲ償却ス
現存額 一、二五六六六六磅

第四節 革命戰時及戰後ノ財政狀態

既ニ幾度カ説述シタル如ク日清戰爭ノ結果容易ニ恢復シ難キ打撃ヲ其財政上ニ蒙リタル清國ハ更ニ北清事變ノタメ致命ノ一撃ヲ被リ爾後銳意之ガ恢復ニ努メタリト雖モ革命戰爭ノ起ルニ及ビ事實財政上ノ破産ニ陥リテ遂ニ其社稷ヲ亡ボシタリ

革命戰爭ガ支那ノ財政ニ及ホシタル影響ノ詳細ヲ研究スルハ甚ダ有益ナル事業

ナリト雖モ目下猶秩序ノ恢復ヲ見ル能ハザル支那ニ於テ到底充分ナル資料ヲ得ベクモナラサレバ這ハ専門學者將來ノ研究ニ俟ツベク茲ニハ單ニ其主ナル事項ヲ概説センニ平時ニ於テスラ毎年約一億兩内外ノ歳入不足ヲ免レザリシ清國政府ハ革旗一度武漢ノ地ニ飄リテ所謂各省響應相前後シテ其獨立ヲ宣スルニ至ルヤ忽チ國庫空乏シテ戰費ヲ支出スル能ハサルニ至リシカバ一面皇室ニ哀訴シテ其内帑ヲ仰グト共ニ度支部ハ日夜東西奔走シテ外債ノ募集ニ全力ヲ注ギシカド列國既ニ議シテ戰爭ヲ助長セシムルガ如キ募債ニハ官革兩軍ノ何レニモ應ゼザルコトヲ決議シタルト南方ヨリ敗報頻リニ到リテ形勢日ニ險惡恰カモ火山ノ頂上ニ座スルガ如キノ狀アリシカバ過分ノ擔保ト有ユル好條件ヲ飼トシ漸ク成立シタル諸種ノ借款モ未ダ現金ノ受授ヲ行ハザルニ先ダテ相次デ破約ヲ申込マレ平時倫敦ニテ百磅以上ノ聲價ヲ維持シタル四分半利付清國公債ハ武漢ノ變報始メテ傳ハリタル十月十三日四分一乃至二分ノ一磅低落シタルヲ動機トシ遂ニハ九十五磅ヲ割ルノ悲況ヲ呈スルニ至レリ

然レバ從來清國政府ガ諸外國ニ負擔セル諸外債賠償金等ノ如キ到底之ヲ支拂フ

ニ由ナカリシニ偶々革軍ノ上海地方ヲ風靡シテ海關ヲモ占領セントシタリシカ
 バ清國ニ債權ヲ有スル關係列國ハ茲ニ一時清國海關差押ヘノ必要ヲ感スルニ至
 リ十二月八日英獨露米佛伊其他ノ各國協議ノ上清國海關ヲ各國共同管理ノ下
 ニ移スコトニ決シ本年一月三日清國カ外債元金利子ヲ確實ニ償却シ得ルニ至ル
 マデヲ期トシテ遂ニ其支配權ヲ各國聯合委員會ノ掌中ニ收メラルルニ至リタリ
 スク財政ノ窮乏言語ニ絶シタル清國ハ最後ノ窮策トシテ愛國公債三千萬元ヲ發
 行シ種々法ヲ設ケテ之ガ應募ヲ強制シタルモ民心既ニ離散シテ威嚴地ニ墮タル
 滿朝政府ノ命ニ服シテ之ニ應ズルモノ殆ド無カリシカバ萬策茲ニ盡キ皇室ノ内
 帑金亦支出シ盡シテ餘ス處無キニ至リ遂ニ其財政破産シテ皇帝退位ノ止ムナキ
 ニ至リタルハ共和假政府ノ組織サレタル當時北京國庫ニ殘存シタル現金僅カニ
 數萬兩ニ過ギサリシヲ見ルモ明カナリ
 之ヲ革命軍ノ側ニ見ルモ其財政上ノ困難ハ敢テ清廷ニ讓ラズ民心收攬ノ必要上
 釐金稅ヲ廢止シタレバ忽チ財政困難ニ陥リ幾度カ内外債ノ募集ヲ企テタルモ之
 ニヨリテ得タル資金ハ内債ニ於テ九百三十二萬元外債ニ於テ七百餘萬元合計千

六百餘萬元ニ過ズ其餘ハ皆不換紙幣ヲ發行シテ強制通用セシメタルト地方富豪
 ヲ強迫シテ僅カニ得タル獻金ニヨリ支辨シ得タルニ過ギザリシカバ革軍處期ノ
 目的ヲ達スルニ由ナク僅カニ枯息ナル妥協ニヨリテ南北統一共和實現ヲ遂ゲタ
 ルモ其當時南京假政府處有現金ハ僅々三萬兩ニ過ギサリシト言ヘバ其困難到底
 想像ノ外ニアリト言ハサルベカラズ

官革兩軍ノ實狀斯ノ如ク兩者共軍資既ニ盡キテ戰爭ヲ繼續スル能ハザリシト列
 國干涉ノ兆漸ク現ハレシトニヨリ止ムナク不自然ナル和ヲ講ジテ南北ノ統一茲
 ニ成立シ共和政治ノ實施ヲ見ルニ至リタリト雖モ支那ハ依然タル支那ニシテ中
 華民國ト改稱シタリトテ其財政ノ困難依然タルハ言フ俟タズ支那分割ノ危機屢
 迫リテ邊境急ヲ告グルコト一再ナラザルニ内ニハ僅々二三十萬兩ノ政費スラ之
 ヲ得ルニ途ナク恥ヲ包ンデ外國銀行ニ其貸付ヲ哀願シタルコト尠カラズ
 其後假政府ノ組織サルルニ及ビ革命以前幣制借款ニ應シテ物議ヲ醸シタル四國
 銀行團及白國シンデケート等ノ支那將來ノ借款權獨占ヲ夢ミテ前貸シニ應ズル
 モノ出ヅルニ及ビテ僅カニ危急ヲ逃レタリト雖モ支那政府ノ要望拱ク能ハザリ

シ六億兩ノ大借款ハ一面外交上ノ大問題ヲ惹起シテ支那ノ宗主權ヲ疑ハシムル
ト共ニ遂ニ資本家側ヨリ左ノ如キ事實上ノ財政監督權ヲ要求セララルルニ至リタ
リ

- 一、大借款金額ヲ六億兩トス
- 二、此六億兩ハ今後五年間ニ連續シテ支出セララルベシ
- 三、此大借款引受ハ香港上海銀行獨逸亞細亞銀行露亞銀行印度支那銀行橫濱正
金銀行及モルガン銀行組合ノ代表者タルベキコト
- 四、借款金支途上ノ財政監督ハ上記六國銀行團ノ權限ニ於テ之ヲ行フ
- 五、擔保タル鹽稅ニ對シテハ鹽政整理及收稅等ニ關シテ現在關稅ト同一ノ制度
ヲ施行ス

之ノ要求ニ對シテハ赤貧洗フガ如キ支那政府ト雖モ流石ニ承諾スルヲ躊躇シタ
リシカバ遂ニ數ヶ月ノ交渉水泡ニ歸シテ又策ノ求ムル無キニ至リタリ
茲ニ於テ支那政府ハ當面ノ急務トシテ先ツ中央政府維持ノ政費ヲ得ルベク國民
楫及各省楫金ニ依頼スルコトトシ各省財政ニ關シテハ地方外債ノ募集ヲ許可シ

テ辛フジテ現状ヲ維持シツ、アルモ各省ヲシテ任意ニ外債ヲ募集セシムルハ必
ズヤ禍根ヲ將來ニ殘スニ至ルベク之ヲ中央政府ニ見ルモ從來平和ノ時期ニ於テ
スラ既ニ年額七八千萬兩ノ歲入不足ヲ免レザリシ支那ガ革命ノタメ重要ノ財源
タル釐金其他ノ諸稅ヲ廢止減稅シタル今日其歲入ニ於テ再ビ數千萬兩ノ不足額
ヲ加フベキハ一目瞭然タル事實ナルニ此貧弱ナル歲入ヲ以テ少クモ昨年度ト同
一種度ノ歲出ニ應ゼサル能ハザル支那共和國今後ノ困難ハ蓋シ相像ニ難カラズ
加之戰時中募集シタル軍隊ニシテ解散スベキモノ未ダ少カラザレバ之カタメニ
モ巨額ノ費用ヲ要スベク支那政府宣言ノ如ク大借款ヲ募集セズシテ果シテ良ク
之難關ヲ通過シ得ルヤ甚ダ疑問ナリト言ハザルベカラズ
第一次財政總長熊希齡ノ計上シタル財政計畫表ハ革命後ノ財政狀態ヲ知ルニ極
テ便利ナリ即チ左ノ如シ

(一) 民國紀元以前ノ財政

歲入總額	二九七〇〇〇〇〇兩
歲出總額	三五五〇〇〇〇〇兩

差引不足額

五三、〇〇〇、〇〇〇兩

追加豫算籌備事宜

二四、〇〇〇、〇〇〇兩

新外債利子

一〇、〇〇〇、〇〇〇兩

四國ヨリ借款セシ幣制改革實業借款粵漢津浦兩鐵道追加借款日本正金
銀行借款及市面救濟借款等約二億萬兩利子五分トシテ上記ノ如シ

(二) 民國紀元以後ノ財政

A 臨時支出ヲ要スル費用

二〇、八〇〇、〇〇〇兩 一九一一年九月ヨリ一九一二年二月マデ毎月四百十餘

萬兩

一九、二〇〇、〇〇〇兩 南北八十師團ニテ一師團十二萬兩トシテ合計九百六十

萬兩但シニケ月分ノ不足額

六〇、〇〇〇、〇〇〇兩 黨人優待軍隊解散及災民救濟土匪討伐費

一〇、〇〇〇、〇〇〇兩 南北行軍區域ノ學堂ノ破壊及新政府建設ノ修繕費

合計 一一〇、〇〇〇、〇〇〇兩

B 不足額

(一) 常年ニ比シテ歲入ヲ缺グベキ數

四〇、〇〇〇、〇〇〇兩 各省釐金稅及楫輪並ニ務停滯ニ基ク減收

(二) 歲出ノ增加額

八六、〇〇〇、〇〇〇兩 六十個師團軍事費

一五、〇〇〇、〇〇〇兩 海軍水師緝私捕等營

二〇、〇〇〇、〇〇〇兩 綠營旗費

一〇、〇〇〇、〇〇〇兩 海陸軍行政費及製造工廠費

二、五二〇、〇〇〇兩 中央地方公債五千萬兩ノ利子平均七分大洋

三百五十萬元ノ換算高

合計 一七三、五二〇、〇〇〇兩

即チ臨時費約一億一千萬兩ノ巨額ニ上リ不足額亦一億七千三百五十二萬兩合計
二億八千三百五十二萬兩ノ特別支出ヲ要スル計算ナリ

次ニ大借款ノ成立ヲ豫期シテ編成シタル本年度ノ總豫算表ヲ見ルニ左ノ如ク歲

入ニ於テ前年ニ比シ非常ナル減收ヲ示シ歳出ハ殆ド二億萬ニ近キ増加額ヲ示ス

一九一二年年度總豫算案

歳入之部(經常及臨時費)

地租	三〇、七七六、〇〇〇兩	1/3 減
鹽茶稅	二二、一五六、〇〇〇兩	1/2 減
海關稅	二二、四二六、〇〇〇兩	1/3 減
常關稅	三、四九五、〇〇〇兩	1/2 減
正雜各稅	六、五四一、〇〇〇兩	3/4 減
釐金稅	一〇、七九六、〇〇〇兩	3/4 減
官業收入	三四、九五〇、〇〇〇兩	1/4 減
公債	五、〇〇〇、〇〇〇兩	昨年ニ比較シテ定ム
合計	一三八、一四〇、〇〇〇兩	

一九一一年度比較

歳出之部(經常及臨時費)

行政費	二〇、五〇〇、〇〇〇兩	減
交涉費	二、三七五、一三〇兩	減
財政費	一、二九〇、三五〇〇兩	減
海關經費	五、七四八、二三七兩	減
常關經費	一、四六〇、三三二兩	減
教育費	八、七三七、六九〇兩	減
司法費	六、六一六、五七九兩	減
軍政費	一九四、九九七、三一五兩	增
軍隊解散費	五〇、〇〇〇、〇〇〇兩	豫定
實業費	五、九八二、七六一兩	增
交通費	二、二〇〇、〇〇〇兩	減
民政費	二、二四〇、〇〇〇兩	減
工程費	五、〇〇〇、〇〇〇兩	增

一九一一年度比較

官業支出	七、六九〇、〇〇〇兩	減
賠款洋款	五、一六四九、〇〇〇兩	增
公債費	五、〇〇〇、〇〇〇兩	增
賑恤費	五〇、〇〇〇、〇〇〇兩	豫定
邊防費	二〇、〇〇〇、〇〇〇兩	增
合計	四七五、〇六〇、五四四兩	
歲入不足	三三六、九二〇、五四四兩	

然ルニ大借款協議遂ニ不調ニ歸スルニ及ビ財政部ハ新ニ左ノ如キ概算表ヲ作成シテ參議院ニ提出シタリ

陸軍部	三〇、二五七、〇八四兩
教育部	一、二三七、二七五兩
財政部	六、四六七、九五五兩
內務部	四、三九一、四九五兩
外務部	三、二九六、一五〇兩

海軍部	二、五一七、一一五兩
司法部	二、九六〇、三〇兩
農林部	六、八八五、一〇兩
工商部	一、二〇〇、〇〇兩
交通部	七、三四、二九三兩
合計	五〇、〇〇五、九〇八兩
總統府秘書廳軍事處	二、四二、九八〇兩
國務院及所轄各局	二、四二、九一〇兩
參議院	三、五六、九六〇兩
總計	五〇、八四八、七五八兩

以上ハ中央部財政ノミニシテ地方ノ中央財政ニ屬スベキ部分及補助金等ノ記載ナキヲ以テ總豫算ノ金額表ヲ知ル能ハザルモ兩者ヲ合シテ一億萬兩ヲ超過セザルベク以テ支那ガ革命ノタメ如何ニ甚大ナル打撃ヲ被リタルカヲ見ルベク同時ニ大借款談判不調ニ歸シタルタメ如何ニ消極的方針ヲ採ルノ止ムナキニ至リタ

第五章 地方外債

第一節 清朝時代之地方外債

清廷ハ地方利權ノ外人ノ手中ニ歸センコトヲ恐レ各省外債ハ必ズ中央政府ノ許可ヲ經ルヲ要スルモノトシ擅ママニ外債ヲ募集スルコトヲ禁止シタルガ故清朝時代各省ハ何レモ名義ヲ内債ニ藉リテ外債ヲ募集スルカ然ラザレバ一時借入金ノ名ノ下ニ之ヲ招募シタルガ故公然地方外債トシテ外國ヨリ借入シタルハ僅カニ左ノ一二省ニシテ其金額モ數百萬兩ニ過ギズ

其一 上海市場救濟外債

一九一〇年七月正元諭餘兆康ノ三錢莊破綻シテ上海地方恐慌ノ襲フ處トナルヤ之ガ救濟ノ方法トシテ時ノ上海道臺蔡乃煌ハ左記諸外國銀行ヨリ合計三百五十萬兩ヲ借入シ之ヲ各錢莊ニ貸與シテ之ガ救濟ノ用ニ供シタリ

香港上海銀行 Hongkong and Shanghai Banking Corporation 八〇〇〇〇〇兩

獨亞銀行 Deutsch Asiatische Bank.	五〇〇〇〇〇兩
橫濱正金銀行 Yokohama Specie Bank Ltd.	三〇〇〇〇〇兩
花旗銀行 International Banking Corporation.	三〇〇〇〇〇兩
白支銀行 Sino-Belgium Bank.	一五〇〇〇〇兩
露清銀行 Russo-Chinese Bank.	五〇〇〇〇〇兩
チャータード銀行 The Chartered Bank India, Australia & China.	五〇〇〇〇〇兩
印度支那銀行 Banque de Indo-Chine.	三〇〇〇〇〇兩
和蘭銀行 Nederlandsche Handels maatschappij.	二五〇〇〇〇兩
合計	三五〇〇〇〇兩

本契約主要條件

- 一、契約年月 一九一〇年八月四日
- 二、債權者 日英米獨露佛白和八ヶ國ノ諸銀行
- 三、起債額 三百五十萬兩
- 四、利子 年四分契約ノ日ヨリ起算シテ每半年目ニ支拂フ

五、償還方法

一九一五年中左ノ四季ニ分チテ之ヲ償還ス	
一九一五年七月十四日以前	八七五、〇〇〇兩
一九一五年七月二十一日以前	八七五、〇〇〇兩
一九一五年七月二十八日以前	八七五、〇〇〇兩
一九一五年八月四日以前	八七五、〇〇〇兩
合計	三、五〇〇、〇〇〇兩

其二 雲南省外債

雲南省ハ中央官制改革ノ結果新政實施準備及新軍編成等ノタメ多大ノ經費ヲ要スルニ至リタルモ禁煙制發布ノタメ阿片稅ノ收入減少シテ到底歲出ヲ償フニ足ラザリシカバ一九一一年四月遂ニ外資百八十萬兩ヲ借入ルルニ至リタリ

本契約主要條件

- 一、債權者 英佛隆興礦山會社
- 二、金額 百八十萬兩
- 三、利子 年五分每年二回之ヲ支拂フ

四、償還期限

本契約締結ノ日ヨリ起算シテ二十一年間毎年分割償還スベキモノトス

其三 湖北外債

湖廣總督瑞徵ハ從來内外商人ニ負ヘル負債三百餘萬兩ヲ整理借換スルノ目的ヲ以テ一九一一年九月獨亞銀行香港上海銀行印度支那銀行及米國花旗銀行ノ四國銀行ヨリ二百萬兩ヲ借入レタリ

本契約主要條件

- 一、金額 二百萬兩
 - 二、利子 年七分每年二回之ヲ支拂フ
 - 三、擔保 本公債ノ擔保トシテ宜昌鹽釐ニ對シ第三位抵當權ヲ設定シ副擔保トシテ釐金票ヲ交付ス
- 若シ萬一元利償却ヲ怠リタル節ハ漢口駐在英米獨佛總領事ハ他種財源ヲ選定シテ之ヲ海關ノ管理ニ移シ以テ其償却ヲ安固ナラシムベシ

四、償還期限 据置年限六ヶ年一九一七年九月第一回元金償還ヲナシ爾後抽籤法ニヨリ毎年元金三十萬兩宛ヲ年賦償還スベシ

五、特 典 本公債證書及利札ハ清國ニ於テ一切無稅タルベシ

第二節 革命後ノ地方外債

革命戰爭終局ヲ告ゲ清朝退位シテ中華民國トナルヤ焦眉ノ急ハ公債ヲ募集シテ戰爭中紊亂セル財政ヲ整理シ不用ノ軍隊ヲ解散シテ國家存立ノ基礎ヲ強固ニスルニアリ然ルニ内債ハ數回ノ經驗ニ徴シ到底其募集望ミナカリシカバ纏マリタル數億兩ノ外債ヲ募集シテ之ガ整理ヲ計リ戰爭中募集シタル軍隊ヲ解散スルノ費ニ供セントシ所謂六國銀行團ト種々交渉スル處アリシモ兩者ノ意見杆格アリテ容易ニ決セズ然モ其要スル經費ハ一日モ忽カセニスルヲ得ザリシカバ遂ニ止ムナク各省ヲシテ地方外債ヲ募集セシメ其經費ヲ支辨スルノ策ヲ採ルニ至リタリ但シ中央政府ノ許可ヲ要スルハ言ヲ俟タス

其一 直隸外債

本公債ハ一九一二年四月北京政府行政費清帝年金ノ一部及旗人俸給ニ要スル費用ニ充ツルタメ直隸總督ノ名義ヲ以テ地方債トシテ獨商瑞記洋行ヨリ借入レタル公債ニシテ事實上中央政府外債ト言フベキモノナリ

本公債募集契約主要條件左ノ如シ

- 一、元 金 八十萬磅(六百七十二萬兩)
 - 二、利 子 年七分毎年二回之ヲ支拂フ
 - 三、擔 保 直隸全省酒煙草茶稅收入
 - 四、償還期限 本契約調印ノ日ヨリ起算シテ十ヶ年間毎年一回年賦償却スベシ
- 償還財源 將來募集ノ大借款

其二 浙江外債

本公債ハ直隸外債ト前後シテ浙江都督蔣ト獨逸クルツプ軍器商會代理者カローロウイツク商會トノ間ニ成立シタルモノニシテ其費途亦直隸外債ト等シク大部分ハ北京政府ノ經費トシテ之ヲ使用シタルモノナリ

本公債募集契約主要條件左ノ如シ

- 一、元 金 五百萬マール(二十四萬五千八百磅)
 - 二、利 子 年六分毎年二回之ヲ支拂フ
 - 三、擔 保 浙江省釐金及絹稅收入
 - 四、特殊條件 浙江省ハ將來二百萬マール以上ノ軍器ヲ獨逸ククツプ軍器會社ヨリ購入スベシ
 - 五、償還期限 中央政府第一回大外債收受ノ節直ニ全部ヲ返還スベシ若シ遲ルルモ本公債受授ノ時ヨリ起算シテ滿一ケ年目ニ百萬マールヲ償却スベク爾後一ケ年毎ニ百萬マール宛ヲ年賦償還スルモノトス
- 償還財源 將來募集スベキ中央政府大外債

其三 雲南外債

雲南省ハ由來財政困難ニシテ常ニ他省ノ協餉ニヨリ辛フジテ其收支ヲ適合セシメ得ルノ狀態ナリシニ革命後諸種ノ財源ヲ失ヒテ財政ノ窮乏其極ニ達スルモ中央ニテ大外債成立セザルタメ其補助ヲ仰グヲ得ズ止ムナク一九一二年五月初旬ニ至リ佛領東京政廳ニ懇願シテ遂ニ外債ヲ起シタリ

本外債契約主要條件

- 一、債權者 佛領東京阿片專賣局
- 二、元 金 二百五十萬兩
- 三、利 子 年六分
- 四、特殊條件 本借款應募ノ報酬トシテ雲南省ハ佛領東京阿片專賣局ニ雲南阿片買收權及雲南鐵道附近礦山採掘權ヲ讓與ス
- 五、償還期限 未詳

其四 漢口再築市債

一九一一年十一月二十七八日官革兩軍戰爭ノ際兵火ニ罹リテ燒失シタル漢口市街ヲ再築スルノ費ニ供センガタメ中華民國副總統黎元洪ノ一九一二年五月三十日米國ロバート、ダラー汽船會社支配人ボート契約シテ借入レヲ約シタルモノナルモ擔保物ニ付反對アリ未ダ現金ノ受授ヲ行ハズ

本公債募集契約主要條件

- 一、元 金 三百五十萬磅(二千五百九十萬兩)

- 二、利 子 年五分每年二回之ヲ支拂フ
- 三、手 取 額 額面百磅ニ付九十四磅
- 四、償還期限 本契約締結ノ日ヨリ起算シテ五ケ年間据置六ケ年目ヨリ四十年間毎年元金八萬七千五百磅宛ヲ年賦償還ス
- 五、特殊條件 本市債引受ノ特約トシテロバート、ダラー汽船會社ニ漢口再築工事ヲ請負ハシム尙別ニ同市電氣鐵道敷設權ヲ得タリトモ傳ヘラ

償還財源 本市債償還財源支辨ノ方法トシテ黎元洪ハ湖北臨時議會ノ議決ヲ經左ノ如キ市債條例ヲ發布シタリ

- 第一條 漢口全市ノ市街道路ヲ改良建設スルガタメ要スル經費ヲ二千萬兩トス
- 第二條 鄂軍政府ハ二千萬兩ノ借款ヲ起シ其經費ニ使用ス
- 第三條 右借款ハ本條例第四條ニ列記スル揖稅ヲ以テ四十五年ニ分チテ之ヲ償還ス前五年ハ建築未ダ完成セザルヲ以テ之ヲ据置キトシ只利子ノミヲ支拂

ヒ一九一八年ヨリ元金ヲ償還シ一九五七年ニ至リテ全部ヲ完了ス

第四條 漢口市經營ノタメ左ノ揖稅ヲ漢口市民ニ課ス但シ借款償還後ハ甲乙丙三種ノ揖稅ハ之ヲ停止スベク丁戊巳ノ三種ハ永久徵收シテ道路ノ修繕及擴張ノ費ニ供スベキモノトス

- 甲 土地
- 乙 戶別
- 丙 貨物
- 丁 通行稅
- 戊 車馬稅
- 己 道路上利益

第五條 揖稅ノ徵收方法ハ別ニ規定ヲ設ク

第六條 右各種揖稅滯納者ハ租稅滯納規則ニ準シ之ヲ處分ス

第七條 借款毎年元利償還ノ數左ノ如シ

- 一、前五年間毎年百二十萬兩
- 二、一九一八年ヨリ百七十萬兩トシ以後第一年ニ三萬兩第二年ニ六萬兩ヲ減少ス以後之ニ準ス

第八條 本借款ノ收入及各項經費ノ支出ハ其都度軍政府ヨリ委員ヲ特派シ商會ト共同商議シテ之ヲ施行セシム

其五 湖北外債

一一六

大借款交渉不成立ノタメ財政窮乏甚ダシキニ至リシカバ湖北省政府ハ遂ニ一九一二年六月下旬獨商捷成洋行ノ勸誘ニ應ジ三百萬兩ノ外債ヲ起セリ
本公債引受契約主要條件

一、元 金 三百萬兩

二、利 子 年六分毎年二回之ヲ支拂フ

三、擔 保 漢口諸稅收入

四、期 限 本契約調印ノ日ヨリ二ケ年間ニ元金全部ヲ償還スベシ

五、特殊條件 獨逸捷成洋行ハ滿二ケ年間龍角山礦石ノ一手販賣權ヲ附與サル

ヘク二ケ年ヲ經過シタル後ト離モ右礦石販賣ニ關シ優先權ヲ有スルモノトス

龍角山附近ニ設置スベキ礦石精製專用機械器具一切ハ捷成洋行ヨリ六十萬兩ヲ以テ之ヲ賣却スベク右六十萬兩ハ之ヲ本公債手取金中ヨリ控除スベキモノトス

償還財源 礦石代金ヲ以テ本公債償還ノ資ニ供ス

第三節 政府責任社債

官革兩軍交戰中革命軍ハ私設會社々債ノ形式ヲ以テ外債ヲ招募シタリ此種ノ外債ハ一見會社ノ一私債ニ過ギザルガ如キモ其實純然タル軍事公債ニシテ之ヲ普通ノ社債ト同日ニ論ズベキモノニアラズ南北統一既ニ成リテ共和國ノ樹立ヲ見ルニ至リタル今日之種ノ社債ヲ一種ノ地方外債トシテ茲ニ記述スルハ却テ便利ナルヲ信ス

其一 招商局社債

一九一一年十一月十五日革命軍政府ハ招商局株券ヲ抵當トシテ英國香港上海銀行ヨリ百五十萬兩(二十萬磅)ヲ借入レタリ但シ條件其他ニ關シテハ契約文中「香港上海銀行ノ承諾ヲ經ルニ非ザレバ本借款ニ關スル契約文ハ之ヲ第三者ニ提示スルコトヲ得ズ」ナル規約アリテ之ヲ探知スルヲ得ザレバ茲ニ記述スルニ由ナキモ其後日本ハ革軍ノ懇願ニヨリ同局汽船ヲ擔保トシテ之ニ投費セントシ獨英米三

國ノ頑強ナル抗議ニ會シテ之ヲ中止シタリ

其二 蘇路公社債

一九一二年一月二十八日革命軍ハ滬杭甬鐵道ノ江蘇省ニ屬スル部分即チ蘇省鐵道ヲ擔保トシテ大倉組ヨリ三百萬兩ヲ借入レタリ其主要條件左ノ如シ

一、金額 日貨三百萬圓

二、利子 年八分

三、擔保 滬杭甬鐵道ノ一部蘇省鐵道

四、期限 五ヶ年据置ノ後五年間毎年元金六十萬兩宛年賦償還ス

本社債ハ 三百萬兩ノ豫定ナリシモ英國其他ノ諸國ヨリ抗議ヲ申込ミ來リシタメ政府ハ大倉組ニ内命シテ既ニ受授ヲ終リタル二百五十萬兩ヲ以テ限渡トナシタリ

其三 漢沿萍煤鐵公社債

一九一二年二月十二日漢冶萍煤鐵公社ハ三井物產株式會社ヨリ日貨三百萬圓ヲ借入レテ之ヲ革命政府ノ軍事費ニ提供シタリ其條件大約左ノ如シ

一、金額 日貨三百萬圓

二、利子 年八分

三、擔保 同公社所屬漢陽鐵工廠及大冶鐵礦ノ財產全部

四、期限 償還期限一ヶ年

第六章 支那鐵道現勢

本章ハ次章記述ノ鐵道公債ノ真相ヲ了解シ易カラシメンガため特ニ茲ニ記述スルコトトシタルモノナルモ支那鐵道ノ現勢ニ通ズル讀者ニトリテハ蛇足ノ嫌ナキニ非ズ讀者乞フ之ヲ諒セヨ

第一節 支那鐵道ノ沿革

支那ノ鐵道ハ其國債ガ外債ニ始マリタル如ク外人ノ敷設ニ始マル今其沿革ノ大要ヲ見ルニ一八六三年上海在留ノ英國人上海蘇州間ノ鐵道敷設ヲ計畫シ時ノ江蘇巡撫李鴻章ニ請願シタルヲ支那ニ於ケル之種ノ企業ノ嚆矢トス然レドモ之計

書ハ李鴻章之ヲ許可セザリシカタメ實行サルルニ至ラズシテ止ミ其後屢々敷設ヲ企ツルモノアリシモ何モ皆官民ノ激烈ナル反對ニ遭イテ實行スルニ至ラザリシガ一八七六年ニ至リ英高恰和洋行私カニ新ニ道路ヲ開通シタル上海吳松間十二哩ノ狹軌鐵道ヲ敷設シタリ之レ即チ支那ニ於ケル最初ノ鐵道ナリ然レドモ頑迷ナル支那ノ官民ハ鐵道ヲ目シテ一種ノ魔術トナシ百方其運行ヲ妨害シタル後遂ニ一八七七年ニ至リ二十八萬五千兩ヲ以テ之ヲ買收シ破壞シテ臺灣ニ送りタリ

斯クノ如ク漸ク出來上リタル唯一ノ鐵道ハ之ヲ破壞シテ復一線ノ存スルモノナカリシガ其後ニ至リ開平炭礦ノ開掘サルルヤ石炭輸送ノ便宜上漸ク鐵道ノ必要ナルヲ悟リ一八八〇年炭礦ヨリ胥各庄ニ至ル間ニ馬車鐵道ヲ設ケ翌一八八一年ニ至リ之ヲ廣軌ニ改造シタリ

其後文運進ムニ從ヒ要路ノ大官中鐵道ノ利便ヲ解スルモノ次第ニ増加シ支那鐵道ノ端緒漸ク開ケ時ノ直隸總督李鴻章ハ軍事的見地ヨリ現今ノ京奉鐵道ニ相當スル鐵道一部ノ敷設ヲ設計セシニ人民尙凡水ノ迷説ヲ信シ反抗激シカリシト官

ニ於テモ惇親王一派ノ頑固黨尙盛ニ反對シテ之カ敷設ヲ妨ゲタルタメ政府其許否ヲ決スルニ躊躇シ遂ニ一八八九年ニ至リ各省總督及重臣ヲ會シテ鐵道會議ヲ開キ之カ許否ヲ其議決ニ問フニ至リシニ却テ湖廣總督張之洞ノ主張ニカ、ル京漢鐵道敷設ヲ許可シテ李鴻章ノ計畫ハ一時否決サルルノ悲運ニ會シタリ而モ彼ハ萬難ヲ排シテ一八九〇年ニ至リ滿州鐵道敷設ヲ策シタリシガ資金缺乏ノタメ實行スルニ及バズシテ日清戰爭起リシカバ急ニ開平胥各庄間ノ鐵道ヲ延長シテ一八九四年南ハ天津ニ至リ北山海關ニ到ル線路ノ開通ヲ見ルニ至レリ然レドモ此戰爭ノタメ支那ノ實力暴露シテ所謂眠レル獅子ニ非ズシテ頻死ノ老國タルコト列國ノ知ル處トナルヤ各國互ニ政治上軍事上ノ見地ヨリ支那ニ鐵道敷設權ヲ要求シテ止マラズ露國ハ獨佛兩國ヲ語ヒテ巧ニ恩ヲ支那ニ賣リ嘗テ露ノ南下ニ備ヘントシタル李鴻章ノ失意ニ乘ジテ之ヲ誘ヒ一八九六年カシニ一密約ヲ結びテ其野心ヲ北滿ニ逞フウスルニ至リ一方佛國ト協同シテ白耳義シンジゲートノ名義ニ隱レ支那中部ヲ縱貫スル京漢鐵道ノ敷設權ヲ得佛國ハ老開雲南間ノ鐵道ヲ始メトシ諒山龍州百邑間及北海南寧間ノ鐵道敷設權ヲ獨ハ山東鐵道敷設權ヲ

得テ西方ニ出テントスルヤ英國亦直ニ立チテ津鎮線ヲ始メトシ緬甸ヨリ雲南ニ至ル鐵道、南京上海杭州寧波間及南京漢口間等數多ノ鐵道敷設權ヲ得テ露獨ニ對抗スル等殆ンド支那ノ主權ヲ無視シテ列國政府ト其資本家ハ或ハ條約ニヨリ或ハ投資ニヨリ數條ノ大鐵道敷設工事ニ着手シ爲メニ支那ヲシテ殆ンド分割ノ危ニ頻セシメタルコト一再ナラザリシガ一八八九年米國ノ提議ニヨリ公認セラレタル門戶開放機會均等主義及北清事變後締約ノ日英同盟等ニヨリ辛フジテ社稷ヲ全フセル内日露相戰フテ露軍ノ敗ルルニ及ビ列強ノ支那ニ對スル野心モ一時中絶ノ止ムナキニ至リタリ

日露戰爭以來列國ノ對支那鐵道侵略策ハ漸次其方針ヲ變ジ從前ノ如ク專ラ政治的軍事的見地ヨリノミ之ヲ敷設スル方針ヲ改メ專ラ自己ノ鐵道勢力範圍内ニ於テ自國生産物ノ市場擴張及投資ノ安全ニ意ヲ用ユルニ至リタリシニ一面清國自體ニ於テモ日露戰爭ニ際シ西比利亞鐵道ノ輸送力ノ大ナリシコト京奉鐵道ノ兩國交戰中ニ與ヘシ利便ノ大ナリシコト日本ノ勝利ヲ得シコト等ハ大ニ支那人ヲ刺激シテ鐵道ノ必要ヲ悟ラシムルト共ニ外資ヲ以テ自國ノ鐵道ヲ敷設スルノ危

險ナルヲ感ゼシムルニ至リ官民共ニ極端ナル利權回收論ヲ主張スルニ至リシカバ政府モ一九〇五年前ニ米國人ニ與ヘタル粵漢線ノ敷設權ヲ回收シタルヲ始メトシ一九〇七年ニハ白國人ヨリ京漢鐵道ヲ買收シ其他豫約セル敷設權ハ之ガ代價トシテ資金供給權等ノ約ヲ與ヘ皆之ヲ取消シタリ

斯ク官民舉テ利權回收ニ奔走シタル結果之間ニ設立サレタル民設鐵道會社ハ其數十數箇ニ及ビ其許可サレタル豫定線路約七千哩一九〇八年郵傳部ノ發表シタル官設豫定線亦一萬三千哩合計約二萬哩ニ達スルニ至リシモ由來流動資本ニ乏シキ支那ニ於テ斯ノ如キ大鐵道ヲ急速ニ完成シ得サルハ勿論ノ事ニシテ其後五年間ニ實行シ得タルハ僅カニ民設ニ於テ滬杭線一百哩官設鐵道ニ於テ京張線百二十五哩ニ過ズ

茲ニ於テ豫定鐵道ニ對シ資金供給ノ權利ヲ保有セル外人ハ契約履行ト鐵道速成ヲ迫リテ止マズ然ルニ其敷設權ヲ有スル民設鐵道會社ハ出資敷設ノ實力ナキニ拘カワラズ外資使用ヲ肯ゼザルヲ以テ百計盡キタル政府當局者ハ昨一九一一年四月遂ニ粵漢川漢兩線及其他ノ幹線ニ對シ前ニ與ヘタル民設許可ヲ取消シ再ビ

之ヲ官設トシ其資ヲ英佛獨米ノ四ヶ國ヨリ仰グニ決シ勅令ヲ以テ之ヲ發布スル
ト同時ニ外債契約成立シ蘇議ヲ排シテ之ガ實行ニ着手シタルニ人民ノ反抗甚
シク遂ニ革命戰爭勃發ノ動機ヲ造リ清朝三百年ノ社稷ヲシテ茲ニ亡滅セシムル
ニ至リタリ

第二節 外國所有鐵道

外國所有鐵道トハ外國官民カ支那ニ於ケル政治上經濟上ノ目的ニ使用スルタメ
條約ニヨリ得タル權利ニ從ヒ其本國ニ於テ設立セル商事會社ノ資本ヲ以テ支那
領土内ニ敷設セル鐵道ヲ言フ

其一 既設外國所有鐵道

名 稱	敷 設 地	既 設 哩 數	貨 本 金	所 有 者
東 清 鐵 道	滿洲里五站ハルビン長春間	一、〇六七哩	一五〇、〇〇〇、〇〇〇圓	露國東清鐵道會社
南滿洲鐵道	大連 長春間	五一九哩	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓	日本南滿洲鐵道株式會社
安 奉 鐵 道	奉天 安東縣間	一七〇哩	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓	日本南滿洲鐵道株式會社
青 濟 鐵 道	青島 濟南間	二五五哩	五四、〇〇〇、〇〇〇馬	獨逸山東鐵道會社
九廣鐵道(一部分)	九龍 深圳間	二二哩	一二、三七〇、〇〇〇弗	英國鐵道會社

、瀋 越 鐵 道 河口 雲南 府 間 二八八哩 二二〇、〇〇〇、〇〇〇法 佛國瀋越鐵道會社
 龍 洲 鐵 道 諒 山 龍 洲 間 五〇哩 五、九九〇、〇〇〇兩 佛國フイアリエー會社
 (FIVE-ILLI)

以上ハ現在既設ノ外國所有鐵道ニシテ其哩數合計二千三百七十一哩ニ達ス

A 東清鐵道

本鐵道ハ露國ガ日清戰後日本ニ對シテ試ミタル三國干涉ノ實動ニ對スル報酬ト
シテ其公使カシニ一ヲシテ李鴻章ト結バシメタル所謂カシニ一密約ニヨリ得タ
ル權利ヲ基礎トシ一八九六年八月二十七日清國政府ト露清銀行トノ間ニ締結サ
レタル東清鐵道會社設立ニ關スル條約ニ基キ敷設サレタル鐵道ニシテ其條約要
領ハ

- 一 總裁ハ清國政府之ヲ選任シ副總裁ハ露國政府之ヲ選任ス
- 一 本鐵道會社ノ營業期限ハ之ヲ八十年トシ八十年ヲ經過シタル後ハ鐵道
及附屬品全部之ヲ無償ニテ清國政府ニ引渡スベキモノトス但シ三十六ヶ年
ヲ經過シタル後ニ於テハ清國政府ハ隨時之ヲ買收スルコトヲ得
- 一 本鐵道會社株券ハ露清兩國人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

一 露國政府ハ年利六分ノ利子補給ノ義務ヲ負擔スベシ
 一 會社ノ役員線路ノ方向設計豫算内部組織等ハ凡テ露國政府ノ認可ヲ要スベ
 ク鐵道諸設備發車ノ度數及其料金公用負擔等凡テシベリヤ鐵道ニ準據スベ
 キモノトス

一 會社ハ鐵道及其附屬物ノ保護ノタメ鐵道沿線ニ警察隊ヲ設置スルコトヲ得
 (但シ露國ハ曩ニカシニ一條約ニヨリテ得タル權利ニヨリ警察隊ノ外自國軍
 隊ヲ以テ守備ニ任ゼリ)

等其主ナルモノニシテ右條文ニヨレハ清國政府ハ本會社總裁ノ選任權ヲ有スト
 雖モ素之レ露國政略上ノ籠絡手段ニ過ギザルハ明カニシテ之ヲ事實ニ徵スルモ
 第一次總裁許景澄前ニ駐露公使トシテカシニ一密約及本條約締結ニ與テ力アリ
 ノ義和團事變ニ殉シタル以後亦總裁ヲ置カズ其全權ハ露國政府ノ選任ニカハル
 副總裁ノ掌裡ニ歸シテ今日ニ及ベリ

右條文ニヨリ清國官民ハ何時ニテモ會社株主ニ加入スルヲ得ル規定ナルモ本會
 社設立ノ際清國ガ出資シタル五百萬兩ハ敷設工事完成ノ後拂戻シヲ受ケタレバ

事實上露國資本ノミニヨリテ經營サル、モノト見ルベク其資本額ハ一億五千萬
 留ト稱スルモ日露開戰ニ至ル迄ニ本鐵道ニ對シ露國政府ノ投シタル金額ハ四億
 ○四百八十二萬留ニ達セリト言フ

B. 南滿鐵道

本鐵道ハ元東清鐵道ノ一部分ニシテ露國ガ一八九六年東清鐵道會社設立ニ關ス
 ル條約ヲ締結シテ前述東清鐵道ヲ敷設シタル後間モナク獨逸ノ山東省膠州灣ヲ
 占領スルヤ露國ハ直ニ立チテ同地ノカシニ一條約ニヨリ露國ニ租借ノ優先權ア
 リシヲ主張シ支那ニ迫リテ遂ニ一八九八年三月二十七日バプロツフ條約ヲ締結
 シ旅順大連ヲ租借スルニ至ルヤ此地ニ鐵道延長ヲ策スルノ必要上翌一八九九年
 二月五日更ニ東清鐵道追加條約ヲ制定シテハルピンニ起工式ヲ舉ゲ一九〇三年
 ニ至リテ開通シタルモノニシテ煙臺炭坑線及旅順線ハ日露戰爭中軍用ノ爲メ露
 國ノ敷設シタルモノトス然ルニ日露相戰フテ露國ノ敗レタル結果一九〇五年九
 月五日日露講和條約第六條ノ規定ニヨリ長春旅順口間ノ鐵道及其一切ノ支線並
 ニ同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利特權及財產及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬

シ又ハ其利益ノタメニ經營サルル一切ノ炭坑ハ日本ノ所有ニ歸シタルモノニシテ清國トノ關係ハ同年十二月締結ノ日清協約ニヨリ日本ハ露清兩國間ニ締結サレタル鐵道敷設ニ關スル原條約ハ努メテ之ヲ遵守スベキヲ承諾シテ其權利ヲ東清鐵道ノソレト同一ナラシムルコトトシ守備權及行政權ヲ保有シテ之ヲ經營スルコトトシタルモノナリ

C 安奉鐵道

安奉鐵道ハ日露交戰中軍事上ノ必要ニ迫ラレテ日本ノ敷設シタル輕便鐵道ニシテ戰後直ニ之ヲ改造スルノ必要アリタルカタメ一九〇五年十二月締結ノ北京條約附屬協約第八條ニ於テ日本政府カ同鐵道ヲ各國商工業ノ貨物輸送用ノ鐵道ニ改造シ經營スルノ權理ヲ有スルコトヲ盟約セシメ且改造工事ハ軍隊送還ノタメ遅延スベキ十二月ヲ除キ二ケ年内ニ完成スベキヲ定メタリ茲ニ於テ日本政府ハ屢々清國ト改造ニ關スル内議ヲ遂ゲタル後一九〇九年一月ニ至リ公然交渉ヲ開始シ協議未了ナル陳相屯奉天間改造問題ハ之ヲ後日ノ審議ニ讓ルコトトシ交渉完結セル區間ノ改造ニ着手セントシタルニ清國ハ守備兵撤退及鐵道警察權問

題等ヲ提唱シテ之ヲ妨グントシタリシタメ日清兩國間外交上ノ紛議ヲ惹起スルニ至リシモ日本ハ前記北京條約ニヨリ得タル權利ニ從ヒ自由行動ヲ採ルベキコトヲ通告シテ工事ニ着手シ尙其改築工事ニ妨害ヲ與ヘザル限リ清國ノ談判ニ應ズベキコトヲ附言シタルニ八月十三日ニ至リ清國政府之ガ改築ニ同意スル旨ヲ通譯シ來リタル結果其後着々工事ヲ進メ一九一一年十一月三日遂ニ全線ノ改築ヲ竣レリ

本鐵道ハ改築工事完成期日即チ一九一一年十一月三日ヨリ起算シ十五ケ年ヲ以テ期限トシ其後ニ於テハ清國政府之ヲ買收スルコトヲ得ルモノニシテ其價格ハ日清兩國各第三國ノ評價人一名宛ヲ選任シ其評價ニ一任スベキモノトス
本鐵道ニ關スル經營事務ハ東清鐵道條例ニ準據シテ之ヲ行フベク其他ノ事項ハ隨時日清兩國委員商議ノ上之ヲ決定スベキモノトス

D. 青濟鐵道

本鐵道ハ獨逸カ一八九七年十一月一日山東省曹州鉅野縣ニ於テ佛國天主教ニ屬スル自國宣教師二名ノ殺害サレタルヲ機トシ直ニ軍艦ヲ派シテ膠州灣ヲ占領シ

タル後其公使ヲシテ清廷ヲ威赫セシメ強テ盟約セシメタル一八九九年三月六日
調印ノ膠州灣租借鐵道礦山放資ニ關スル條約ニヨリ獲得シタル權利ニ基キ敷設
シタル鐵道ニシテ其條約本文中鐵道及放資ニ關スル主ナル規定左ノ如シ

第一 支那政府ハ獨逸ニ許スニ山東省内ニ於ル二個線路ノ鐵道敷設ヲ以テス
ルコトヲ約ス其線路豫定地名左ノ如シ

甲、膠州ヨリ起リ濰縣青州博山縣淄川鄒平ヲ經テ濟南府ニ達シ且山東省ノ疆
界ニ到ルモノ

乙、膠州ヲ起點トシ沂州府ニ出テ策蕪縣ヲ經テ濟南府ニ達スルモノ

濟南府ヨリ山東省ノ疆界ニ達スベキ線路ハ追テ支那鐵道南北貫通鐵道ノ
本線ト連絡スルヲ要スルヲ以テ今其地名ヲ決定セス膠州濟南間ノ工事竣
成ノ日ヲ俟チテ之ヲ査定スベシ

第二 右甲乙兩線ノ鐵道敷設ノタメ獨逸支那共同鐵道會社ヲ設立セシムベク
其株主ハ獨逸支那兩國資本家トス(但シ本鐵道ハ事實上全部獨逸ノミノ出資ニ
ヨリテ敷設シタルモノニシテ清國ノ資本ヲ含マズ)

第三 上述鐵道線路ノ沿道左右十里以内ニアル地方ニ於テ獨逸人民ハ自由ニ
石炭其他ノ諸礦山ヲ採掘スルコトヲ得

第四 獨逸商人及其職工等ハ鐵道敷設礦山採掘何レノ場合ニ於テモ支那政府
ヨリ優渥ナル待遇ヲ與ヘラルベク且支那帝國內ニ存在セル外國人ト支那人ト
ノ他ノ共同商會若シクハ外國商會ト同等ナル特許特權ヲ附與サルベシ

第五 山東省内ニ於テ新ニ企畫サル事業ニシテ外國資本若シクハ外國ノ補
助ヲ招募セントスル場合ニ於テハ支那政府ハ先獨逸商人ニ該新企業ニ從事ス
ルノ願意アルカ若シクハ獨逸商人カ該新企業ノタメニ諸材料ヲ準備供給スル
ノ希望アルカヲ照會スルノ義務アルモノトス

本鐵道ニ關シ注意スベキハ獨逸ガ其本國法律ニヨリ會社ニ附與シタル特許期限
ノ規定アルモ清國トノ間ニ鐵道會社營業期限ニ關シ何等ノ規定ナキコトナリ

E. 九廣鐵道(九龍租借地内ニ於ル)

一八九九年時ノ駐清英國公使マクドナルドハ清國ガ當時既ニ英國ノ租借地タリ
シ香港及九龍半島ノ近海ナル廣州灣ノ租借ヲ佛國ニ許シタルハ故意ニ英國ノ租

借地ヲ危クスルモノナレバ英國ハ從來占有セル香港及九龍半島ノ租借地域ヲ擴張シテ附近一帶即チ九龍半島全部香港附近大小四十餘島及大鵬深州ノ二灣ヲ新ニ租借シテ之ニ備フルノ必要アリトテ強硬ニ支那ニ迫リ其結果廣州灣租借問題ノ議セラレテ未ダ一ヶ月ヲモ絶ザル同年六月六日李鴻章ト締結シテ現今ノ所謂九龍租借地ヲ得タリ

本鐵道ハ右九龍租借地内ニアル英國鐵道ニシテ同年八月二十一日マクドナルド公使ハ同地方ヨリ廣東ニ到ルベキ鐵道敷設ヲ清國ニ要求シタル結果翌一八九九年九廣鐵道假契約ノ調印ヲ見去ル一九〇六年ニ至リ本契約締結サレテ茲ニ敷設ヲ見ルニ至リタルモノニシテ租借地區域以外ノ線路ハ英國ヨリノ借款ニヨリ清國側ノ敷設シタルモノナリトス租借期限九十九年間

F. 滇越鐵道

一八九五年六月二十日支那ト修正條約ヲ締結シテ雲南地方ニ於ケル鐵道敷設權ニ關シ優先權ヲ得タル佛國ハ更ニ其公使ヲシテ一八九七年六月十二日ヨリ一八九八年四月十日ニ至ル約一ケ年間支那政府ト文書ヲ交換セシメテ之ヲ確メ一八

九九年十一月十六日正式ニ調印ヲ終リタル廣州灣租借條約ノ結果得タル敷設權ニ基キ一九〇三年十月二十八日佛國公使G. Dubailト清國外務部總理慶親王トノ間ニ調印シタル雲南安南鐵道敷設契約ニヨリ敷設ヲ見ルニ至リタルモノニシテ其條規亦殆ド既述諸外國鐵道ト同一ナリ其ノ異ナル點左ノ如シ

第一 支那大官ノ文書及清國郵政局ノ各種郵便物並ニ局員一名ヲ日々往來スル流車ニテ運送スル場合ハ運賃ヲ要セズ且清國郵政局ハ郵便物送達ノタメ規定ノ賃金ヲ支拂ヒテ會社ヨリ車輛ヲ借切リ或ハ郵便專用車ヲ準備シテ之ヲ運轉セシメ若クハ時間ニ拘ラズ郵便車ヲ發セシムルコトヲ得

第二 本鐵道ハ商業上ノ目的ノタメ敷設シタルモノナルガ故交鹽ヲ運載シ或ハ兩國ノ兵士又ハ兩國兵士所用ノ軍器彈藥糧食ヲ輸送シ及ビ清國禁制品ヲ積載スルヲ得ズ若シ萬一清國ト他國ト戰端ヲ開クニ至リタル時ハ本鐵道ハ全然清國ノ命令ニ服従スベシ

第三 會社ノ資金ヲ以テ語學及鐵道ニ關スル専門學校ヲ設立スベシ

第四 鐵道敷設中會社ハ毎月銀四千四百五十兩ヲ雲南省地方長官ニ交附シ來

往幹旋スル支那官吏ノ俸給食料費ヲ補給スベシ

第五 清國政府ハ八十年ノ期限滿ツル時ハ佛國政府ト商議シテ敷地鐵道及鐵道ノ一切ノ財産ヲ買收スルコトヲ得其償還額ハ築造費並ニ各種專問技術ノ費用及佛國ガ保證シテ交付シタル株金利息等ヲ計算ス凡ソ鐵道ニ關スル各種經費ハ期限到ルヲ俟テ此鐵道ノ收入ヲ以テ還濟ス然ル時ハ別ニ代價ヲ支拂ハズシテ鐵道及一切ノ財産ハ自ラ雲南省地方長官ノ管理ニ歸スベシ若シ清國ハ各種製造費ヲ算定セント欲セバ佛國カ調製シタル歷年收支決算表ヲ證據トシ引渡ノ時之ニヨリテ開議スヘク清國カ其費用ヲ支拂ヒ得ベキヤ否ヤ豫メ承知シタル上此鐵道及一切財産ノ買收ヲ議スルモノトス

G. 龍州鐵道

本鐵道ハ前述滇越鐵道ト同ジク一八九五年六月二十日支那ト締約シタル修正條約ニヨリテ得タル利權ヲ基礎トシ其後數回ノ交渉ノ結果一八九六年締結サレタル廣西龍州鐵道敷設契約ニヨリ先ツ龍州ヨリ鎮南關ニ至ル間ノ敷設ヲ關シ其後一八九七年及一八九九年新ニ新契約ヲ締結シテ現今ニ至リシモノ其條約主要點

等殆ド滇越線ノソレト同一ナリ

其二、未設外國所有鐵道

以上記述シタルハ皆既成外國所有鐵道ナリ然ルニ尙未ダ敷設スルニ至ラザル外國所有線鈔カラズ左ノ如シ

名稱	敷設地區	哩數	所有國名
道信鐵道	浦口信陽間	三三〇哩	英國怡和洋行
道浦鐵道	道口鎮浦口間	四五〇哩	北京シンヂケート
廣州灣鐵道	醴林三百塘高州間	二六三哩	佛國
安赤鐵道	安鋪赤坎間	六〇哩	〃
南寧鐵道	北海南寧間	一二〇哩	〃
合計	五鐵道	一、二二三哩	英佛兩國

A 道信鐵道、一八九七年九月三十日英商北京シンヂケート Peking Syndicate 山西巡撫ト交渉シテ本鐵道敷設山西礦山採掘ニ關スル豫備契約ヲ締結シ越テ一ヶ月十月二十五日修正條約ニ調印ヲ終リテ清廷ノ批准ヲ絶タルモ地方人民及本

契約ニヨリ重大ナル打撃ヲ蒙ルベキ大原柳林間鐵道ノ關係者露清銀行ハ頑強ナル抗議ヲ提出シテ之カ破棄ヲ企ツルニ及ビ遂ニ問題ハ轉ジテ英露兩國ノ爭トナリシガ交渉數回ノ後一八九八年五月二十一日ニ至リ兩者互讓シテ山西採鑛條約ノ訂約サルルニ至リ遂ニ之ガ確定ヲ見ルニ至リシモノ即チ本鐵道ナリ

B. 道浦鐵道、本鐵道ハ清國政府ガ一八九八年六月二十六日白耳義シンヂケートニ蘆漢鐵道ノ敷設ヲ許可シタルヲ口實トシ英國公使マクドナルドノ覺書ヲ提出シテ其敷設ヲ要求シタル結果一八九八年九月六日清國政府ノ承認シタルモノナリ

C. 廣州灣鐵道、本鐵道ハ一八九九年十一月十六日調印ヲ終リタル廣州灣租借條約第七條ノ規定ニヨリ敷設權ヲ得タルモノニシテ同條約第七條ノ規定左ノ如シ

清國政府ハ佛國ニ雷州府所屬廣州灣地方赤坎ヨリ安鋪ニ至ル地ニ鐵道ヲ敷設シ陸路電線ヲ建設スルコトヲ準ス而シテ之カタメ要スル土地ハ佛國官吏ヨリ清國官吏ニ照會シ地方官ヲ經テ時價相當代價ヲ清國人民ニ給ス而シテ鐵道敷設ノタメ要スル各材料及電信線路修築ノタメ要スル費用ハ凡テ佛國ノ負擔ニ

歸シ而モ清國人ハ規定スル項目ニ從ヒ鐵道電線ヲ使用スル便益ヲ有ス鐵道及電線ニシテ清國ニアルモノハ清國官吏之ガ保護ノ責ニ任ズベク租借地内ニア

ルモノハ佛國自ラ之ヲ保護スベシ云々

D 安赤鐵道 右廣州灣鐵道ト同ジク一八八九年十一月十六日調印廣州灣租借條約ニヨリ其敷設權ヲ得タリ

E 南寧鐵道、一八八五年六月九日天津條約ヲ結ンデ南清地方ニ於ル鐵道敷設ニ關シ優先權ヲ得タル佛國ハ其後一八九七年六月十二日清國政府ニ覺書ヲ提出シテ之ガ確保ヲ計リタルニ偶翌年五月二日廣西ニ於テ其宣教師ノ殺害セラ

ルニ及ビ遂ニ清廷ニ迫リテ同月二十八日日本鐵道ノ敷設權ヲ得タリ

第三節 官有鐵道

其一 清國政府カ國庫金ヲ以テ敷設シタル鐵道

清國政府ガ國庫金ヲ以テ敷設シタル鐵道ハ其既設線二百五十六哩ニ達ス其主ナルモノ左ノ如シ

名稱	敷設地域	哩數	敷設費	所屬
南苑鐵道	北京永定門黃村間	七哩	七〇,〇〇〇兩	陸軍部
京張鐵道	北京張家口間	一二五哩	七,二九一,〇〇〇兩	郵傳部
京門鐵道	北京門頭溝間	二一哩	六三一,〇〇〇兩	〃
清瀾鐵道	小清河濰口間	五哩	〃	山東省
小清河鐵道	濟南小清河間	二哩	〃	山東省
甯省鐵道	南京下關間	七哩	三〇〇,〇〇〇兩	江蘇省
照洋鐵道	照山洋縣間	七二哩	二,〇〇〇,〇〇〇兩	郵傳部
齊昂鐵道	齊昂昂々溪	一七哩	三二〇,〇〇〇兩	黑龍江省

A 南苑鐵道 本鐵道ハ北京外城永定門ヲ起點トシ黃村ニ至リテ京奉鐵道ニ連結スル輕便鐵道ニシテ一九〇六年起工翌一九〇七年七月竣成シタルモノナリ

B 京張鐵道 本鐵道ハ多年露國ノ要望シタル線路ニシテ一八九九年露國ハ清國當局者ヲ語イテ西比利亞ヨリ蒙古ヲ經北京ニ至ル鐵道敷設權ヲ得タルモ英國ノ強硬ナル抗議ニ會イテ其意ヲ遂グルニ由ナカリシカバ遂ニ清國ヲシテ自ラ之ヲ敷設セシメ外國ノ資ヲ借ラザルコトヲ公約セシメタリ茲ニ於テ清國ハ京

奉鐵道ノ收益ヲ以テ本鐵道ヲ敷設スルニ決シ一九〇五年九月起工一九〇九年八月竣工シタリ

C 京門鐵道 本鐵道ハ京張線ノ支線ニシテ門頭溝ヨリ產出スル石炭輸送ヲ目的トス

D 清瀾鐵道 本鐵道ハ小清河黃臺橋ヨリ濰口ニ至ル輕便鐵道ニシテ一九〇六年山東鹽運使ノ敷設シタルモノナリ

E 小清河鐵道 獨逸ニ迫ラレテ敷設シタル鐵道ニシテ其工事ハ獨逸山東鐵道會社ヲシテ之ヲ請負ハシメ一九〇六年三月全線ノ開通ヲ見ルニ至リタリ

F 甯省鐵道 本鐵道ハ滬甯鐵道ヲ南京城内ニ連絡セシメンガタメ兩江總督ノ敷設シタルモノニシテ一九〇七年起工翌一九〇八年之ヲ完成シタリ

G 照洋鐵道 本鐵道ハ江西省安原ノ產炭ヲ運搬スルタメ敷設シタル鐵道ニシテ一九〇三年起工二ケ年ヲ費シテ一部ノ開通ヲ見タルガ昨一九一一年全部竣工セリ

H 齊昂鐵道 本鐵道ハ商業上ノ利用ヲ目的トシ時ノ將軍程德全ノ企テタル輕便

鐵道ニシテ獨商泰來洋行ヲシテカ工事ヲ請之負ハシメ一九〇八年竣工シタリ

其二 外資ニヨリテ敷設シタル官有鐵道

清國ガ外債ヲ募集シテ敷設シタル官有鐵道ハ京奉鐵道ヲ始メトシ京漢正太道清
汴洛滬寧廣九津浦及吉長ノ諸線アリ今正ニ工事中ニ屬スルモノニ粵漢川漢ノ大
鐵道アリ乃チ左ノ如シ

名稱	敷設地域	幹支線哩數	外資額	清國出資額
京奉鐵道	北京奉天間	六〇七哩	二,三三二,〇〇〇磅	一七,〇三〇,〇〇〇兩
京漢鐵道	北京漢口	八〇二	五,〇〇〇,〇〇〇	五,六二〇,〇〇〇
正太鐵道	正定太原府	一五〇	一,六〇〇,〇〇〇	一,一三五,〇〇〇
汴洛鐵道	開封府洛陽府	一三六	一,六四〇,〇〇〇	—
滬甯鐵道	上海南京間	二〇七	二,九〇〇,〇〇〇	三,二〇九,二〇〇
道清鐵道	上海蘇南土嘉興間	九四	七〇〇,〇〇〇	五五七,〇〇〇
九廣鐵道	道口鎮清化鎮	(內二十二哩英國所有線)	一,五〇〇,〇〇〇	—
津浦鐵道	天津浦口間	七二〇	八,〇〇〇,〇〇〇	—
吉長鐵道	吉林長春間	九三	二二五,〇〇〇	一,五七〇,〇〇〇
塊漢川漢鐵道	武昌廣沙驛 廣水驛成都漢口荆門	一,〇二三 (未成九五〇哩)	七,一〇〇,〇〇〇	—

合計

三,九四三哩 (未成及外國線九七二哩) 三〇,九八七,〇〇〇磅 二九,二二一,二〇〇兩

A 京奉鐵道 本鐵道ハ北京ヲ起點トシ天津塘沽灤州山海關錦州溝邦子新民屯等
ヲ經テ奉天省城ニ達スル鐵道ニシテ幹線五二一哩支線八六哩ヲ有シ其收益每
年五百萬兩ニ達ス

現存支那鐵道中最古ノモノニシテ一八八六年開平炭坑會社運炭用ノタメ之ヲ
創設シ後一八八五年ニ至リ官有鐵道ニ改メテ關内外鐵道ト稱シ其後次第ニ線
路ヲ延長シテ遂ニ京奉ト改稱スルニ至リシモノナリ
前掲表中記載ノ金額ハ關内外鐵道借款二百三十萬磅ニ南滿州鐵道會社ヨリ借
入レタル三十二萬圓ヲ加算シタルモノナリ

B 京漢鐵道 本鐵道ハ北京ヲ起點トシ保定正定彰德鄭州信陽等ヲ經テ漢口ニ達
スル鐵道ニシテ幹線七五四哩支線七一哩ヲ有シ其年收五百萬元ヲ超ユ
本線ハ一八九六年始メテ白國レンヂダートヨリ得タル一億二千五百萬法ヲ以
テ敷設シタルモノナルモ一九〇八年ニ至リ香港上海銀行及印度支那銀行ヨリ

五百萬磅ヲ借入レテ之ヲ償還シタリ表中記載ノ金額ハ此五百萬磅ヲ假リニ該鐵道外債ト見做シタルモノナリ

C 正太鐵道 本線ハ正定府石家莊ヲ起點トシ井陘娘子口陽泉壽陽榆次等ヲ通過シテ太原府ニ達スベキ鐵道ニシテ其哩數百五十哩ニ及ブ一九〇九年度ノ收支ハ其外債利子ヲ算入スレバ六十萬兩ノ缺損ナリト言フ

D 汴洛鐵道 本鐵道ハ開封ヲ起點トシ鄭州榮陽鞏偃師等ヲ通過シテ河南ニ至ル鐵道ニシテ一九〇九年度ノ營業收支ハ六十萬元ノ缺損ナリト言フ

E 滬甯鐵道 本鐵道ハ上海ヲ起點トシ蘇州無錫常州鎮江等ヲ過リ南京ニ至ル線路ニシテ幹線一九三哩一九〇八年竣工シタルモノナリ

F 道清鐵道 本鐵道ハ元英商北京シンデガートノ敷設シタルモノナルガ一九〇五年清國政府ニ賣渡シタルモノニシテ河南省道口鎮ヲ起點トシ衛輝新鄉修武清化鎮等ヲ通過シテ澤州ニ達スル鐵道ナリ目下年額約五十餘萬元ノ缺損アリト言フ

G 九廣鐵道 本鐵道ハ廣東ヨリ石龍東莞等ヲ通過シテ英國租借地九龍ニ至ル鐵

道ニシテ全線一一哩ノ内二哩ハ英國ノ所有鐵道ナリ

一九〇七年起工昨一九一一年全部竣工シタリ

H 津浦鐵道 本鐵道ハ天津ヲ起點トシ滄州德州平原濟南兗州徐州固鎮南宿府等ヲ通過シテ浦口ニ達スベキ鐵道ニシテ其幹線九九〇哩支線四五哩ハ本年六月全部開通セリ

本鐵道ハ其公債引受契約ノ規定ニヨリ公債發行後十ケ年ヲ經過スレバ公債全部ヲ一時ニ返還シ得ルノ權アルヲ以テ其期ニ到レバ之ヲ官民共營ノ鐵道トナサントテ清國官民津浦鐵道會社資本金七百萬兩ナルモノヲ設立シ株式ヲ募集スルト同時ニ政府ノ許可ヲ得テ長蘆鹽ノ消費稅ニ一斤四文ノ附加稅ヲ課シ之ヲ以テ拂込株金ノ利子支拂ノ用ニ供シ代價トシテ鹽商及州縣ニハ各同額ノ同會社株券ヲ交付スルコト、シ既ニ一九〇九年度ヨリ實施シ居レリ

I 吉長鐵道 本鐵道ハ長春ヲ起點トシ興隆山吳家店ニ道溝土門嶺九站街等ヲ經テ吉林ニ至ルベキ線路ニシテ元吉林省内官民ノ計畫スル處ナリシモ一九〇七年新奉鐵道協定條款ノ締結サレタル結果日本ヨリ資金ヲ供給スルコト、ナリ

丁 粵漢川漢鐵道 本鐵道ハ湖北湖南廣東四川ノ四省ニ亘ル大鐵道ニシテ其全長一〇二三哩以上ニ及ブ初メ外資ヲ以テ其敷設ヲ計リシモ中頃之ヲ回收シ民設ヲ許可シタルニ廣東ヲ除キ他ノ三省ハ資金調ハズシテ到底敷設ノ望ナキニ至リシカバ遂ニ亦官有鐵道ニ變更シ昨一九一一年五月英米獨佛ノ四ヶ國ヨリ外資ヲ仰ギテ之ガ敷設ニ着手スルニ至リタリ

其三 未設官有鐵道及官民共營鐵道

A. 未設官有鐵道

目下工事中ニ屬スルモノ及起工準備中ノ未設鐵道左ノ如シ

名稱	敷設區間	哩數	敷設資金	處屬
張綏鐵道	張家口綏遠城間	二七六哩	一七、五六〇、〇〇〇兩	郵傳部
開徐鐵道	開封徐州間	一八七哩	七、七〇〇、〇〇〇兩	〃
海清鐵道	海州清口浦間	八七哩	三、〇〇〇、〇〇〇兩	〃
西潼鐵道	潼關西安間	一〇〇哩	五、〇〇〇、〇〇〇兩	〃

合計

六五〇哩 三三、二六〇、〇〇〇兩

a. 張綏鐵道 本線ハ京張鐵道ヲ延長シテ大同府綏安城ヲ經蒙古ヲ橫斷シテ庫倫ニ達セシムベキ鐵道ニシテ早クヨリ露國屢其敷設ヲ要望シタルモ清國々防上重要ナル線路ナルヲ以テ之ヲ許サズ一九〇七年ニ至リ佛國ヨリ出資ノ申込ヲナシタルモ之亦拒絕シテ遂ニ清國自ラ之ヲ敷設スルニ決シ全線ヲ四大別シ張家口ヨリ山西省天鎮縣ニ至ル間ヲ第一區トシ一九〇九年九月ヨリ其工事ニ着手シタリ

b. 開徐鐵道 本鐵道ハ清國政府ノ計畫セル中原橫斷幹線ノ一部分ニシテ本年ヨリ起工ノ筈ナルモ資金調ハズ目下起工準備中ニ過ズ

c. 海清鐵道 本鐵道亦開徐鐵道ト同ジク中原橫斷鐵道ノ一部分ヲナスモノニシテ元海清有限公司ニ許可シタル線ナルモ後之ヲ官有ニ改メ目下起工準備中ナリ

d. 西潼鐵道 本鐵道ハ陝西巡撫ノ奏請ニヨリ一九〇五年官民共營トシテ西潼鐵路公司ニ許可シタル線路ナルモ昨年十月之ヲ官有ニ改メ目下起工準備中ナリ

更ニ將來敷設スベク前清朝時代郵傳部ノ豫定セルモノヲ表示セバ左ノ如シ

吉會鐵道	吉林會寧間	二七〇哩	日本投資ノ優先權ヲ有ス
錦愛鐵道	錦州愛輝間	九六四哩	
平澤鐵道	平陽澤州間	一〇九哩	
蒙古鐵道	科布多呼倫貝爾	一、九五〇哩	
順濟鐵道	順德濟南間	一九五哩	
正德鐵道	正定德州間	一三〇哩	獨逸投資ノ優先權ヲ有ス
開兌鐵道	開封兗州間	二八四哩	獨逸投資ノ優先權ヲ有ス
江無鐵道	江蔭無錫間	二八哩	
三梧鐵道	三水梧州間	一二〇哩	
西成鐵道	西安成都間	五〇〇哩	
西漢鐵道	西安漢陽間	四五〇哩	
長涪鐵道	長沙涪州間	四五〇哩	
衡雲鐵道	衡州雲南間	七〇〇哩	

西藏鐵道

成都札什倫布蘭州間
拉薩

一二五〇哩

合計

七、五〇〇哩

以上各鐵道ハ早晚敷設サルルニ至ルベク且過去ノ經驗ニ徵スルニ到底支那自力ヲ以テ之カ竣成ヲ見ルコト不可能ナルベケレバ必ズ將來列國投資ノ目標トナルベキ時期到來スベシ

B 官民共營鐵道

純然タル官有鐵道ニ非ザルモ便宜上茲ニ揚グ現今支那ニ於ル半官半私ノ鐵道左ノ如シ

名稱	敷設區域	哩數	哩數
蕪廣鐵道	蕪湖廣德間	九三哩	四、〇〇〇、〇〇〇兩
吉黑海綏鐵道	三姓北團林子海綏 呼蘭海倫	三九三哩	一五、〇〇〇、〇〇〇兩
張熱鐵道	張家口熱河	一七三哩	七、八〇〇、〇〇〇兩
新疆鐵道	西安伊犁間	二、六八八哩	三五、〇〇〇、〇〇〇兩
儀泰鐵道	儀徵泰州間	三三哩	二、〇〇〇、〇〇〇兩

a 蕪廣鐵道 本鐵道ハ元利權回收熱ニ促サレテ計畫シタル線路ニシテ蕪湖ヨリ廣德州ニ至リ浙江省湖州線ニ連絡セシムル豫定ニテ英國人ヲ技師長トシ一九〇七年起工目下尙工事中ナリ其資金ハ株金及諸税金ヲ合スルモ全部ヲ完成スルニ足ラザルヲ以テ鹽茶米釐彩票等ヲ以テ補充ヲ計リシモ弊害百出シテ米釐ト彩票ハ遂ニ之ヲ中止シタリ

b 吉黑海綫鐵道 本鐵道ハ黑龍江諮議局ノ計畫スル所ニシテ一九一〇年五百萬兩ノ株式ヲ募集シ後東三省ヨリ百五十萬兩ヲ支出スルコトトナリタルモ未ダ其工事ヲ完成スルニ足ラザリシカバ新ニ地租ヲ課シテ百五十萬兩ヲ得以テ其工事ニ着手スルノ準備ヲ終ヘタルモ本線ノ一部露國ノ抗議ニ會ヒテ目下中止ノ狀態ナリ

c 張熱鐵道 本線ハ元北京ヨリ熱河ニ至ル豫定ナリシヲ一九〇六年變更シタルモノナリ

d 新疆鐵道 本鐵道ハ之ヲ西蘭伊蘭ノ兩線ニ分チ前者ハ甘肅陝西兩省ノ官民共同シテ後者ハ英商薄林會社ノ資本ヲ以テ支線ハ政府國庫金ヲ支出シテ敷設ス

ル豫定ナリト言フ

e 儀泰鐵道 淮南鹽輸送ノ用ニ供スルタメ一九〇七年江蘇鹽商ノ計畫シタル線路ニシテ今尙起工準備中ニ過ズ

第四節 民有鐵道

其一 株金ヲ以テ敷設セル民有鐵道

支那人ノ組織スル株式會社ノ株金ヲ以テ敷設シ外資及官資ヲ仰カザル純然タル民有鐵道ハ利權回收熱ノ勃發ニ伴ヒ到ル處ニ計畫セラレ政府ノ認可ヲ得タルモノ尠カラズト雖モ何レモ皆資金缺乏ノタメ潮汕南潯兩鐵道ノ如ク裏面ニ於テ外資ヲ借用スルカ然ラザレハ概シテ發企計畫シタルニ止マリ工事竣成セルモノ甚ダ少ナシ其主ナルモノ左ノ如シ

名稱	敷設地區	豫定哩數	既成哩數	資本額	會社名
潮汕鐵道	潮汕頭間	二七哩	二七哩	二、二四八、〇〇〇兩	潮汕鐵路公司
新寧鐵道	公益三夾間	四一哩	四一哩	一、九八〇、〇〇〇兩	新寧鐵路公司
房山鐵道	琉璃河周口間	二三哩	二三哩	九〇〇、〇〇〇兩	房山礦務局

漳厦鐵道	漳州府廈門間	三〇哩	三〇哩	二、一六〇、〇〇〇兩	閩路鐵路公司
安陽鐵道	六河浦豐榮鎮間	二二哩	三哩	六〇〇、〇〇〇兩	安陽礦務局
興國鐵道	興國英款口間	二〇哩	一〇哩	一、〇〇〇、〇〇〇兩	興國礦務局
清徐鐵道	清江浦徐州府間	一三〇哩	一八哩	三、〇〇〇、〇〇〇兩	完路鐵路公司
洛潼鐵道	鞏河南府間	一六〇哩	工事中	一〇、〇〇〇、〇〇〇兩	豫路鐵路公司
輝縣鐵道	輝縣壑庄間	三〇哩	工事中	一、五七〇、〇〇〇兩	輝縣鐵路公司
同蒲鐵道	大同府蒲州府間	五七〇哩	起工準備中	二〇、〇〇〇、〇〇〇兩	晉路鐵路公司
廣漢鐵道	廣東澳門間	一四〇哩	起工準備中	六、〇〇〇、〇〇〇兩	廣漢鐵路公司
合計		一、一九三哩	一四九哩	四九、四五八、〇〇〇兩	

A 潮汕鐵道 本鐵道ハ主トシテ南洋及米國在留支那人ノ出資ニヨリ敷設シタル線路ニシテ汕頭ヲ起點トシ潮州浮洋荳埠等ヲ通過シテ意溪ニ達ス一九〇五年起工一九〇七年竣工セリ日本ヨリ資金ノ大部ヲ借用セリト言フ

B 新寧鐵道 本鐵道ハ同縣出身陳宜禧ノ主掌スル處ニシテ一九〇六年四月起工三ヶ年ヲ經テ一九〇九年四月ニ至リ竣成セリ將來延長シテ江門白石ニ至リ港澳線ト連接セシムベク之カ準備ニ着手セリ

C 房山鐵道 本線ハ京漢鐵道琉璃河驛ヨリ房山縣周口庄ニ至ル二十三哩ノ運炭

鐵道ニシテ一九〇五年起工翌一九〇六年工ヲ竣レリ

D 漳厦鐵道 本鐵道ハ厦門ノ對岸島嵩ヲ起點トシ海滄石美江東橋ヲ經テ漳州府ニ達スル線路ニシテ株金ノ外糧揖鹽揖及鹽運使庫ヨリノ補助金ヲ以テ敷設費ニ當テタルモ尙百數十萬元ノ不足アリ一九〇六年五月起工昨年漸ク之ヲ竣成セリ

E 安陽鐵道 本鐵道ハ安陽產炭ヲ搬出スルノ用ニ供スルタメ石炭商ノ組織セル安陽礦務局ノ收益金ヲ以テ敷設シタル輕便鐵道ニシテ河南省彰德府安陽縣ノ六河溝ヲ起點トシ京漢線豐榮鎮驛ニ到ルモノナリ

F 興國鐵道 本鐵道ハ湖北省興國州東北地方ノ礦山鐵道ニシテ一九〇七年起工翌年三月其半バヲ竣成シタルマ、今日ニ至レリ

G 清徐鐵道 本鐵道ハ徐州ヲ起點トシ宿遷ヲ通過シテ清江浦ニ至ル鐵道ニシテ昨一九一一年中完成ノ筈ナリシモ資金不足ノタメ工事進捗セズ

H 洛潼鐵道 本線ハ河南鐵路公司ノ經營スル鐵道ニシテ株金ノ外鹽斤加課ヲ以テ其資ニ供セルモ到底其費ヲ償フニ足ラザルヲ以テ既ニ交通銀行ヨリ三百萬

元ヲ借用シ尙公益銀行ヲ介シテ外資借用ヲ策シツ、アリ機關銀行トシテ通印銀號ヲ有ス

I 嶧縣鐵道 山東省嶧縣臺庄間ノ鐵道ニシテ運鹽ノ用ニ供スルヲ目的トシ一九〇四年地方商人ノ計畫シタル處ナルモ目下中止ノ姿ナリ

II 同蒲鐵道 本鐵道ハ大原府ヲ中心トシ北大同府ニ至リテ張綏鐵道ニ連接セシムベク南平遙趙城ヲ通過シテ蒲州府ニ至リ潼關附近ニ於テ洛潼及西潼線ト連絡スベキ五百七十餘哩ノ大鐵道ニシテ現在民有鐵道中最大ノモノタリ

本鐵道ハ元鐵道礦山等ニ對スル外人ノ干涉ヲ防グタメ山西學界ノ主唱ニヨリ敷設ニ決シタルモノナリシガ資金ノ募集意ノ如クナラザルヲ以テ郵傳部ハ之ヲ買收シテ官有鐵道トナサント企テタルモ應ゼズ目下頻リニ起工準備中ナルモ到底完成ノ見込ナシ

K 廣澳鐵道 本線ハ廣東ヲ起點トシ古鎮江門石岐等ヲ通過シテ澳門ニ達スル百四十哩ノ鐵道ナルモ目下僅カニ起工準備中ニ過ズ

其二 外資ニヨリ敷設セル民有鐵道

外債ヲ募集シテ敷設シタル民有鐵道ハ滬杭甬鐵道及南潯鐵道ノ二線ナリ

名稱 敷設地域 既設哩數 會社資本額及內地社債 外國社債額

滬嘉線 上海 楓涇鎮間 三八 二〇〇〇〇〇〇元

杭嘉線 楓涇鎮嘉興杭州間 六四 社債 一五〇〇〇〇〇元

桶甬線 杭州江干寧波間 四〇 四〇〇〇〇〇〇元

南潯鐵道 南昌府九江府間 三二 四〇〇〇〇〇〇兩 五〇〇〇〇〇〇磅

A 滬杭甬鐵道 本鐵道ハ一八九八年時ノ中國鐵路公司督辦大臣盛宣懷ノ英清組合 British and Chinese Corporation ト敷設許可ノ假契約ヲ締結シタル線路ニシテ其

後利權回收熱ノ盛ニ唱導サル、ニ至リ清政府之カ廢棄ヲ企テタルモ英國之ヲ肯セズ種々交渉ノ結果遂ニ資金供給權ヲ提供シテ僅カニ該契約ヲ破棄スルヲ得タルモノニシテ本借款百五十萬磅ハ郵傳部之ヲ借り入レ改メテ本鐵道會社ニ貸付タルモノナリ故ニ其原利償還ハ第一ニ本鐵道ノ收益ヲ以テスルハ勿論ナルモ若本鐵道ノ收益ニシテ元利ヲ償却スルニ足ラザル時ハ郵傳部管轄ノ京奉鐵道收益ヲ以テ之ニ充テ尙不足ナル時ハ清國政府別ニ資ヲ造リテ之ヲ返還

スル契約ニシテ現今マデ本鐵道借款利子補給トシテ度支部ヨリ支出シタル金額二萬兩江甯江蘇兩藩庫ヨリ支出シタルモノ三萬兩及浙江省鹽斤加課ヨリ支出シタルモノ三萬兩合計八萬兩ニ達ス

然レド尙資金缺乏シテ工事進捗セザル結果滬杭甬鐵道中嘉興線ハ一九一二年六月十一日株主總會ヲ開催シテ左ノ條件ヲ定メ社債募集ヲ決議シタリ

一金 額 百五十萬元

二、利 子 年五分五厘

三、手 取 九十五

四、擔 保 杭州嘉興鐵道利益

五、期 限 五年間据置六年目ヨリ十年間年賦償却

六、應募者 社債應募者ハ内外人ノ如何ヲ問ハズ任意ニ之ヲ賣買スルコトヲ得

但シ社債應募者ハ役員ノ任命工事帳簿類ニ干涉スルコトヲ得ズ

七、特 典 將來再ビ社債ヲ募集スル場合ニハ本社債應募者ハ其應募ニ關シ優

先權ヲ有ス

即チ右ハ表面上内地社債ノ募集ニシテ外債ヲ起スモノニアラザル如ク裝ヘルモ其外債ノ募集ヲ主眼トスルモノナルハ第六條ノ規定ヲ一見シテ明カナリ傳フル處ニヨレバ本社債ハ米國ロバートダラー汽船會社全部之ヲ引受ケタリト

B 南潯鐵道、本鐵道ハ江西鐵路公司ノ經營スル線路ニシテ一九〇五年十一月起工一九〇八年竣工ノ豫定ナリシモ資金不足ノタメ豫定延長一一二哩中僅カニ三十二哩ヲ敷設セシニ過ズ會社設立以來一九〇八年マデ拂込ヲ完リタル株金僅カニ一百萬元ニ過ギザレバ鹽斤加課米捐木材磁器等ノ釐金稅ニ附加稅ヲ課シテ之ガ補充ヲ計リシモ到底其工ヲ竣ルヲ得ザルハ明カナリシカバ一九一二年初メ江西省臨時議會ハ其工事遲々トシテ進捗セザルヲ理由トシ之ガ公有ヲ議決スルニ至リタリ茲ニ於テ株主等ハ極力反對運動ヲ開始シテ決議ノ延期ヲ計ルト同時ニ會社總辦陳三立及大株主羅郎山等ヲ上海ニ特派シテ種々畫策セシメタル結果七月初旬ニ至リ東亞興業會社ト日貨五百萬圓(五十萬磅)借入ノ契約ヲ締結シ目下正ニ工事中ナリ

第七章 鐵道及郵傳部事業公債

第一節 鐵道公債

其一 京奉鐵道公債

A. 本公債募集事情

京奉鐵道ハ元開平炭輸送ノ用ニ供スルガタメ一八八六年同鑛山技師英人キンダ
 ーノ企畫シタル鐵道ニシテ其後次第ニ延長シテ一八九六年ニ至リ北京塘沽間ノ
 開通ヲ見ルニ至リ更ニ延長シテ山海關ヨリ營口新民屯間ノ工事ニ着手シタルモ
 當時清國ハ日本ト戰フテ破レ國庫大ニ窮乏シテ之カ資金ヲ出スニ由ナク工事ヲ
 繼續スル能ハザルニ至リシカバ英國ハ機乘ズベシトナシ一八九八年六月七日香
 港上海銀行ヲシテ清國ト豫備契約ヲ締結セシメテ先ツ同鐵道ニ對スル優先權ヲ
 獲得シ同年十月十日山海關牛莊鐵道借款契約ニ調印シテ之ガ資金供給ノ權ヲ確
 保シタリ

於茲從來同鐵道ニ對シ垂涎置ク能ハザリシ露國ハ其露清銀行ガ同鐵道ニ對シ六
 十萬兩ノ債權ヲ有シタルヲ口實トシ極力之カ破棄ヲ迫リテ止マズ遂ニ問題ハ英
 露兩國ノ懸案トナリ露都ニ移リテ談判數ヶ月ノ後遂ニ一八九九年四月二十八日
 英公使サーチャーレス、スコットト露國外務大臣ムラブイヨフトノ間ニ有名ナル
 清國鐵道ニ關スル英露協商ヲ締約シテ其局ヲ結ビ投資ノ權ハ英國之ヲ占ムルニ
 至リタリ英露協商ノ要點左ノ如シ

第一、英國ハ自國ノタメニモ英國臣民若クハ他ノ者ノタメニモ支那ノ長城以
 北ニ於ル鐵道敷設ヲ要求セズ且其地方ニ於テ露國ノ支持スル鐵道許可ニ對ス
 ル要求ヲ直接間接ヲ問ハズ妨害セザルコトヲ約ス

第二、露國ハ自國ノタメニモ露國臣民若シクハ他ノ者ノタメニモ支那ノ揚子
 江流域ニ於テ鐵道敷設ヲ要求セズ且其地方ニ於テ英國ノ支持スル鐵道許可ニ
 對スル要求ヲ直接間接ヲ問ハズ妨害セザルコトヲ約ス

第三、右規約ハ既ニ契約ノ調印ヲ終リタル山海關牛莊間ノ鐵道ニ對スル香港
 上海銀行ノ借款契約ニ對シテハ拘束力ヲ有セザルモノトス

第四、 小黑山ヨリ新民屯ニ至ル支線ハ支那自ラ之ヲ築造スベク其技師ハ必ズシモ英人タルヲ要セザルモ歐人ヲ任命スベシ

B. 本公債引受契約主要條件

- 一、債 權 者 香港上海銀行
- 二、契約調印月日 一八九八年十月十日
- 三、起 債 額 英貨三百三十萬磅
- 四、手 取 額 九〇但シ市場不況ノ場合ニハ八八マデ發行價格ヲ引下グルコトヲ得
- 五、利 子 年五分每年二月一日八月一日之ヲ支拂フ
- 六、手 數 料 取扱金額ノ千分ノ二半
- 七、擔 保 北京山海關間現存鐵道線路車輛其他一切ノ財產及運賃其他ノ利益並ニ新線路敷設後之ガ運賃及利益ヲ擔保トシ清國政府之ヲ保證スベシ若シ年賦償還金延滞スル時ハ其完済ニ至ルマデ前述各線路及一切ノ財產ヲ會社ニ引渡シテ管理權ヲ行使セシムベク尙

本借款完済前ハ銀行ノ承諾ナクシテ右擔保ヲ第二擔保トシテ他者ニ提供スルヲ得ズ

八、公債支途

從前ノ債務即チ獨逸亞細亞銀行七十萬兩露清銀行六十萬兩及香港上海銀行百二十四萬兩ヲ辨済シ中後所ヨリ新民屯ニ至ル線路敷設及營口ニ至ル鐵道延長費並ニ女兒河ヨリ南票ニ至ル支線ノ敷設其他線路改築車輛增加等ノ資ニ供ス

九、償還期限

四十五年

十、償還方法

五年間据置六ケ年目(一九〇五年)ヨリ每年八月一日五萬七千五百磅宛ヲ四十ケ年賦償却ス但シ清國ノ都合ニヨリ三ケ月ノ豫告ヲ以テ額面價格二割増ニテ定額以上ヲ償還スルコトヲ得

十一、公債發行地

一八九九年二月六日英國倫敦ニテ發行ス價格九十七磅

十二、特殊條件

本借款存續中一切ノ經營管理ヲ英人技師長ニ委任スベク本鐵道ハ決シテ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ拋棄セザルモノトス

C 借款現存額償還資金及營業決算

償還既濟高及未償却現存額

償還既濟高

四〇二五〇〇磅

未償還現在高

一、八九七、五〇〇磅

償還財源 本公債償還財源左ノ如シ

一、山西陝西河南安徽四省ヨリ十年間毎年各五萬兩ヲ徵收スル鐵道基金

二、本鐵道收益金

營業收支決算 本鐵道收支決算左ノ如シ

年次	總收入	總支出	純益
一九〇四	二二、九四三、三八三元	四、八九九、五〇六元	八、〇四三、八七七元
一九〇五	一二、一九一、一八八元	四、五七六、〇二九元	七、六一五、一五八元
一九〇六	九、九四四、八六六元	六、二五八、五四六元	五、二五五、九四〇元
一九〇七	一〇、九五〇、一二二元	七、六一四、九〇八元	三、三三五、二一五元
一九〇八	一一、〇六二、〇〇〇元	七、七四二、〇〇〇元	三、三二〇、〇〇〇元
一九〇九	一一、三七〇、〇〇〇元	五、七六九、〇〇〇元	五、六〇一、〇〇〇元

其二 京漢鐵道公債

A 本公債募集事情

京漢鐵道ハ始メ清國政府ニテ其資金ヲ自辨スル計畫ナリシモ到底國內ニテ資金ヲ調達スルノ見込ナキニ至リシカバ外債ヲ募集シテ之ガ敷設ニ着手セントシタルニ當時日本ト戰フテ一敗地ニ塗レ亦昔日ノ信用ナカリシ結果其條件苛酷ニシテ流石ノ清國ト雖モ之ヲ借入ルニ躊躇シタリ然ルニ茲ニ白耳義シンデケートノミハ露國ノ使噉ニ基キ表面露國ト何等ノ關係ナキヲ裝ヒテ案外輕キ條件ヲ以テ之ガ引受ヲ申込ミタルタメ窮餘ノ清國ハ其真相ヲ究ムルニ暇アラズ直ニ其申込ニ應ジテ一八九七年三月二十七日第一回借款契約ヲ締結シ次デ七月二十一日第二回借款契約ニ調印シタリ

然ルニ本シンデケートト露國トノ關係ヲ察知シタル當時ノ英國公使マクドナルドハ右契約書規定ニ他國ノ銀行若シクハシンデケートニ之ヲ讓與セザルノ擔保ナキコトニ付清國政府ニ覺書ヲ提出シテ公式ニ反對ノ意見ヲ表明シ且其真相ノ回答ヲ促シタルモ清國ハ言ヲ左右ニシテ之ガ事實ヲ打消シタルガ右契約書規定ニヨル第一回現金拂込期タル一八九八年一月ニ至リ白耳義シンデケートハ前約

ヲ履行セズ別ニ追加條件ヲ提出シテ清國ニ迫リタリ
 蓋シ白國シンドケートガ曩ニ獨リ輕キ條件ヲ以テ其引受ヲ申込ミタルハ他國ヲ
 シテ其投資權ヲ占有セシメザルノ手段ニシテ既ニ正式ノ調印ヲ終リテ確然タル
 優先權ヲ得ルニ至ルヤ先ヅ故障ヲ申込ミテ契約履行ノ延期ヲ計リ其間ニ引受金
 ノ一部ヲ出資セシムベキ佛國トノ協議ヲ終へ更ニ清國ニ提議シテ引受金ノ一部
 ハ露清銀行ヲシテ取扱ハシムルベキコト及同シンドケートノ責任ヲ輕クセシム
 ル條項等ヲ追加條件トシテ契約書ニ記入スベキコトヲ以テシ一八九八年六月二
 十七日遂ニ其目的ヲ達シテ第三回借款契約ノ調印ヲ終リ本公債ノ募集ヲ見ルニ
 至リタリ

B. 本公債引受契約主要條件

一、債 權 者 白耳義シンドケート但シ露佛兩國共大關係ヲ有スルコト既述ノ
 如シ

二、契約調印月日 一八九八年六月二十八日

三、起 債 額 一億二千五百萬法(五百萬磅)但シ第一回一億一千二百五十萬法第

二回一千二百五十萬法

四、手 取 額 九〇

五、利 子 年五分每年六月一日及十二月一日之ヲ支拂フ

六、手 數 料 利子支拂及元金償還事務ヲ取扱フ銀行ニハ手數料トシテ取扱金
 高千分ノ二半ヲ交付ス

七、擔 保 本鐵道線路其他處屬全財產及本鐵道收益ヲ以テ擔保トシ且清國
 政府ハ其總歲入ヲ以テ元利支拂ヲ保證ス

八、公債支途 京漢鐵道敷設費

九、償還期限 二十ヶ年

十、償還方法 償還ハ抽籤ニヨリ毎年同額ヲ償却スルモノトス但シ一九〇七年

以後ハ清國政府ノ都合ニヨリ何時タリトモ全額ノ償還ヲナスコ
 トヲ得ルノ規定ナリシ結果一九〇八年本公債全部ヲ償還シテ本
 契約ヲ解除シ其權利ヲ回收シテ郵傳部ノ管理スル處トナリタリ
 十一、公債發行地 露佛白

十二、特殊條件

白國シンデケートハ清國政府ニ代リテ工事ヲ管理シ並ニ本契約
存續中本鐵道ノ經營ヲ司ドルベク其間報酬トシテ純益二割ノ配
當ヲ受クベキモノトス

白國シンデケートト清國政府又ハ其人民トノ間ニ紛議ヲ生ジタ
ル時ハ在清白國公使之ヲ裁斷ス

C. 本公債償却始末及營業決算表

清國政府ハ一九〇八年十月香港上海銀行 Hongkong and Shanghai Banking Corporation
及印度支那銀行 Banque de Indo-Chine ヨリ郵傳部事業公債五百萬磅ヲ募集シ次デ
收贖京漢鐵路公債一千萬元ヲ發行シテ本公債ヲ償還シ以テ白國シンデケートト
Belgian Syndicate トノ關係ヲ斷チタリ今郵傳部ノ發表セル其報告ヲ見ルニ白國シン
デケートニ返還シタル借款金合計ハ一億二千七百三十九萬五千九百九十四法ニシ
テ其ノ資金ハ内九千四百三十五萬八千四百法(三百七十六萬磅)ヲ郵傳部事業公債
手取金四百萬磅(額面金額五百萬磅)手取八〇ノ割合)ニテ殘部三千三百〇三萬六千
七百九十四法(清貨一千百六十四萬八千三百八十五兩三錢九厘)ハ内五百萬兩ヲ度

支部ヨリ一百萬兩ヲ大清銀行ヨリ及六百五十萬兩ヲ日英獨佛各銀行(香港上海銀
行三百萬兩獨逸亞細亞銀行百三十萬兩印度支那銀行百二十萬兩兩及橫濱正金銀行
百萬兩)ヨリ各三ヶ月ノ期限ヲ以テ之ヲ借入レ之カ償還ノ用ニ供シタリト而シテ
度支部ヨリ借入シタル五百萬兩ハ京奉京漢兩鐵道ノ收益ヲ以テ一九〇九年一月
ヨリ一九一四年ニ至ル五年間ニ返却ノ豫定ナリシガ之資金ハ后海軍再興費ニ轉
用サルルニ至リ各銀行ヨリ借入シタル六百五十萬兩ハ收贖京漢鐵路公債ヲ募集
シテ償却スル豫定ナリシモ此計畫ハ同公債ノ募集甚ダ不成績ナリシ結果遂ニ亦
外債ヲ起シテ之ガ支拂ヲナサザルベカラザルニ至リタリ

本鐵道營業收支決算 最近數年間ノ營業成績左ノ如シ

年次	總收入	總支出	純益
一九〇六年	七,二八四,〇三七元	四,四一九,二三九元	二,八六四,七九五元
一九〇七	八,八九〇,四九五元	五,六七二,一六四元	三,二一八,三二五元
一九〇八	九,九七〇,〇〇〇元	六,八五三,〇〇〇元	三,一一七,〇〇〇元
一九〇九	一一,一〇〇,〇〇〇元	三,九一〇,〇〇〇元	七,二〇〇,〇〇〇元

其三 正太鐵道公債

A. 本公債募集事情

本鐵道ハ京漢鐵道枕頭驛ヨリ平定府平澤地方ノ炭山ヲ經テ山西省太原府ニ至ルモノニシテ京漢鐵道ノ未ダ清國ニ回收セラレザリシ以前京漢鐵道ニ對シ事實上霸權ヲ有シタリシ露國ハ同鐵道ノ支線トシテ本鐵道ヲ敷設シ一ハ以テ所謂勢力範圍ノ擴張ヲ計ルト同時ニ一ハ以テ山西石炭搬出ノ用ニ供センタメ山西商務局ヲ懲憑シテ一八九八年五月十七日先ツ山西鐵道合同條約ヲ締結シ后一九〇三年更ニ正定太原鐵道借款契約ヲ締結シテ茲ニ本公債ノ募集ヲ見ルニ至リシナリ

B. 本公債引受契約主要條件

- 一、債 權 者 露清銀行 Russo-Asiatic Bank
- 二、契約調印月日 一九〇三年八月
- 三、起 債 額 四千萬元(一百六十萬磅)每券五百法
- 四、手 取 額 九〇
- 五、利 子 年五分每年九月一日及三月一日之ヲ支拂フ
- 六、擔 保 本鐵道ノ財産全部及其收益ヲ擔保トシ且清國政府ハ其總收入ヲ

以テ本公債元利償却ヲ保證ス

七、公債支途 正太鐵道敷設費

八、償還期限 三十年

九、償還方法 据置十ヶ年ノ后二十ヶ年間毎年同額ヲ償還スベク据置期限經過后ハ清國ノ都合ニヨリ本契約規定ノ金額ニ拘ハラズ借款全部ヲ

償還シテ本契約ヲ解除スルコトヲ得

十、公債發行地 佛國パリ及露國セントピータースブルグ

十一、特殊條件 露清銀行ハ本公債存續中本鐵道ヲ經營シ其間報酬トシテ純益金

ヨリ本公債利子ヲ控除シタル殘高ノ二割ヲ受取ルベキモノトス
備考 本鐵道ノ營業成績ハ甚ダ不良ニシテ毎年約六十萬元ノ缺損ヲ生ジ居リタルガ利權回收熱ノ結果山西人出資シテ一九一二年公債全部ヲ償還シ本契約ヲ破棄シタリ

其四 汴洛鐵道公債

A 本公債募集事情

本公債ハ一九〇三年團匪事變ノ漸ク落着シテ清國上下外人ヲ畏敬セルニ乘ジ露佛白諸銀行ハ白耳義シンヂケートナル名義ノ下ニ巧ニ當局者ヲ説キ鐵路大臣盛宣懷ト契約シテ募債セシメタルモノナリ

B 本公債引受契約主要條件

一、債 權 者 白耳義シンヂケート

二、契約調印月日 一九〇三年八月二十五萬法及一九〇七年三月一千六百萬法ノ

公債引受ヲ契約ス

三、起 債 額 四千一百萬法(百六十四萬磅)

四、手 取 額 第一回九〇。第二回九五。五ノ割

五、利 子 年五分毎年一月一日及七月一日之ヲ支拂フ

六、擔 保 本鐵道全財產及其收益ヲ擔保トシ且清國政府其元利支拂ヲ保證

ス

七、公債支途 開封河南鐵道敷設費

八、償還期限 三十年

九、償還方法 公債發行後十ヶ年据置十一年目ヨリ二十ヶ年間毎年同額ヲ償還

ス但シ据置期間經過後ハ清國ノ都合ニヨリ何時ニテモ公債全部ヲ償還シテ本契約ヲ破棄スルコトヲ得

十、公債發行地 露佛白

十一、特殊條件 本公債未償還中ハ白國シンヂケート本鐵道管理經營ヲ代辨シ其間報酬トシテ純益十分ノ二ヲ受クベキモノトス

備考 本鐵道ハ一九〇九年一月全部開通シタルモ其營業成績不良ニシテ爾後每年約六十萬元ノ缺損ナリト言フ

其五 南寧鐵道公債

A 本公債募集事情

日清戰後支那ノ實力暴露シテ所謂眠レル獅子ニ非ザルヲ知ルヤ各國互ニ利權ヲ要求シテ止マズ露國ハ京漢鐵道ヲ掌裡ニ据リ佛國亦雲南地方ニ於ル鐵道敷設權ヲ得ルニ至ルヤ一八九八年五月英國ハ之カ對抗策トシテ其勢力範圍ナル中清地方ニ於ル鐵道敷設權ノ讓與ヲ迫リ公文ヲ提出シテ上海南京間ノ鐵道ハ必ズ英國

Jardine, Matheson & CO.ヲシテ敷設セシメラレタキヲ申込ミタリ清廷之ヲ喜バザリシト雖モ曩ニ露佛ニ敷設ヲ許シタルコトナレバ英國ノ提案ヲ拒絕スルノ理由ナク盛宣懷ニ電命スルニ之カ協商ヲ遂グベキヲ以テシタリ茲ニ於テ盛宣懷ハ同商會及香港上海銀行代表者ト協商ヲ開始シ先ツ同月下旬英清組合 British and Chinese Corporationト假契約ヲ締結シテ三百萬磅借款ヲ約シタルニ偶々南阿戰爭及義和團事件ノ起ルアリタメニ其後ノ協商遲延シテ空シク數年ヲ經過シタル後一九〇三年七月ニ至リ英國側ハ上海駐在ノ總領事バイロン、プレナンヲ代表者トシ協議ヲ再開セシメタル結果假契約ヲ修正シテ募債額ヲ三百二十五萬磅トシ茲ニ調印ヲ終リタリ

然ルニ本契約世上ニ發表サル、ヤ地方人民之カ破棄ヲ呼ビテ止マズ猛烈ニ反對シテ之カ履行ヲ妨害シタリシカバ英國モ遂ニ多少ノ讓歩ヲナシテ借款額ヲ二百九十萬磅ニ減ジ其局ヲ結ビタリ

B 本公債引受契約主要條件

一、債 權 者 英清組合

二、契約調印月日 一九〇三年七月九日

三、起 債 額 二百九十萬磅

四、手 取 額 九〇

五、利 子 年五分六月一日及十二月一日之ヲ支拂フ

六、手 數 料 取扱銀行手数料トシテ其取扱金額千分ノ二五ヲ交付ス

七、擔 保 本鐵道線路其他ノ全財産及其收益ヲ擔保トシ英清組合ノ承諾アルニ非ザレバ内外債ヲ問ハズ右財産ヲ擔保トセズ且清國政府其

總歲入ヲ以テ元利支拂ヲ保證ス

八、公債支途 本鐵道敷設費

九、償還期限 五十年

十、償還方法 本鐵道敷設工事完成後二ケ年若クバ公債ノ全部又ハ一部拂込ノ

後五ケ年ヲ經過セバ毎年二回六ヶ月毎ニ元金ノ償還ヲナスベク

本公債發行後十二ケ年半ヲ經過セバ清國政府ハ其都合ニヨリ何

時ニテモ六ヶ月ノ豫告ヲ以テ公債全部ヲ一時ニ償還スルコトヲ